

田 原 市  
男女共同参画推進に関する  
市民アンケート調査  
調査結果報告書

平成 23 年 10 月

田 原 市



# 目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	アンケート調査結果から見た田原市の特性	3
1	国の調査結果との比較	3
2	全体集計における特徴的事項	4
3	男女別集計における特徴的事項	6
4	年代別集計における特徴的事項	8
III	調査結果	11
1	回答者属性	11
2	男女平等について	14
	男女平等に関する回答結果のまとめ	33
3	結婚、家庭生活について	34
	結婚、家庭生活に関する回答結果のまとめ	61
4	子育て、子どもの教育について	62
	子育て、子どもの教育に関する回答結果のまとめ	67
5	働くことについて	68
	働くことに関する回答結果のまとめ	86
6	地域活動・社会活動について	87
	地域活動・社会活動に関する回答結果のまとめ	102
7	介護について	103
	介護に関する回答結果のまとめ	107
8	人権について	108
	人権に関する回答結果のまとめ	118

9	男女共同参画の施策について	119
10	自由回答	123
IV	アンケート調査票	124

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、本市が『田原市男女共同参画推進プラン（平成 19 年度策定）』に基づき、市民すべてが男女共同参画の十分な理解と意識を持ち、性別に関係なく、あらゆる社会的な活動に意欲を持って参加でき、男女がお互いに人権を尊重し、自分らしく輝ける魅力的なまちとなることを目指し、様々な事業に取り組むために市民の考えを調査し、効果的な事業推進を行うことを目的として実施しました。

## 2 調査対象

市内在住の 20 歳以上の男女 1,000 名を無作為抽出

## 3 調査期間

平成 23 年 9 月 15 日～9 月 29 日


## 4 調査方法

郵送による配布・回収

## 5 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
1,000 通	411 通	41.1%

## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

- ・ 調査回答者を属性で区分した件数は実数として表示し、回答率は属性別の件数を100%ベースとして算出しています。また、性別不明な回答があったため、男女計は全体数を下回っています。
- ・ 本報告書の表、グラフ等の見出し及び文章中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合があります。
- ・ 調査結果の分析においては、前回の田原市の調査と比較しています。各比較調査の詳細は以下の通りです。

調査主体	調査名	調査時期
国(内閣府)	男女共同参画に関するアンケート調査	平成 21 年 10 月
愛知県	男女共同参画意識に関する調査	平成 20 年 9 月
田原市	田原市男女共同参画推進プランに関する 市民アンケート調査	平成 20 年 8 月
田原市	田原市男女共同参画推進計画推進計画 策定にあたっての市民アンケート調査	平成 18 年 3 月

## II アンケート調査結果から見た田原市の特性

### 1 国の調査結果との比較

●次の5つの項目において、国と田原市の調査結果を比較しました。

(1) 社会全体の男女平等感 (問 13、P21)

……男女平等と回答した率 (国 23.2% : 田原市 8.5%)

※留意 田原市は「わからない」の回答率が高い (国 1.6% : 田原市 8.3%)

(2) 家庭生活の男女平等感 (問 14、P23)

……男女平等と回答した率 (国 43.1% : 田原市 25.8%)

※留意 田原市は「わからない」の回答率が高い (国 1.9% : 田原市 4.6%)

(3) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべき (問 20、P52)

……反対と回答した率 (国 23.8% : 田原市 16.8%)

※留意 田原市は「わからない」の回答率が高い (国 3.6% : 田原市 12.9%)

(4) 女性が職業を持つことに対する考え (問 27、P71)

……子どもができてもずっと職業を続けるほうがよいと回答した率

(国 45.9% : 田原市 31.6%)

※傾向 田原市は「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」の回答率が高い (国 31.3% : 田原市 39.7%)

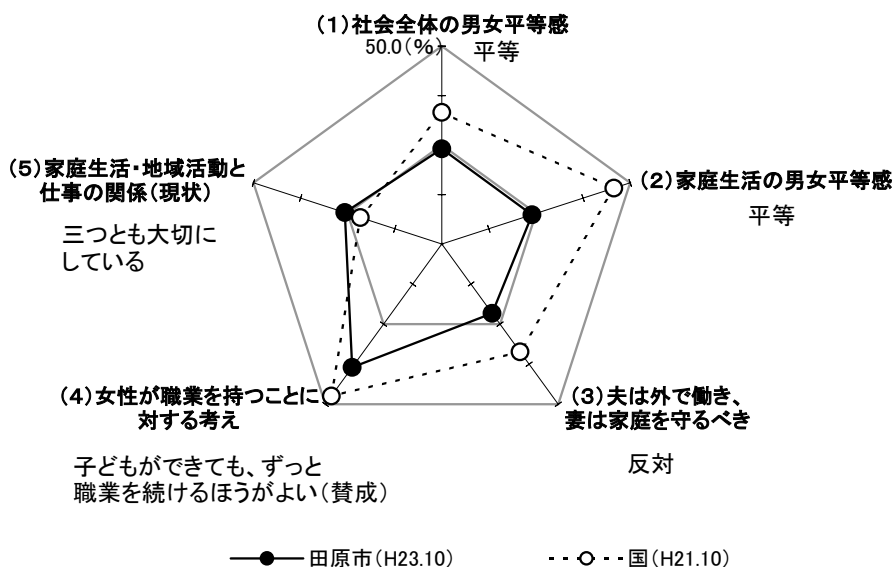
(5) 家庭生活・地域活動と仕事の関係 (現状) (問 33、P82)

……家庭生活・地域活動と仕事の三つとも大切にしていると回答した率

(国 4.6% : 田原市 11.2%)

※傾向 田原市は「仕事を優先している」の回答率が高い

(国 25.8% : 田原市 37.1%)



《傾向分析》家庭生活・地域生活と仕事の関係以外の項目で国の調査を下回っている。

## 2 全体集計における特徴的事項

### 男女共同参画社会の推進に関する回答状況

- ・「取り組みを知っていた」が約3割。  
＜前回調査より減少（平成20年度37.5%：平成23年度35.3%）＞
- ・女性20歳代、30歳代、男性30歳代で「取り組みを知らなかった」が他の年代より高い。  
＜前回調査より増加（20歳代女性平成20年度44.8%：平成23年度60.0%、30歳代女性平成20年度37.8%：平成23年度48.1%、30歳代男性平成20年度35.0%：平成23年度50.0%）＞
- ・必要と考える理由は、「能力・個性を發揮した多様な生き方が選択できる社会づくり」が約6割。  
＜前回調査より増加（平成20年度59.8%：平成23年度62.3%）＞
- ・障害要因は、「家事・育児・介護などを女性の役割とする意識がある」が約3割。
- ・推進策は、「保育・介護サービスの充実」が4割、「女性差別・暴力根絶」や「女性の政策決定の場への積極的な登用」、「男女平等」が2割。

### 男女平等に関する回答状況

- ・「男性優遇と感じる」が8割。
- ・平等は、「学校教育」が5割、「法律や制度」が4割。
- ・男性優遇は、「慣習やしきたり」が7割、「家庭生活」と「職場」が6割。

### 望ましい生き方に関する回答状況

- ・希望として、男女とも「家庭生活・地域活動と仕事を両立」が3割台。
- ・男性は「仕事優先」、女性は「家庭生活、地域活動と仕事を両立」の傾向が強い。
- ・「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」に賛成3割、反対5割。
- ・「相手に満足できなければ離婚すればよい」に賛成・反対の割合はともに4割。

### 男女の役割分担に関する回答状況

- ・「家事は男女同程度又は女性が主で男性手伝い」、「近所づきあいは男女同程度」を理想とするが、「家事は女性」が現実。  
＜家庭の役割では、「すべて女性が担当する」が前回調査より減少＞
- ・男性が家事・育児・介護に携わるためには、「社会全体の仕組みを改める」と「十分な話し合い」が必要。
- ・「女性は結婚したら家庭中心に生活した方がよい」に賛成・反対の割合はほぼ同数。
- ・「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」に賛成・反対の割合はほぼ同数。



## 子どもの育て方に関する回収状況

- ・「男らしく、女らしくがよい」、「男も女も区別しない方がよい」がともに4割。  
＜「男も女も区別しない」が前回調査より増加（平成20年度31.6%：平成23年度36.0%）＞
- ・学校教育の必要性では、「生活や進路で男女の別ない指導」が6割、「異性を思いやる気持ちを教える」、「男女ともに家事・育児・介護を学習」が5割。

## 就労環境に関する回答状況

- ・就業理由の5割が「生計を立てるため」、2割が「家計の足しにするため」。
- ・女性の6割が退職の経験を持ち、その理由は結婚が4割、出産が1割。  
＜前回調査より「介護退職」の割合が増加（平成20年度1.4%：平成23年度4.3%）＞
- ・育児のために職に就けない女性が2割（働けない理由として最も高い）。  
＜前回調査より介護・家事・育児により働けない女性が減少＞
- ・女性が働ける環境を整える手段は、「夫・家族の理解・協力」、「職業・家庭両立への職場の理解」がともに5割、「育児・保育への支援充実」が3割。  
＜前回調査より「育児・保育への支援充実」が増加（平成20年度29.1%：平成23年度31.6%）＞
- ・職場において、「男女差別はない」が7割、「不当な差別がある」が1割。
- ・女性が不当差別を感じるのは「昇進、昇格の差別」が最も高く、「賃金の差別」が続く。

## その他の回答状況

- ・ボランティア活動への参加意欲は男女ともに高いが、自治会活動・青少年活動等への参加意欲は低く、その理由は仕事などで忙しいこと。
- ・施策づくりの場に、「女性代表者が増えるとよい」が5割、「半分は女性代表者が占めるべき」が1割。  
＜前回調査より「半分は女性代表者が占めるべき」が増加（平成20年度11.6%：平成23年度13.4%）＞
- ・委員会への女性登用率が低い理由は、「女性の社会進出条件が不十分」、「女性自身が社会進出に消極的」がともに4割。
- ・介護の理想は、「介護保険制度利用」が4割、「家族全員での世話」が3割、「介護施設利用」が2割。
- ・一般的知識として、セクシャル・ハラスメントの認知度は6割。
- ・一般的知識として、ドメスティック・バイオレンスの認知度は5割で、2割以上が配偶者からドメスティック・バイオレンスを受けた経験があるが、そのことを他人に相談した経験はうち3割に留まる。

### 3 男女別集計における特徴的事項

#### 男女共同参画社会の推進に関する回答状況

- ・男性回答 男女共同参画社会への取り組みを知っていた割合は女性より高い。
- ・女性回答 必要と考える理由に「労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に活かすことか必要になること」を挙げる割合は男性より高い。
- ・男性回答 男女共同参画社会の実現の阻害要因に「男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していない」と「家庭や地域社会より仕事を重視する意識が男性や女性にあること」を挙げる割合は女性より高い。
- ・女性回答 推進策は、「保育・介護サービスの充実」が5割あり、男性より1割以上高い。
- ・男性回答 推進策として、「政策決定の場への女性登用」と「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う」を挙げる割合は女性より高い。

#### 男女平等に関する回答状況

- ・女性回答 「男性の方が優遇されている」と感じる割合は男性より高い。
- ・女性回答 すべての項目において、男性より平等感が低い。
- ・「法律や制度は男女平等と認識している」のは、男性が5割、女性が3割（差が大きい）。

#### 望ましい生き方に関する回答状況

- ・女性回答 家庭生活・地域活動と仕事のバランスの理想は、女性には「両立」(4割)、男性には「仕事優先」(3割)と「両立」(4割)を求める割合が高い。
- ・男性回答 家庭生活・地域活動と仕事のバランスの理想は、女性には「家庭・地域を優先」(2割)と「両立」(3割)、男性には「仕事優先」(5割)と「両立」(4割)を求める割合が高い。
- ・女性回答 「離婚すると女性の方が不利である」に賛同する割合は男性より高い。

#### 男女の役割分担に関する回答状況

- ・家庭の役割では、女性は男性よりも「すべて女性が担当」と回答する割合が高く、男性は「女性よりも男女同じ程度」と回答する割合が高い(意識差がある)。
- ・男性回答 家庭での役割の理想で、食事関係をすべて女性に求めている割合は女性より高い。

- ・男性回答 男性が家事・育児・介護に携わるためには、「社会全体の仕組みを改める」の割合は女性より低い。
- ・女性回答 男性が家事・育児・介護に携わるためには、「家庭での教育の必要性」の割合は男性より高い。
- ・男性は「女性は結婚したら家族中心の生活」に賛成の割合が高く、女性は反対の割合が高い。
- ・男性は「夫は外で働き妻は家庭を守るべき」に賛成の割合が高く、女性は反対の割合が高い。
- ・男性は女性より、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」に反対が2割程度多い。

#### 子どもの育て方に関する回答状況

- ・男性回答 「男らしく、女らしくがよい」が約5割と、女性よりも2割高い。
- ・女性回答 学校教育では「男女ともに家事・育児・介護を学習」の必要性は男性より高い。

#### 就業環境に関する回答状況

- ・「生計を立てるために働いている」は男性で7割、女性で3割。
- ・職場において「不当な差別が多い」と感じる割合は、男性よりも女性の方が高い。

#### その他の回答状況

- ・女性回答 自治会活動する参加(参加意志)の割合は男性より低い。
- ・「施策づくりに女性代表者が参加すべき」という考えは女性よりも男性の方が多い。
- ・セクシャル・ハラスメントは、女性の1割が体験。

## 4 年代別集計における特徴的事項

### 20歳代

- ・男性が家事・育児・介護に携わるために必要な取り組みは、「勤務体制の改善」の割合が年代間で最も高い。
- ・「女性の幸福は結婚」と考える割合が年代間で最も低い。
- ・「女性は結婚したら家庭中心に生活した方がよい」に賛成の割合が年代間で最も低い(3割)。
- ・「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」に賛成の割合が年代間で最も高い(6割)。
- ・「離婚すると女性の方が不利」に賛同の割合が年代間で最も高い(4割)。
- ・学校教育では、「管理職に女性を増やしていく」を必要とする割合が年代間で最も高い(2割)。
- ・子どもの育て方は、「男も女も区別しない方がよい」の割合が年代間で最も高い。
- ・女性が働き続けるために必要な支援は、「給与や仕事内容、昇進などの男女差の解消」「育児・介護休養制度の定着」「産前・産後・生理休暇などを取りやすくする」の割合が年代間で最も高い(8割)。
- ・希望として、「家庭生活・地域活動と仕事の両立」の割合は高いが、現実には仕事優先が5割を超える。
- ・施策づくりに「今よりもう少し女性の代表者が増えるとよい」の割合が年代間で最も高い(6割)。
- ・女性登用率が低い理由は、「女性の社会進出条件が不十分」の割合が年代間で最も高い(5割)。
- ・望ましい介護形態は、「家族全員で世話をする」の割合が年代間で最も高い(6割)。  
女性 男女共同参画社会への取り組みを知らない割合が最も高い。  
女性 自らの理想の生き方として、「仕事にも携わるが家庭生活・地域活動を優先」の割合が最も高い。  
男性 自らの理想の生き方として、「家庭生活・地域活動と仕事の両立」の割合が最も高い。  
女性 退職理由の3割は出産。

### 30歳代

- ・男女共同参画の推進理由は「男女とも、その能力と個性を充分に発揮し、多様な生き方を選択できるようにする」の割合が年代間で最も高い。
- ・約8割が「男性の方が優遇されている」。

- ・男性が家事・育児・介護に携わるために必要な取り組みは「社会全体の仕組みを改める」の割合が年代間で最も高い。
- ・子どもの育て方は「男らしく、女らしくがよい」の割合が年代間で最も高い。
- ・女性が働き続けるために必要な支援は、「職場の理解」(7割)、「育児・保育の支援充実」(4割)の割合が年代間で最も高い。
- ・施策づくりに「半分は女性の代表者が占めるべき」の割合が年代間で最も高い(2割)。
- ・男女共同参画社会推進に必要な取り組みは、「保育・介護サービスの充実」、「職場における男女の均等な取扱いの周知徹底」、「女性の就労の機会を増やす」の割合が年代間で最も高い。

#### 40歳代

- ・「男女の平等に基づく人権を確立する」を男女共同参画推進の理由とする割合が年代間で最も高い。
  - ・男女共同参画の阻害要因は「家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識がある」の割合が年代間で最も高い。
  - ・「相手に満足できなければ離婚すればよい」に賛成の割合が年代間で最も高い(4割)。
  - ・女性が働き続けるために必要な支援は、「夫や家族が理解し協力」の割合が年代間で最も高い(6割)。
  - ・希望として、「家庭生活・地域活動と仕事の両立」を望む割合が年代間で最も高い。
  - ・男女平等の意識を育てるために、学校で「生活指導や進路指導において男女の別なく能力を活かせるように配慮する」が年代間で最も高い(7割)。
- 女性 「結婚退職」割合が年代間で最も多い(退職者の7割)。

#### 50歳代

- ・約7割が「男性の方が優遇されている」。
- ・女性登用率が低い理由は、「女性自身が社会進出に消極的」の割合が年代間で最も高い(5割)。
- ・女性は「職場で不当な差別が多い」の割合が年代間で最も高い。
- ・望ましい介護形態としては、「介護保険制度などの利用」、「配偶者が世話」の割合が年代間で最も高い。

女性 8割は退職経験を持ち、50歳代・40歳代の女性の6割は現在就業中。

## 60歳以上

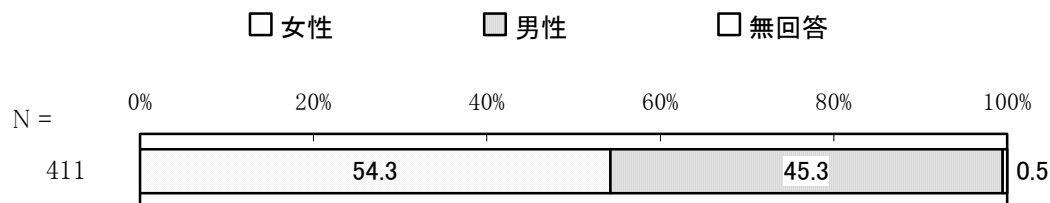
- ・「結婚する・しないは自由」に反対する割合が年代間で最も高い（5割）。
  - ・「女性の幸福は結婚」と考える割合が年代間で最も高い（6割）。
  - ・「女性は結婚したら家庭中心に生活した方がよい」に賛成の割合が年代間で最も高い（6割）。
  - ・「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」に賛成の割合が年代間で最も高い（5割）。
  - ・「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」に反対の割合が年代間で最も高い（6割）。
  - ・子どもの育て方は、「男らしく、女らしくがよい」が4割。
  - ・希望として、「仕事を優先したい」割合が年代間で最も高い。
  - ・男性が家事・育児・介護に携わるために必要な取り組みは、「家庭での教育」の割合が年代間で最も高い。
  - ・望ましい介護形態としては、「介護保険サービス利用」、「介護施設利用」の割合が年代間で最も高く、「家族全員で世話をする」の割合は年代間で最も低い。
- 男性 自らの理想の生き方として、「家庭生活・地或活動よりも仕事に専念」の割合が年代・性別間で最も高い。

### Ⅲ 調査結果

#### 1 回答者属性

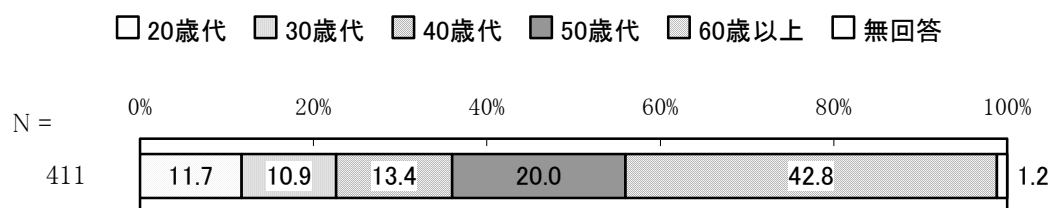
問1 あなたの性別についてお答えください。(1つに○印)

「女性」の割合が54.3%、「男性」の割合が45.3%となっています。



問2 あなたの年齢についてお答えください。(1つに○印)

「60歳以上」の割合が42.8%と最も高く、次いで「50歳代」の割合が20.0%、「40歳代」の割合が13.4%となっています。

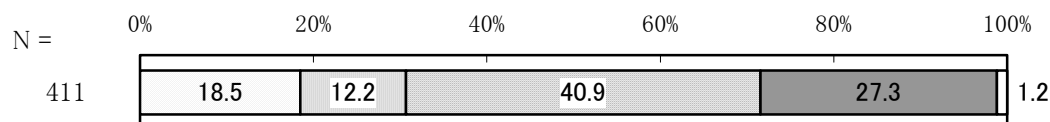


問3 職業についてお答えください。(1つに○印)

(2つ以上仕事をお持ちの方は、主なものを1つお答えください。ここで働いているとは、週に1時間以上働いていることとします。出産休暇、育児休業中の人は働いているものとみなします。)

「勤め人(管理職、専門技術職、事務職、労務職など)」の割合が40.9%と最も高く、次いで「無職(専業主婦・主夫、学生、その他の無職など)」の割合が27.3%、「自営業主(農林漁業、商工サービス業、自由業など)」の割合が18.5%となっています。

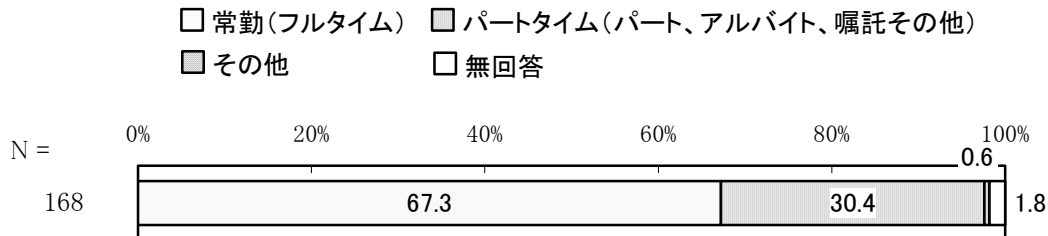
- 自営業主(農林漁業、商工サービス業、自由業など)
- 家族従業者(農林漁業、商工サービス業、自由業など)
- 勤め人(管理職、専門技術職、事務職、労務職など)
- 無職(専業主婦・主夫、学生、その他の無職など)
- 無回答



問4は、問3で「勤め人」と答えた方のみにお聞きします

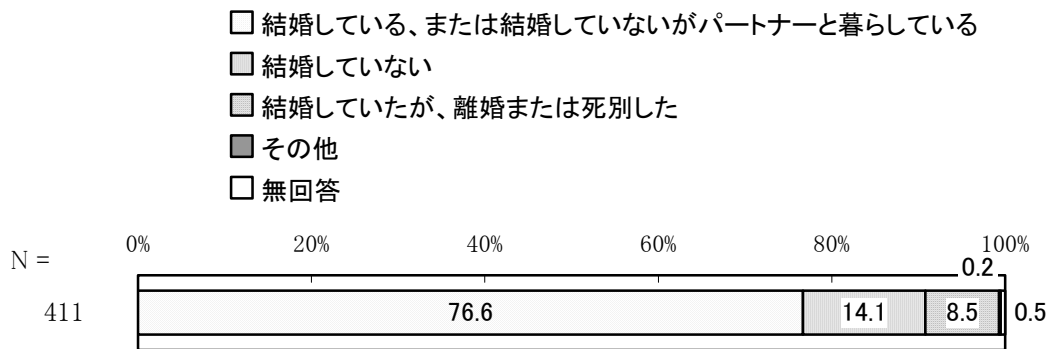
**問4 その仕事は常勤（フルタイム）ですか、パートタイムですか。（1つに○印）**

「常勤（フルタイム）」の割合が67.3%、「パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他）」の割合が30.4%となっています。



**問5 あなたは現在結婚していますか。（1つに○印）**

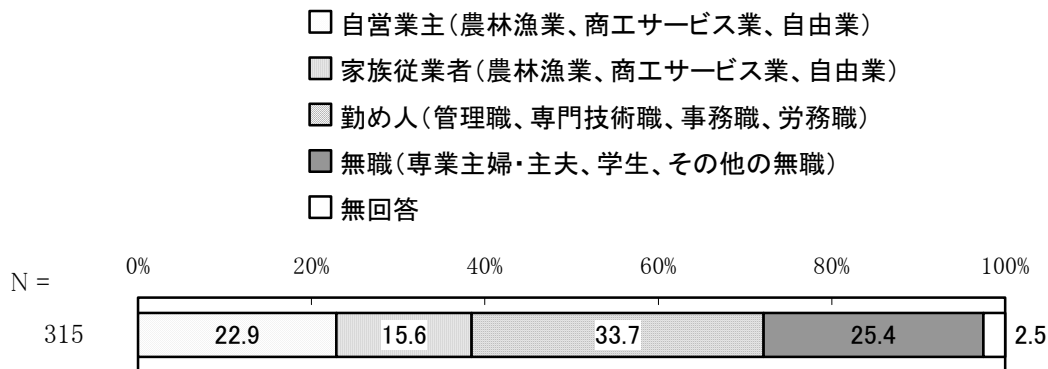
「結婚している、または結婚していないがパートナーと暮らしている」の割合が76.6%と最も高く、次いで「結婚していない」の割合が14.1%、「結婚していたが、離婚または死別した」の割合が8.5%となっています。



問6、問7は、問5で「結婚している、または結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方のみにお聞きします

**問6 あなたの配偶者またはパートナーの勤務形態についてお答えください。（1つに○印）**

「勤め人（管理職、専門技術職、事務職、労務職）」の割合が33.7%と最も高く、次いで「無職（専業主婦・主夫、学生、その他の無職）」の割合が25.4%、「自営業主（農林漁業、商工サービス業、自由業）」の割合が22.9%となっています。

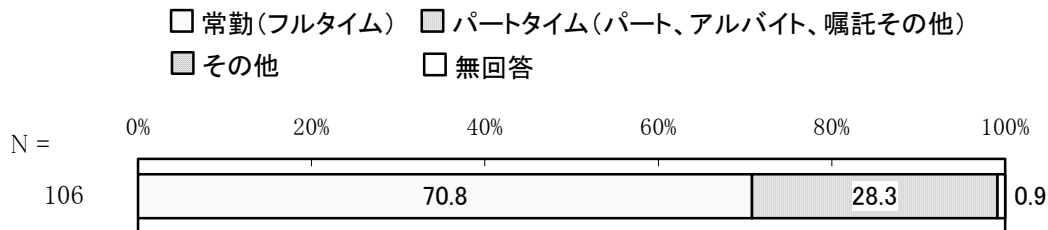




問7は、問6で「勤め人」と答えた方のみお答えください

**問7 その仕事は常勤（フルタイム）ですか、パートタイムですか。（1つに○印）**

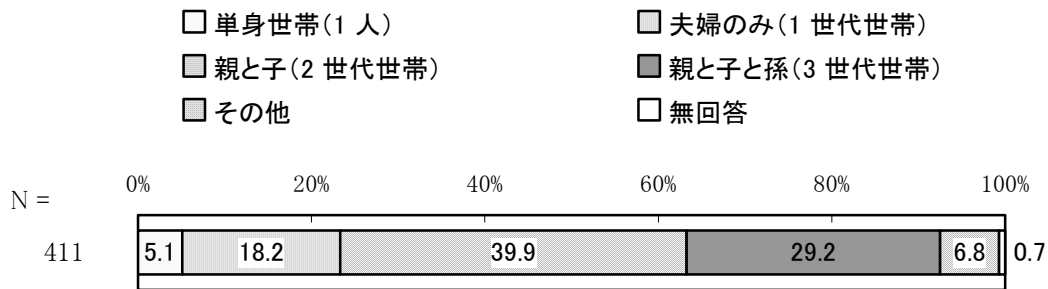
「常勤（フルタイム）」の割合が70.8%、「パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他）」の割合が28.3%となっています。



	問7 配偶者が勤め人の場合の職業形態				
	全 体	常勤	パート タイム	その他	無回答
全 体	106	70.8	28.3	-	0.9
女性	64	90.6	7.8	-	1.6
男性	41	41.5	58.5	-	-

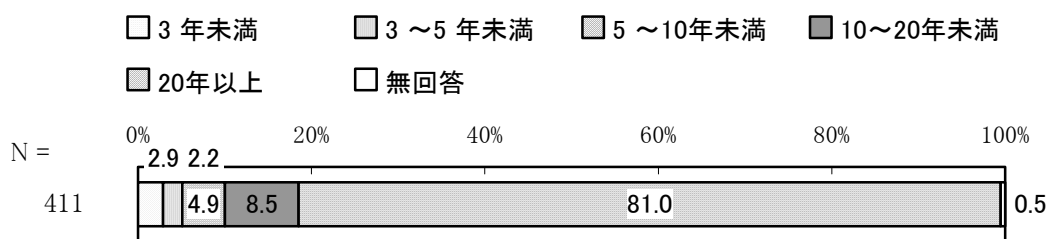
**問8 あなたの家族構成についてお答えください。（1つに○印）**

「親と子（2世代世帯）」の割合が39.9%と最も高く、次いで「親と子と孫（3世代世帯）」の割合が29.2%、「夫婦のみ（1世代世帯）」の割合が18.2%となっています。



**問9 田原市に住んでから何年になりますか。（1つに○印）**

「20年以上」の割合が81.0%と最も高く、次いで「10～20年未満」の割合が8.5%、「5～10年未満」の割合が4.9%となっています。



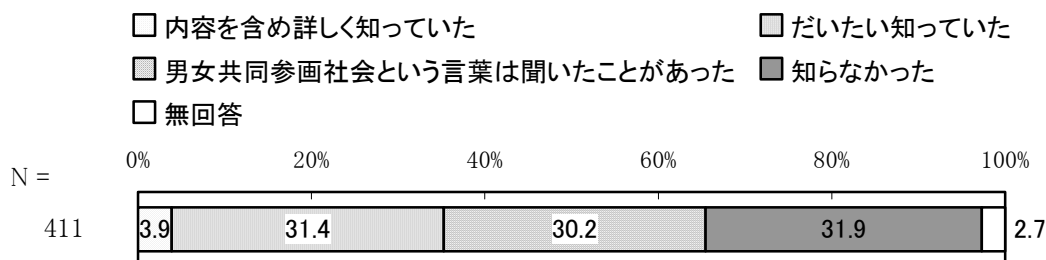
## 2 男女平等について

全員の方にお聞きします

問 10 政府は、男女共同参画推進本部を設置し、男女共同参画社会の実現を目指し、積極的に取り組んでいることを以前からご存知でしたか。(1つに○印)

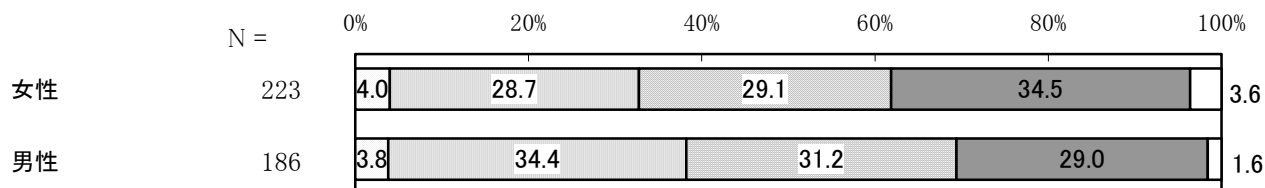
### ～男女共同参画への取り組みを“知っていた”と回答したのは35.3%～

「内容を含め詳しく知っていた」と「だいたい知っていた」をあわせた“知っていた”の割合が35.3%となっています。一方、「知らなかった」の割合が31.9%となっています。



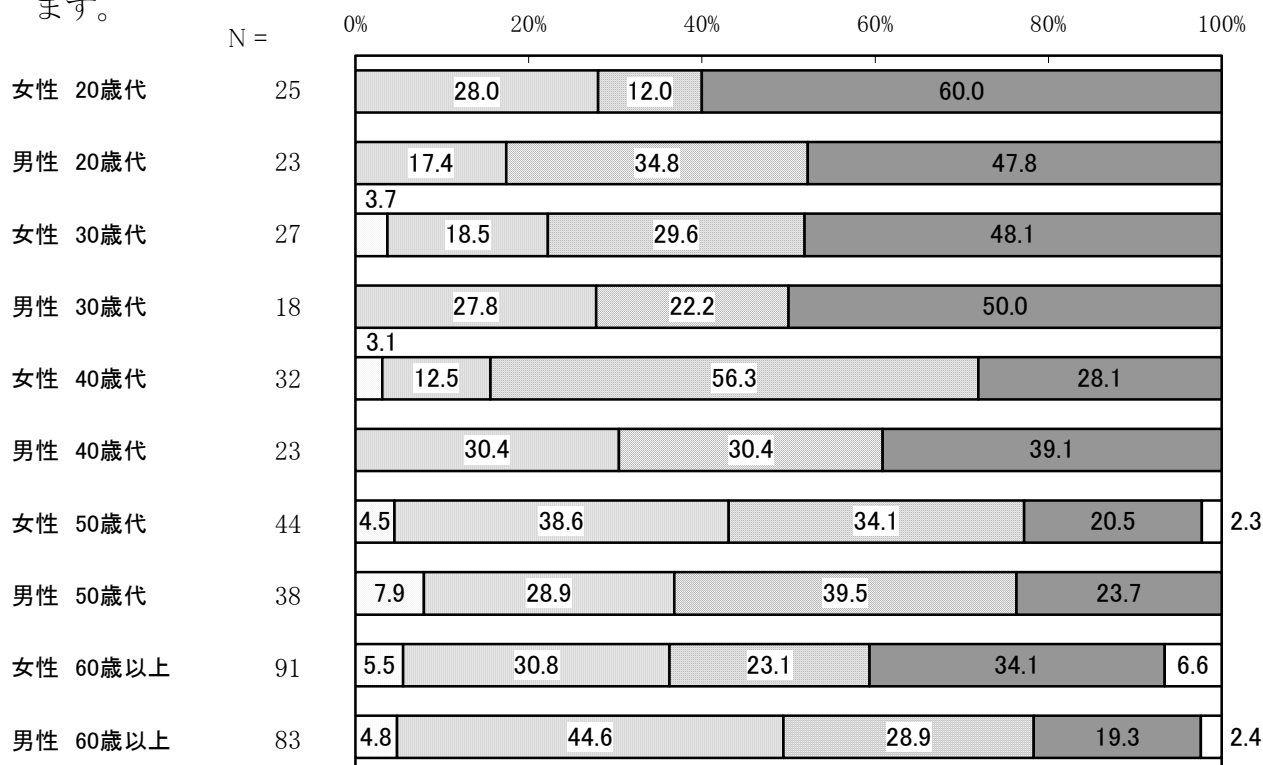
#### 【性別】

性別でみると、女性よりも男性の方が“知っていた”の割合が高くなっています。



#### 【性・年代別】

性別・年代別でみると、20歳代女性の「知らなかった」の割合が最も高くなっています。



【経年比較】

～ “知っていた” と回答した人の割合が前回調査よりも低下～

市の平成 20 年度、17 年度調査と比較すると、認知度は平成 17 年度から 20 年度にかけてわずかに増加していますが、平成 23 年度では 2.2 ポイント減少しています。

単位：％

	たしく内容を 知っています 詳細	てだいた いた 知っ つ	とが あつた こ 言 画 参 画 共 同 女 男 社 会 は 聞 い た こ と が あ つ た	知 ら な か つ た	無 回 答
田原市(H23.10)	3.9	31.4	30.2	31.9	2.7
女性	4.0	28.7	29.1	34.5	3.6
男性	3.8	34.4	31.2	29.0	1.6
田原市(H20.8)	4.9	32.6	29.9	29.9	2.7
女性	2.8	31.3	31.8	31.3	2.8
男性	2.7	33.0	28.0	29.1	2.2
田原市(H18.3)	2.7	34.5	28.7	34.1	-
女性	1.2	31.3	32.3	35.2	-
男性	4.7	38.9	23.9	32.6	-

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）

田原市「田原市男女共同参画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成 18 年 3 月）

～若い年代で “知らなかった” と回答した人が増加～

前回調査の性・年代別と比較すると、女性 20 歳代、30 歳代、男性 30 歳代で「知らなかった」が前回調査よりも 10 ポイント以上増加しており、若い世代の男女共同参画への関心の低下がうかがえます。

単位：％

	たしく内容を 知っています 詳細	てだいた いた 知っ つ	とが あつた こ 言 画 参 画 共 同 女 男 社 会 は 聞 い た こ と が あ つ た	知 ら な か つ た	無 回 答	
田原市 (H23.10)	女性 20 歳代	-	28.0	12.0	60.0	-
	男性 20 歳代	-	17.4	34.8	47.8	-
	女性 30 歳代	3.7	18.5	29.6	48.1	-
	男性 30 歳代	-	27.8	22.2	50.0	-
	女性 40 歳代	3.1	12.5	56.3	28.1	-
	男性 40 歳代	-	30.4	30.4	39.1	-
	女性 50 歳代	4.5	38.6	34.1	20.5	2.3
	男性 50 歳代	7.9	28.9	39.5	23.7	-
	女性 60 歳以上	5.5	30.8	23.1	34.1	6.6
	男性 60 歳以上	4.8	44.6	28.9	19.3	2.4
田原市 (H20.8)	女性 20 歳代	-	34.5	20.7	44.8	-
	男性 20 歳代	3.1	21.9	21.9	53.1	-
	女性 30 歳代	2.7	27.0	32.4	37.8	-
	男性 30 歳代	15.0	15.0	35.0	35.0	-
	女性 40 歳代	4.5	31.8	25.0	36.4	2.3
	男性 40 歳代	13.0	21.7	26.1	34.8	4.3
	女性 50 歳代	2.6	38.5	38.5	17.9	2.6
	男性 50 歳代	2.6	35.9	35.9	20.5	5.1
	女性 60 歳以上	3.0	28.4	35.8	26.9	6.0
	男性 60 歳以上	9.1	43.9	25.8	19.7	1.5

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）

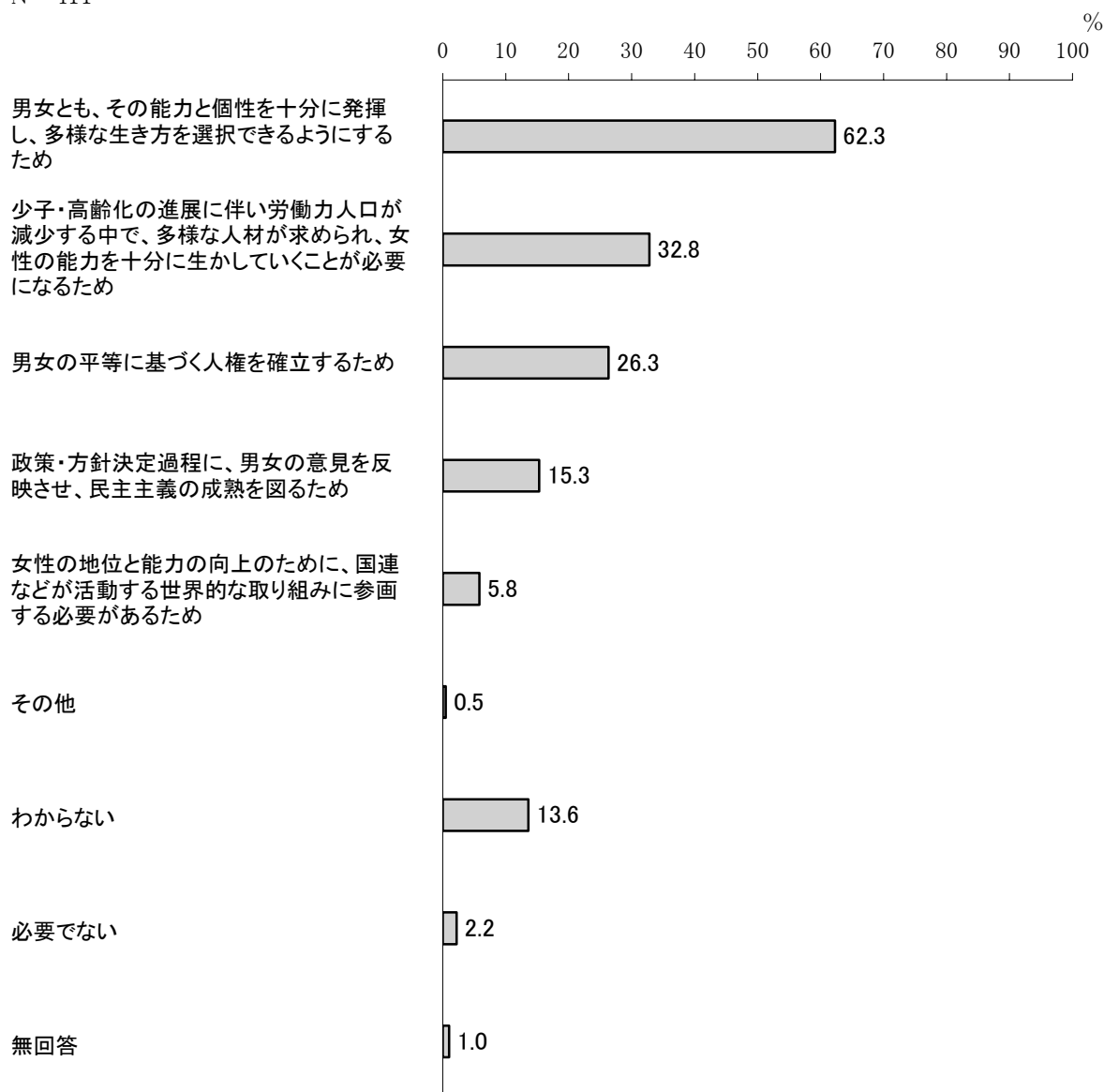
全員の方にお聞きします

問 11 あなたは、田原市において男女共同参画社会が必要な理由は何だと思えますか。  
(2つまで○印)

### ～「男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、 多様な生き方を選択できるようにするため」が6割以上～

「男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、多様な生き方を選択できるようにするため」の割合が62.3%と最も高く、次いで「少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に生かしていくことが必要になるため」の割合が32.8%、「男女の平等に基づく人権を確立するため」の割合が26.3%となっています。

N = 411



【性別・年代別】

～女性で「少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に生かしていくことが必要になるため」が高い～

性別で見ると、女性の方が男性より「少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に生かしていくことが必要になるため」の割合が約9ポイント上回っています。一方、男性の方が女性より「政策・方針決定過程に、男女の意見を反映させ、民主主義の成熟を図るため」の割合が約13ポイント、「男女の平等に基づく人権を確立するため」の割合が約11ポイント上回っています。

～40歳代は「多様な生き方の選択」、  
30歳代は「女性の能力を生かしていくことが必要になるため」～

年代別で見ると、40歳代では「男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、多様な生き方を選択できるようにするため」の割合が最も高く、76.4%となっています。また、30歳代では「少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に生かしていくことが必要になるため」の割合が最も高く、46.7%となっています。

単位：%

区分		有効回答数(件)	男女の平等に基づく人権を確立するため	政策・方針決定過程に、男女の意見を反映させ、民主主義の成熟を図るため	男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、多様な生き方を選択できるようにするため	少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に生かしていくことが必要になるため	女性の地位と能力の向上のために、国連などが活動する世界的な取り組みに参画する必要があるため	その他	わからない	必要でない	無回答
性別	女性	223	21.5	9.4	62.3	36.8	4.9	0.4	17.9	1.3	1.3
	男性	186	32.3	22.6	62.4	27.4	7.0	0.5	8.6	3.2	0.5
年代別	20歳代	48	27.1	10.4	58.3	33.3	6.3	—	16.7	—	—
	30歳代	45	26.7	11.1	64.4	46.7	6.7	2.2	8.9	—	—
	40歳代	55	30.9	10.9	76.4	27.3	3.6	—	9.1	—	—
	50歳代	82	30.5	17.1	61.0	32.9	6.1	—	14.6	2.4	—
	60歳以上	176	23.3	18.2	59.7	31.3	5.7	0.6	15.3	4.0	1.1

【経年比較】

～「多様な生き方の選択」「女性の能力を生かしていくことが必要になるため」が増加～

市の平成20年度、17年度調査と比較すると、「男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、多様な生き方を選択できるようにするため」と「少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に生かしていくことが必要になるため」が男女とも年々増加しています。また、「政策・方針決定過程に、男女の意見を反映させ、民主主義の成熟を図るため」が平成17年度調査に比べ女性で20ポイント程度、男性で9ポイント程度減少しています。

単位：%

	男女の平等に基づく人権を確立するため	政策・方針決定過程に、男女の意見を反映させ、民主主義の成熟を図るため	男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、多様な生き方を選択できるようにするため	少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に生かしていくことが必要になるため	女性の地位と能力の向上のために、国連などが活動する世界的な取り組みに参画する必要があるため	その他	わからない	必要でない	無回答
田原市(H23.10)	26.3	15.3	62.3	32.8	5.8	0.5	13.6	2.2	1.0
女性	21.5	9.4	62.3	36.8	4.9	0.4	17.9	1.3	1.3
男性	32.3	22.6	62.4	27.4	7.0	0.5	8.6	3.2	0.5
田原市(H20.8) 女性	25.8	19.8	58.5	34.6	3.7	1.4	12.9	0.5	2.3
男性	29.1	19.2	61.0	26.9	6.6	0.5	12.1	0.5	1.1
田原市(H18.3) 女性	21.3	30.1	52.8	27.9	4.2	1.5	13.2	6.4	-
男性	31.5	31.5	49.3	24.8	8.7	1.3	7.7	8.1	-

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成20年8月）

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成18年3月）

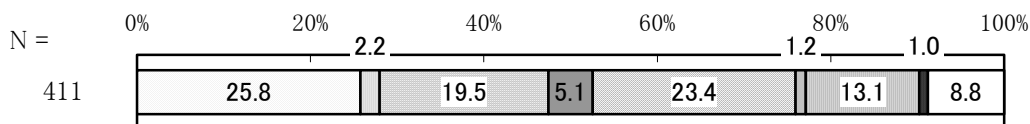
全員の方にお聞きします

問 12 現在、田原市において、男女共同参画社会の実現が十分達成されていない主な要因は何であるとお考えでしょうか。(1つに○印)

「家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること」の割合が25.8%と最も高く、次いで「男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと」の割合が23.4%、「社会全般に男性優位の考え方や慣行が根強いこと」の割合が19.5%となっています。

～「家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること」が2割強～

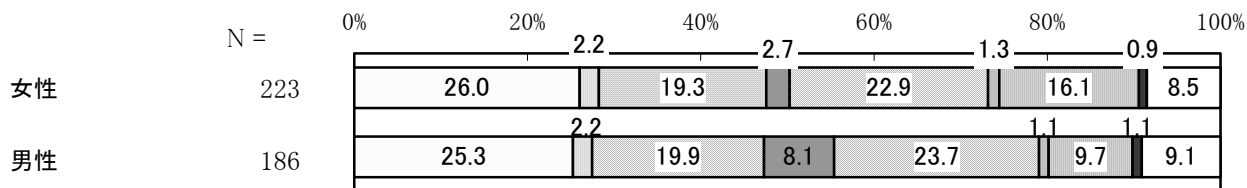
- 家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること
- 職場などにおいて、女性に不利な扱いがなされていること
- 社会全般に男性優位の考え方や慣行が根強いこと
- 家庭や地域社会より仕事を重視する意識が男性や女性にあること
- 男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと
- その他
- わからない
- 十分達成されている
- 無回答



【性別】

～男性で「仕事を重視する意識が男性や女性にあること」が高い～

性別で見ると、女性の方が男性より「わからない」の割合が約6ポイント上回っています。一方、男性の方が女性より「家庭や地域社会より仕事を重視する意識が男性や女性にあること」の割合が約5ポイント上回っています。



【年代別】

～「家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること」は30歳代が40.0%～

年代別でみると、30歳代では「家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること」の割合が最も高く40.0%となっています。また、50歳代では「男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと」の割合が最も高く30.5%となっています。一方、「十分達成されている」と回答した人は20歳代、40歳代、50歳代においては1人もいません。

単位：%

区分	有効回答数(件)	家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること	職場などにおいて、女性に不利な扱いがなされていること	強いこと	社会全般に男性優位の考え方や慣行が根強いこと	家庭や地域社会より仕事を重視する意識が男性や女性にあること	男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと	その他	わからない	十分達成されている	無回答
20歳代	48	33.3	-	18.8	6.3	14.6	2.1	12.5	-	12.5	
30歳代	45	40.0	2.2	22.2	2.2	11.1	6.7	6.7	2.2	6.7	
40歳代	55	30.9	-	18.2	5.5	29.1	-	12.7	-	3.6	
50歳代	82	22.0	4.9	18.3	3.7	30.5	-	13.4	-	7.3	
60歳以上	176	20.5	2.3	19.9	6.3	24.4	0.6	14.8	1.7	9.7	

【経年比較】

～「家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること」は減少  
「男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと」は増加～

市の平成20年度、17年度調査と比較すると、男女とも「家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること」が前回調査よりも減少しています。一方、女性で「男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと」が5ポイント程度増加しています。

単位：%

	家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること	職場などにおいて、女性に不利な扱いがなされていること	強いこと	社会全般に男性優位の考え方や慣行が根強いこと	家庭や地域社会より仕事を重視する意識が男性や女性にあること	男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと	その他	わからない	十分達成されている	無回答
田原市(H23.10)	25.8	2.2	19.5	5.1	23.4	1.2	13.1	1.0	8.8	
女性	26.0	2.2	19.3	2.7	22.9	1.3	16.1	0.9	8.5	
男性	25.3	2.2	19.9	8.1	23.7	1.1	9.7	1.1	9.1	
田原市(H20.8)	38.7	4.6	16.6	3.7	17.5	1.4	14.3	0.0	3.2	
女性	26.4	4.4	19.2	6.6	23.6	2.2	13.2	2.2	2.2	
田原市(H18.3)	33.9	2.4	27.0	5.5	18.6	0.5	12.1	-	-	
女性	22.3	3.2	33.1	6.5	20.9	3.2	10.8	-	-	

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」(平成20年8月)

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」(平成18年3月)



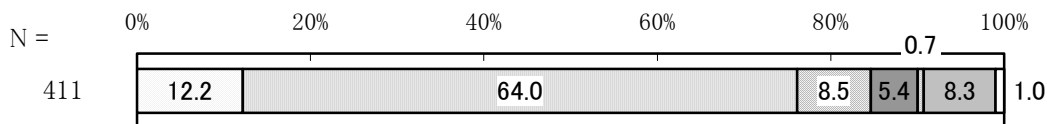
全員の方にお聞きします

問 13 社会全体で見た場合は、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
(1つに○印)

～「平等である」と回答したのは 8.5%～

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性が優遇されている”の割合が 76.2%、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」をあわせた“女性が優遇されている”の割合が 6.1%となっています。一方、「平等である」の割合が 8.5%となっています。

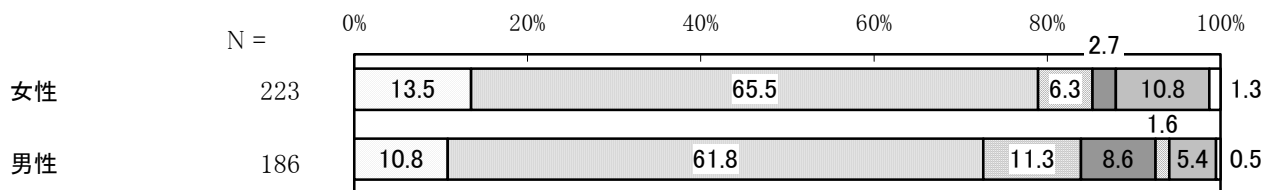
- 男性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない



【性別】

～女性で“男性が優遇されている”が高い～

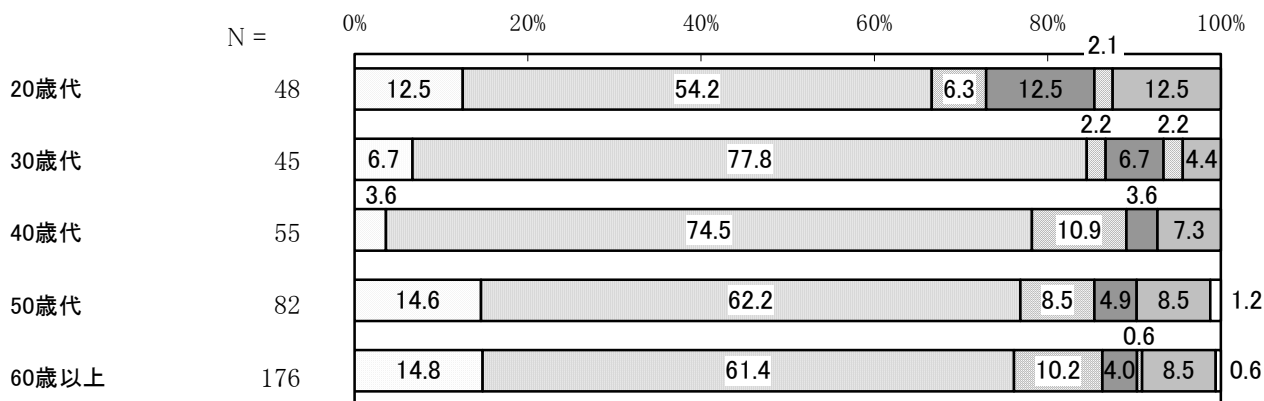
性別でみると、男性よりも女性の方が“男性が優遇されている”の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合は、女性が 6.3%になっており、男性の 11.3%に比べて低くなっています。



【年代別】

～“男性が優遇されている”は 30 歳代で 8 割強～

年代別でみると、“男性が優遇されている”の割合は 30 歳代で最も高く 84.5%となっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

～「平等である」の回答率は国が**23.2%**、**田原市は8.5%**～

国の調査と比較すると、「平等である」が国の調査よりも約15ポイント程度低くなっています。また、県の調査と比較すると約6ポイント低くなっています。

市の平成20年度、17年度調査と比較すると、「平等である」が年々減少しています。一方、“男性の方が優遇されている”割合が前回調査と比べ6.6ポイント増加しています。

単位：%

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
田原市(H23.10)	12.2	64.0	8.5	5.4	0.7	8.3	1.0
女性	13.5	65.5	6.3	2.7	-	10.8	1.3
男性	10.8	61.8	11.3	8.6	1.6	5.4	0.5
田原市(H20.8)	11.6	58.0	6.9	6.4	0.7	12.8	3.5
女性	10.1	63.6	4.1	3.2	-	14.7	4.1
男性	13.2	51.1	10.4	10.4	1.6	11.0	2.2
愛知県(H20.9)	14.3	58.4	14.4	3.2	0.9		8.9
女性	20.0	59.4	9.2	2.0	0.3		9.0
男性	7.5	57.2	20.6	4.5	1.5		8.7
国(H21.10)	9.7	61.9	23.2	3.4	0.3	1.6	-
女性	11.6	66.1	18.0	2.3	0.2	1.9	-
男性	7.5	57.0	29.2	4.6	0.4	1.2	-

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成20年8月）  
 田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成18年3月）  
 愛知県「男女共同参画意識に関する調査」（平成20年9月調査）  
 国（内閣府）「男女共同参画に関するアンケート調査」（平成21年10月調査）

全員の方にお聞きします

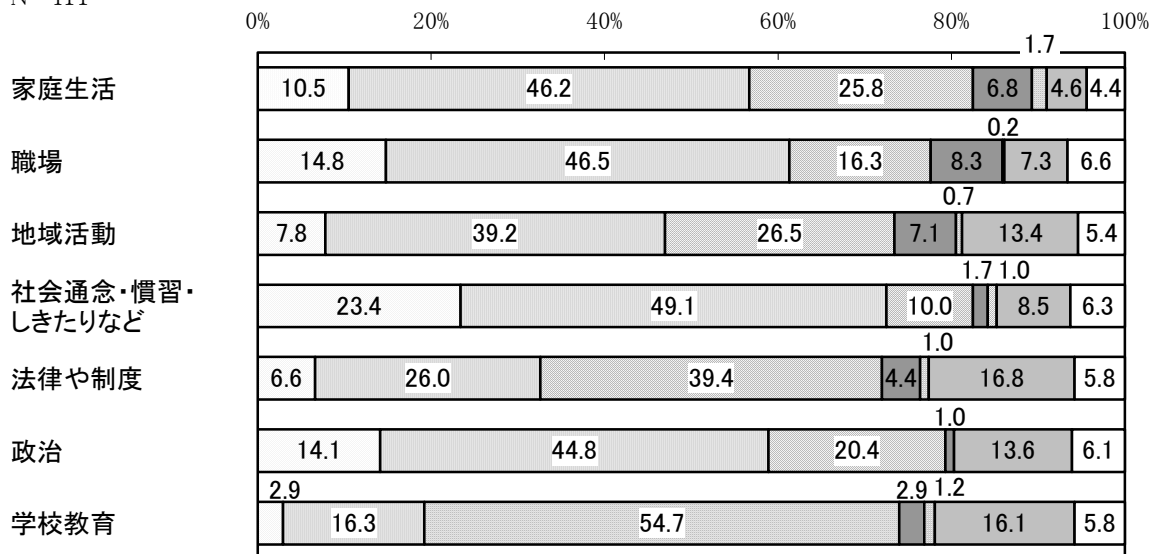
問 14 次のような分野において、現在、男女は平等になっていると思いますか。  
 (①から⑦までそれぞれ1つずつ○印)

学校教育で「平等」の割合が高く、5割を超えています。一方、職場、社会通念・慣習・しきたりなどで、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”と思う人の割合が高く、6割を超えています。

～「学校教育」は平等、「社会通念・慣習・しきたりなど」は男性が優遇～

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平 等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

N = 411



【性別】

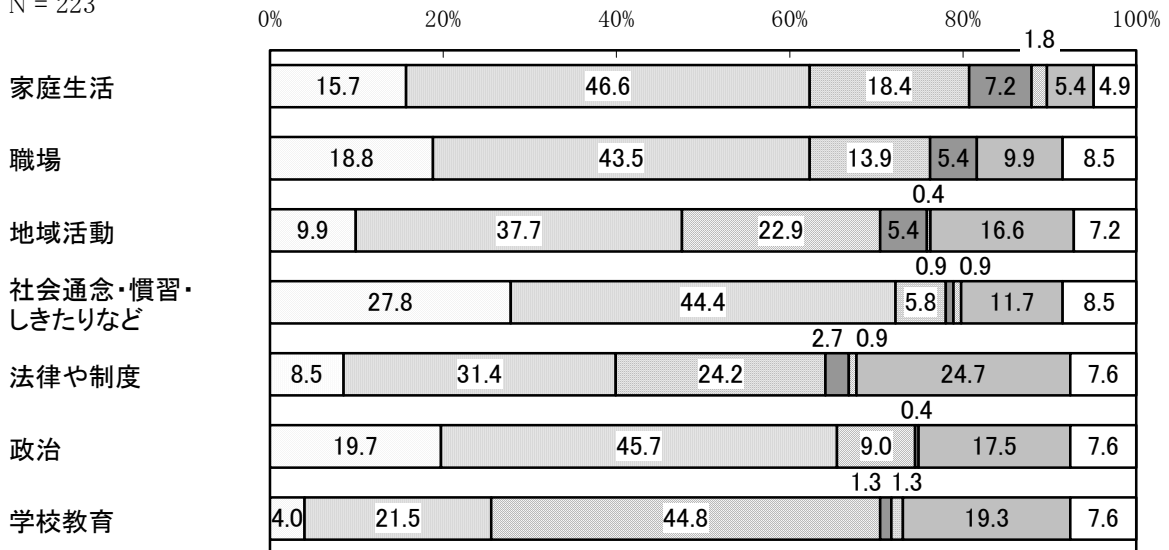
～男性よりも女性の方が「平等である」の回答率が低い～

性別でみると、社会通念・慣習・しきたりなどの分野以外のいずれの分野でも、「平等である」の割合が、男性より女性の方が低くなっています。また、法律や制度の分野に関しては、「平等である」の割合が、女性は24.2%に対し、男性が57.5%となっており、最も平等感の差がある分野になっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

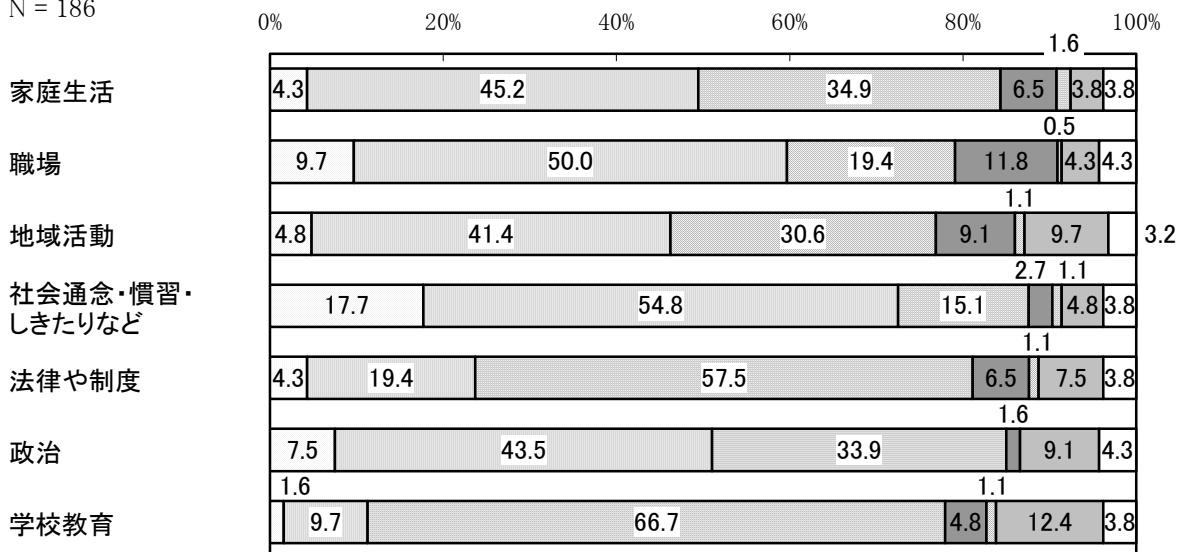
女性

N = 223



男性

N = 186



【国・県の調査の比較と経年比較】

～国・県の調査結果と比べ、地域活動の場に大きな差～

各分野において「平等である」の割合を国の調査結果と比較すると、「地域活動の場」においては国の結果よりも 25 ポイント程度低くなっています。その他のすべての分野についても、「平等である」の割合が低くなっています。また、「平等である」の割合を県の調査結果と比較すると、「地域活動の場」においては県の結果よりも 11 ポイント程度低くなっています。

各分野の市の平成 20 年度、17 年度調査との比較は、以下の通りです。各分野で大きな数値の差は見られず、同じような傾向になっています。

単位：%

		男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平 等	どちらかといえ ば女性の方が優遇さ れている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無 回 答
① 家庭生活の場	田原市(H23.10)	10.5	46.2	25.8	6.8	1.7	4.6	4.4
	女性	15.7	46.6	18.4	7.2	1.8	5.4	4.9
	男性	4.3	45.2	34.9	6.5	1.6	3.8	3.8
	田原市(H20.8)	15.3	51.4	17.3	6.4	0.5	6.7	2.5
	女性	20.3	53.0	11.5	6.0	0.5	6.0	2.8
	男性	9.9	49.5	24.2	6.6	0.5	7.7	1.6
	田原市(H18.3)	16.3	55.0	18.6	3.7	1.2	5.1	-
	女性	20.8	55.3	16.7	2.1	0.5	4.6	-
	男性	9.7	54.9	21.3	6.1	2.2	5.8	-
	愛知県(H20.9)	16.4	40.4	26.6	7.0	2.3		7.2
	女性	23.1	42.9	19.8	4.9	1.7		7.5
	男性	8.5	37.5	34.8	9.4	3.0		6.8
国(H21.10)	7.8	38.7	43.1	6.7	1.7	1.9	-	
女性	10.2	44.2	36.0	6.0	1.7	1.9	-	
男性	5.0	32.5	51.3	7.5	1.7	2.0	-	
② 職場	田原市(H23.10)	14.8	46.5	16.3	8.3	0.2	7.3	6.6
	女性	18.8	43.5	13.9	5.4	-	9.9	8.5
	男性	9.7	50.0	19.4	11.8	0.5	4.3	4.3
	田原市(H20.8)	16.3	45.2	16.5	5.2	1.2	10.1	5.4
	女性	20.3	45.2	13.8	3.7	0.5	11.5	5.1
	男性	12.1	45.1	19.2	7.1	2.2	8.8	5.5
	田原市(H18.3)	16.3	49.5	16.3	5.6	0.9	11.4	-
	女性	18.3	49.6	15.7	3.1	0.3	13.1	-
	男性	13.6	49.1	17.2	9.2	1.8	9.2	-
	愛知県(H20.9)	23.7	44.5	14.1	5.8	1.9		9.9
	女性	27.8	43.7	11.4	3.9	0.8		12.5
	男性	18.9	45.5	17.3	8.1	3.2		6.9
国(H21.10)	15.6	46.5	24.4	4.4	0.9	8.1	-	
女性	18.3	46.9	20.4	2.7	0.7	11.0	-	
男性	12.5	46.1	29.0	6.5	1.1	4.8	-	

単位：%

		男性の方が非 常に優遇され ている	どちらかとい えば男性の方 が優遇されて いる	平 等	どちらかとい えば女性の方 が優遇されて いる	女性の方が非 常に優遇され ている	わからない	無回答
③ 地域活動の場	田原市(H23.10)	7.8	39.2	26.5	7.1	0.7	13.4	5.4
	女性	9.9	37.7	22.9	5.4	0.4	16.6	7.2
	男性	4.8	41.4	30.6	9.1	1.1	9.7	3.2
	田原市(H20.8)	8.1	39.8	27.7	6.9	0.7	12.3	4.4
	女性	10.1	40.6	22.6	6.9	0.5	14.3	5.1
	男性	6.0	39.6	33.0	6.6	1.1	10.4	3.3
	田原市(H18.3)	12.2	43.0	25.8	4.4	0.5	14.1	-
	女性	14.4	45.8	20.4	3.4	0.3	15.7	-
	男性	9.1	38.9	33.5	5.8	0.7	0.7	-
	愛知県(H20.9)	7.2	29.5	37.8	8.5	1.4		15.6
	女性	10.2	34.1	31.7	6.3	0.7		16.9
	男性	3.5	24.1	45.0	11.0	2.3		14.1
国(H21.10)	6.5	28.2	51.0	6.4	0.6	7.3	-	
女性	8.6	32.8	45.3	5.1	0.5	7.7	-	
男性	4.1	22.8	57.5	7.9	0.9	6.8	-	
④ 社会通念・慣習・しきたりなど	田原市(H23.10)	23.4	49.1	10.0	1.7	1.0	8.5	6.3
	女性	27.8	44.4	5.8	0.9	0.9	11.7	8.5
	男性	17.7	54.8	15.1	2.7	1.1	4.8	3.8
	田原市(H20.8)	20.5	50.1	10.1	3.0	0.7	11.1	4.4
	女性	25.3	48.4	6.9	1.8	0.9	11.1	5.5
	男性	14.8	52.7	14.3	3.3	0.5	11.5	2.7
	田原市(H18.3)	24.8	51.3	10.7	2.3	0.2	10.8	-
	女性	29.5	51.0	6.2	1.3	0.0	11.9	-
	男性	18.0	51.8	16.9	3.6	0.4	9.4	-
	愛知県(H20.9)	30.0	46.6	10.9	2.4	1.1		9.0
	女性	37.1	43.3	7.5	1.6	0.6		9.9
	男性	21.5	50.6	14.9	3.4	1.6		7.9
国(H21.10)	18.7	53.2	20.6	3.4	0.5	3.6	-	
女性	21.4	54.2	17.5	2.7	0.3	4.0	-	
男性	15.7	52.0	24.2	4.2	0.7	3.2	-	
⑤ 法律や制度上	田原市(H23.10)	6.6	26.0	39.4	4.4	1.0	16.8	5.8
	女性	8.5	31.4	24.2	2.7	0.9	24.7	7.6
	男性	4.3	19.4	57.5	6.5	1.1	7.5	3.8
	田原市(H20.8)	6.2	30.9	40.2	3.2	1.2	14.1	4.2
	女性	8.3	38.2	30.0	1.8	-	16.1	5.5
	男性	3.3	22.5	52.2	4.9	2.7	12.1	2.2
	田原市(H18.3)	8.1	32.0	35.5	6.3	1.1	17.1	-
	女性	10.4	37.6	26.4	5.2	0.3	20.2	-
	男性	4.7	24.5	48.2	7.9	2.2	12.9	-
	愛知県(H20.9)	13.0	29.2	35.5	5.7	1.2		15.4
	女性	18.3	33.4	26.6	2.1	0.3		19.3
	男性	6.7	24.2	45.9	10.1	2.2		10.9
国(H21.10)	7.8	33.5	44.4	6.5	0.9	6.9	-	
女性	9.8	38.6	37.5	5.3	0.3	8.6	-	
男性	5.6	27.8	52.5	7.8	1.5	4.9	-	

単位：％

		男性の方が 常にお優遇 されている	どちらか に優遇され ている	平 等	どちらか に優遇され ている	女性の方が 常にお優遇 されている	わからない	無 回 答
⑥政治の場	田原市(H23.10)	14.1	44.8	20.4	1.0	-	13.6	6.1
	女性	19.7	45.7	9.0	0.4	-	17.5	7.6
	男性	7.5	43.5	33.9	1.6	-	9.1	4.3
	田原市(H20.8)	20.2	39.3	22.2	-	0.2	14.1	4.0
	女性	25.8	41.9	12.9	-	-	15.2	4.1
	男性	12.6	37.4	33.0	-	0.5	13.2	3.3
	田原市(H18.3)	22.7	39.2	21.5	1.2	0.6	14.7	-
	女性	27.6	41.2	13.9	0.5	0.3	16.5	-
	男性	15.6	36.6	32.2	2.2	1.1	12.3	-
	愛知県(H20.9)	36.3	40.0	10.9	1.2	0.6		11.1
	女性	44.4	36.3	6.7	0.7	0.1		11.9
	男性	26.6	44.5	15.9	1.8	1.1		10.2
⑦学校教育の場	国(H21.10)	23.7	48.1	21.0	1.9	0.3	5.1	-
	女性	27.4	49.7	16.1	1.5	0.2	5.1	-
	男性	19.5	46.3	26.6	2.3	0.3	5.0	-
	田原市(H23.10)	2.9	16.3	54.7	2.9	1.2	16.1	5.8
	女性	4.0	21.5	44.8	1.3	1.3	19.3	7.6
	男性	1.6	9.7	66.7	4.8	1.1	12.4	3.8
	田原市(H20.8)	4.0	20.0	52.1	3.7	0.2	16.3	3.7
	女性	5.5	22.6	47.9	2.8	0.5	16.1	4.6
	男性	2.2	17.6	56.0	4.9	-	17.0	2.2
	田原市(H18.3)	3.0	17.0	56.8	5.9	1.2	16.1	-
	女性	3.4	20.4	53.9	4.1	0.8	17.5	-
	男性	2.5	12.4	60.7	8.4	1.8	14.2	-
愛知県(H20.9)	3.6	13.9	57.8	3.9	0.8		20.0	
女性	5.1	16.1	54.7	2.3	0.8		21.0	
男性	1.8	11.2	61.4	5.9	0.9		18.8	
国(H21.10)	1.9	12.0	68.1	3.9	0.9	13.1	-	
女性	2.3	14.4	66.1	3.5	0.6	13.2	-	
男性	1.6	9.3	70.3	4.4	1.3	13.1	-	

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成20年8月）  
 田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成18年3月）  
 愛知県「男女共同参画意識に関する調査」（平成20年9月調査）  
 国（内閣府）「男女共同参画に関するアンケート調査」（平成21年10月調査）

全員の方にお聞きします

問 15 仕事と、家庭生活または地域活動について、人の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。(男女それぞれ1つずつを選び、○印)

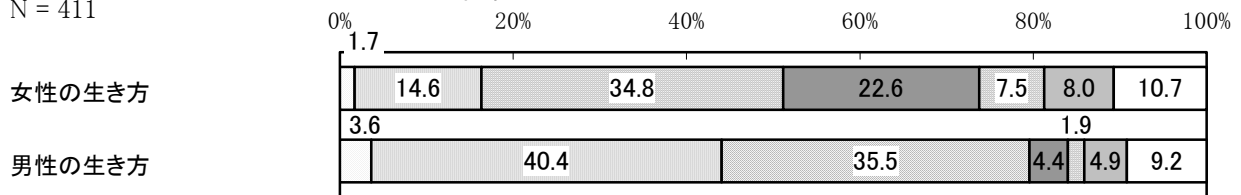
～女性の生き方は家庭生活、地域活動と仕事を両立  
 男性の生き方は家庭生活よりも仕事を優先～

女性の生き方については、「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が 34.8%と最も高く、次いで「仕事にも携わるが、家庭生活または、地域活動を優先させる」の割合が 22.6%、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」の割合が 14.6%となっています。

男性の生き方については、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」の割合が 40.4%と最も高く、次いで「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が 35.5%、「わからない」の割合が 4.9%となっています。

- 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
- 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活または、地域活動を優先させる
- 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
- わからない
- 無回答

N = 411



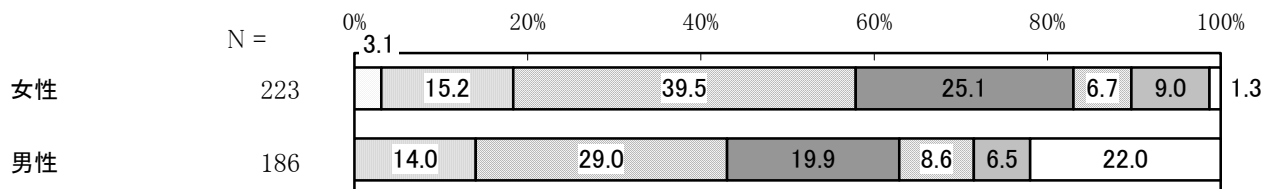
【性別】

～女性は「家庭生活、地域活動と仕事を両立させる」、男性は「仕事優先」～

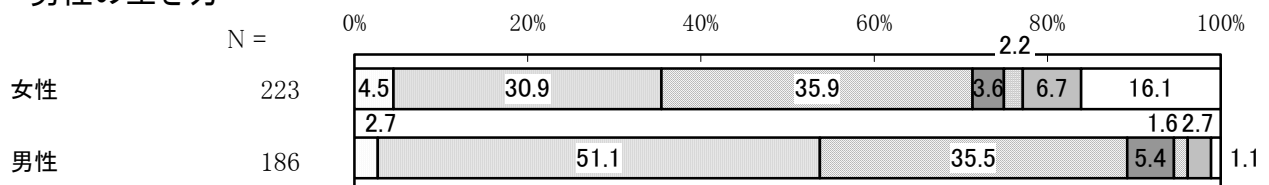
女性の生き方については、性別でみると、「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が男性よりも女性で 10 ポイント以上高くなっています。

男性の生き方については、性別でみると、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」の割合が女性よりも男性で 20 ポイント以上高くなっています。

女性の生き方



男性の生き方



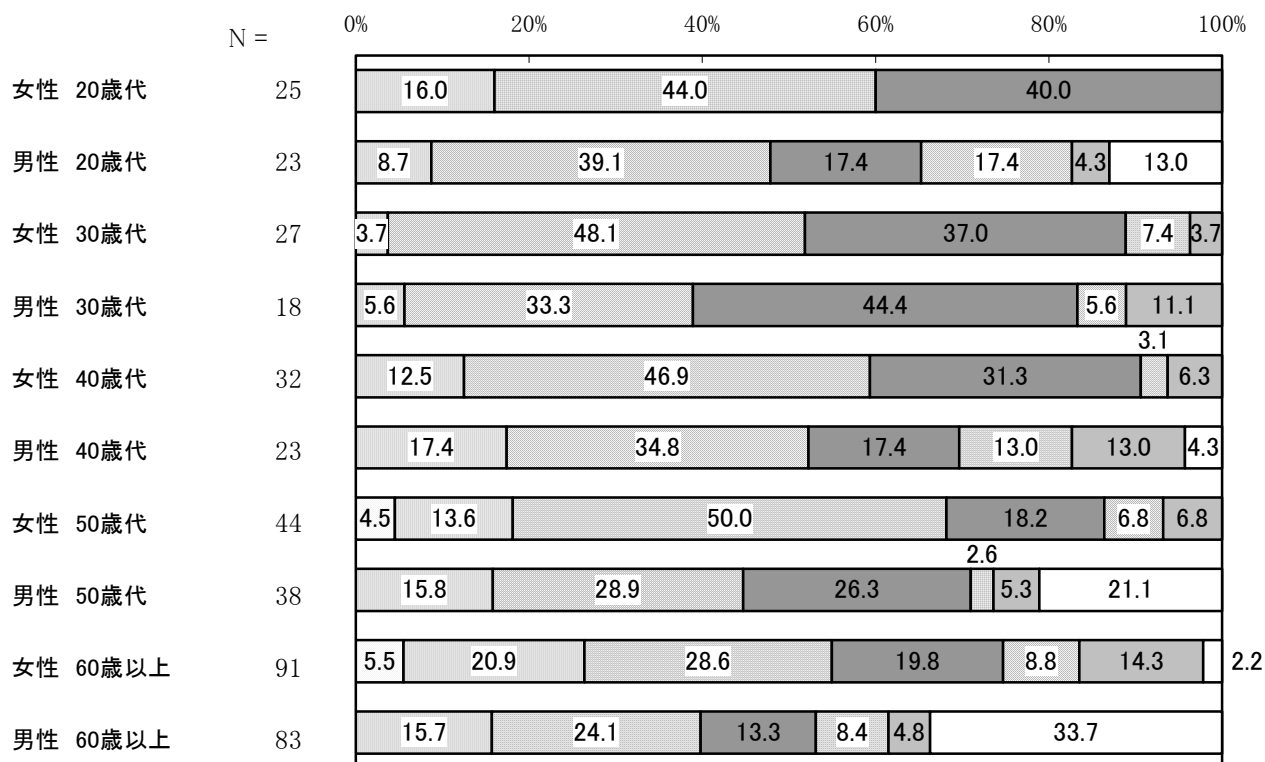


【性・年代別】  
女性の生き方

～30歳代女性は「家庭生活と地域活動を両立」  
30歳代男性は「家庭生活または地域活動を優先」～

性別・年代別でみると、30歳代の女性では「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が最も高いのに対し、30歳代の男性では「仕事にも携わるが、家庭生活または、地域活動を優先させる」の割合が最も高くなっています。

- 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
- 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活または、地域活動を優先させる
- 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
- わからない
- 無回答

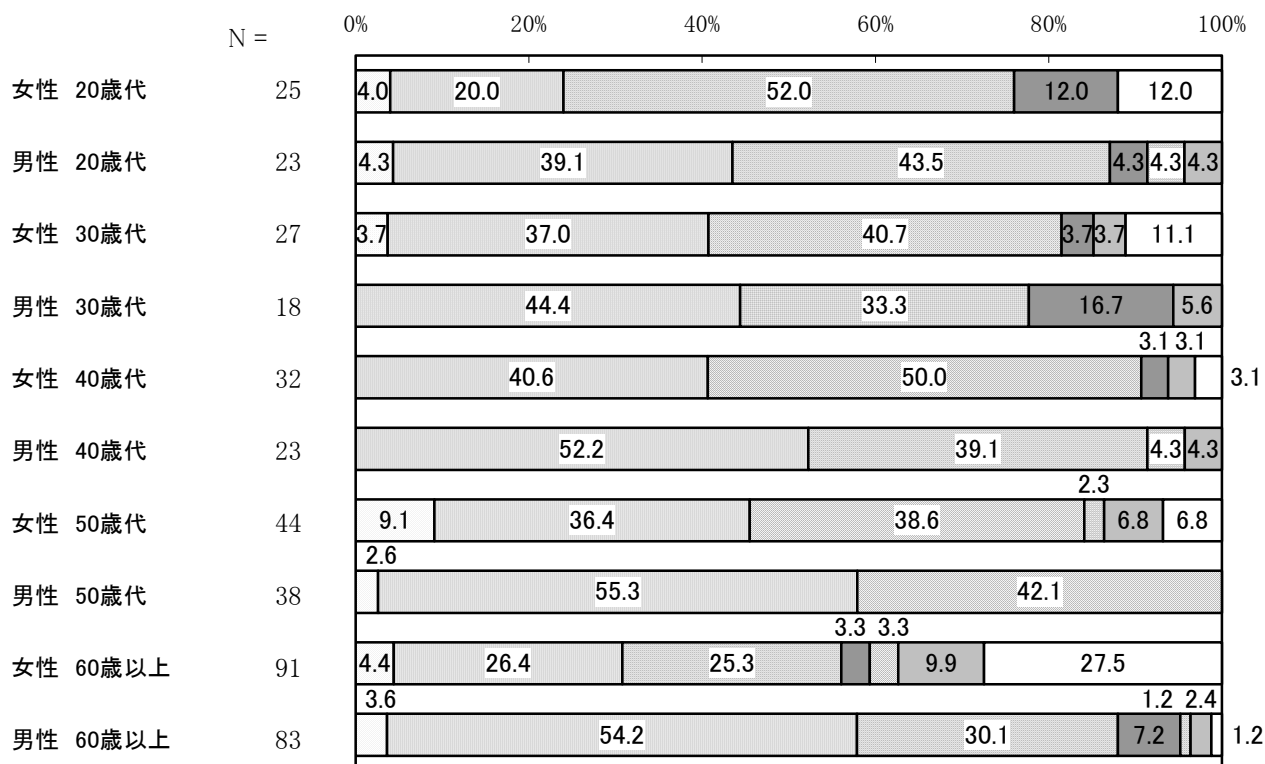


## 男性の生き方

### ～50歳代女性で「仕事に専念」が約1割～

性別・年代別で見ると、50歳代の女性で「家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する」の割合が9.1%となっており、どの性・年代よりも高くなっています。

- 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
- 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活または、地域活動を優先させる
- 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
- わからない
- 無回答



【経年比較】

女性の生き方

～女性で「仕事を優先」が年々増加～

市の平成 20 年度、17 年度調査と比較すると、女性で「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が年々増加しています。

単位：％

	専念する 活動よりも、仕事に 家庭生活または地域	活動にも携わるが、 あくまで仕事を優先 させる	家庭生活または地域 活動と仕事を同じよ うに両立させる	家庭生活または地域 活動を優先させる、地 域活動をも携わるが、 家庭生活または、地 域活動を優先させる	仕事にも携わるが、 家庭生活または、地 域活動を優先させる	仕事よりも、家庭生 活または地域活動に 専念する	わからない	無回答
田原市(H23.10)	1.7	14.6	34.8	22.6	7.5	8.0	10.7	
女性	3.1	15.2	39.5	25.1	6.7	9.0	1.3	
男性	-	14.0	29.0	19.9	8.6	6.5	22.0	
田原市(H20.8) 女性	0.9	14.3	40.1	27.6	8.8	3.7	4.6	
男性	1.1	7.7	29.7	23.1	5.5	4.4	28.6	
田原市(H18.3) 女性	2.2	11.1	43.7	32.1	5.7	6.8	-	
男性	1.2	10.0	35.7	36.5	9.6	6.8	-	

男性の生き方

～「仕事を優先」が女性に年々減少、男性は前回調査より増加～

市の平成 20 年度、17 年度調査と比較すると、女性で「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が年々減少していますが、男性では約 10 ポイント増加しています。また、男性で「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」が前回調査に比べ約 7 ポイント減少しています。

単位：％

	専念する 活動よりも、仕事に 家庭生活または地域	活動にも携わるが、 あくまで仕事を優先 させる	家庭生活または地域 活動と仕事を同じよ うに両立させる	家庭生活または地域 活動を優先させる、地 域活動をも携わるが、 家庭生活または、地 域活動を優先させる	仕事にも携わるが、 家庭生活または、地 域活動を優先させる	仕事よりも、家庭生 活または地域活動に 専念する	わからない	無回答
田原市(H23.10)	3.6	40.4	35.5	4.4	1.9	4.9	9.2	
女性	4.5	30.9	35.9	3.6	2.2	6.7	16.1	
男性	2.7	51.1	35.5	5.4	1.6	2.7	1.1	
田原市(H20.8) 女性	1.8	36.9	35.5	7.4	0.5	1.8	16.1	
男性	7.1	41.2	42.3	3.8	1.1	4.4	-	
田原市(H18.3) 女性	4.9	48.4	39.7	3.2	0.3	3.5	-	
男性	6.1	49.6	35.2	4.2	1.1	3.8	-	

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成 18 年 3 月）

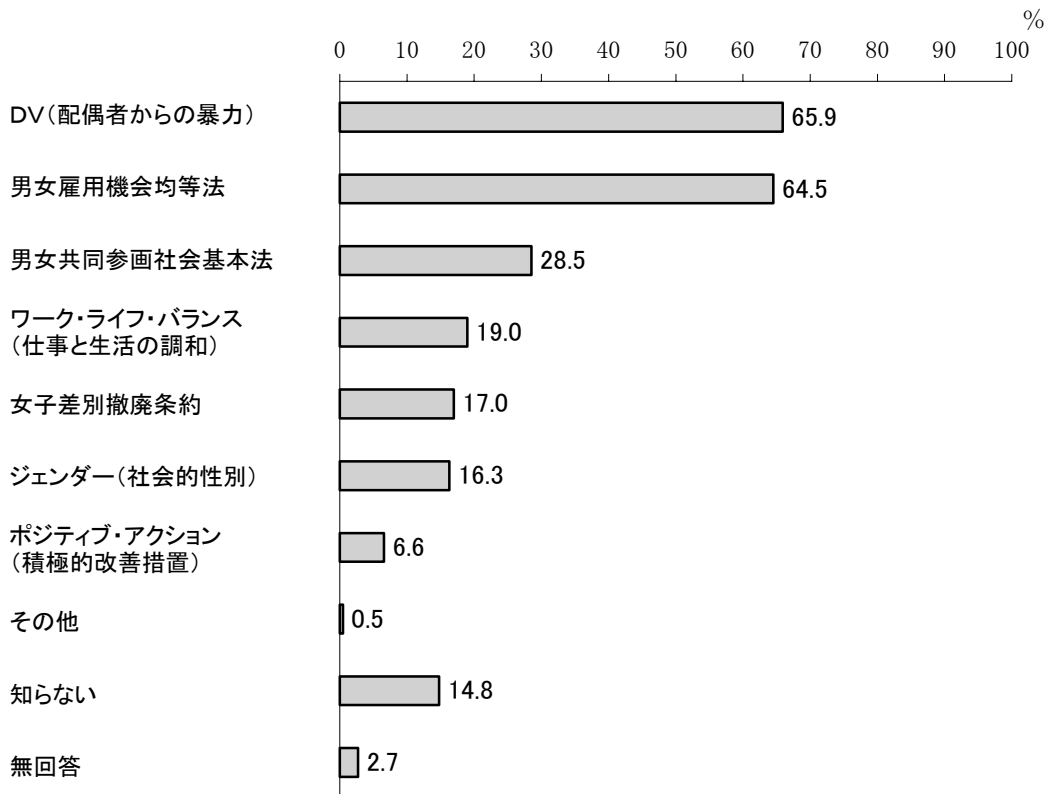
全員の方にお聞きします

問 16 あなたは、次にあげる男女共同参画社会に関する言葉を知っていますか。  
(該当する項目すべてに○印)

### ～「DV（配偶者からの暴力）」「男女雇用機会均等法」が6割強～

「DV（配偶者からの暴力）」の割合が65.9%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」の割合が64.5%、「男女共同参画社会基本法」の割合が28.5%となっています。

N = 411



## 男女平等に関する回答結果のまとめ

- 男女共同参画の取り組みを“知っていた”と回答した人の割合が前回調査よりも低下
- 20代、30代で“知らなかった”と回答した人の割合が前回調査よりも増加
- 女性・男性ともに男女共同参画が必要な理由として最も回答が多かったのは「男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、多様な生き方を選択できるようにするため」
- 男女共同参画社会の実現が充分達成されない要因として、「男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと」と回答した割合が前回調査よりも増加
- 社会全体から見た場合、男女が「平等である」と回答したのは国の調査結果よりも低い
- 各分野の男女平等意識に関して、男性よりも女性の方が「平等である」の回答率が低い
- 女性の生き方は「家庭生活、地域活動と仕事を両立」と回答する割合が最も高く、女性自身による回答はより強い傾向を示している
- 男性の生き方は「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」と回答する割合が最も高く、男性自身による回答はより強い傾向を示している
- 女性が、女性の生き方について「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が平成20年度、平成17年度調査よりも年々増加している
- 「DV（配偶者からの暴力）」「男女雇用機会均等法」を知っていると回答した人は全体の半数以上

### 3 結婚、家庭生活について

配偶者またはパートナーと暮らしている方にお聞きします

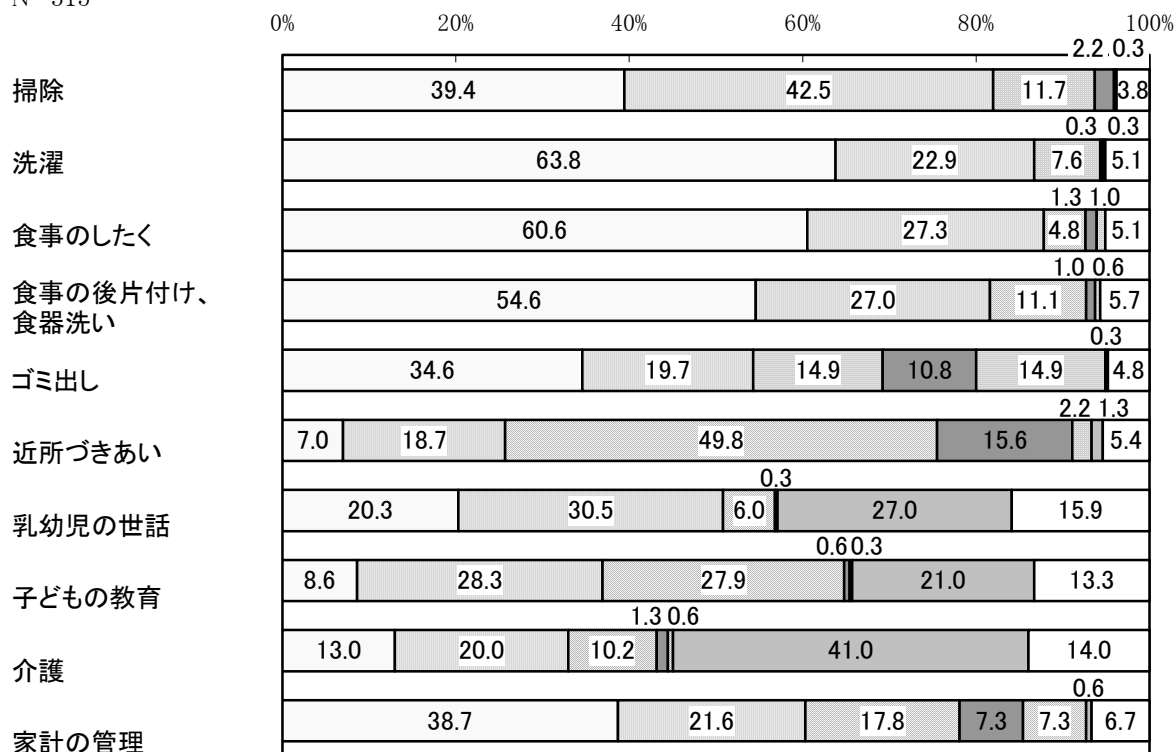
問 17 あなたのご家庭での役割について、現状をお答えください。  
(①から⑩でそれぞれ1つずつ○印)

#### ～全体的に“女性が担当”している傾向 近所づきあいは男女同じ程度～

掃除、洗濯、食事のしたく、食事の後片付け、食器洗いで、「すべて女性が担当」と「主に女性が担当し男性は手伝う程度」をあわせた女性が担当している割合が高く、8割を超えています。一方、近所づきあいで、「男女同じ程度」の割合が高く、約5割となっています。

- すべて女性が担当
- 主に女性が担当し男性は手伝う程度
- 男女同じ程度
- 主に男性が担当し女性は手伝う程度
- すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答

N = 315



【性別】

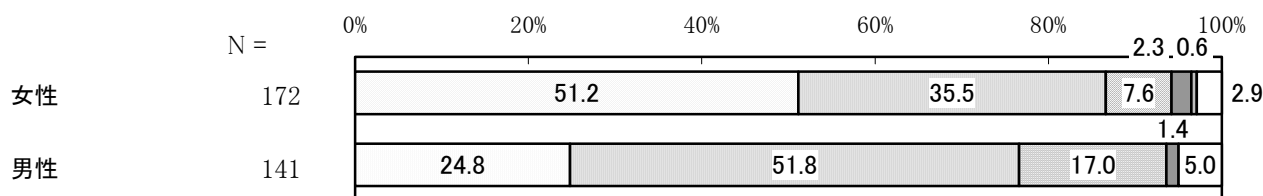
～家庭での役割に男女間で意識差

女性はすべて女性が担当している意識が強く、男性は手伝いをしている意識が強い～

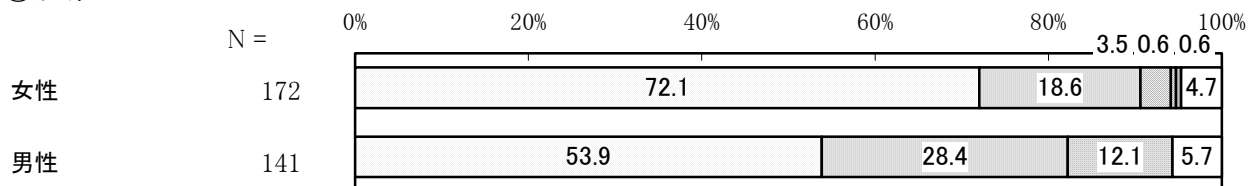
性別で見ると、女性の方は、「すべて女性が担当」の割合がすべてにおいて男性よりも高くなっています。一方、男性の方は、「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の割合が「近所づきあい」と「子どもの教育」を除き女性よりも高くなっており、男女間で家庭での役割の現状に意識差があることがうかがえます。

- すべて女性が担当
- 主に女性が担当し男性は手伝う程度
- 男女同じ程度
- 主に男性が担当し女性を手伝う程度
- すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答

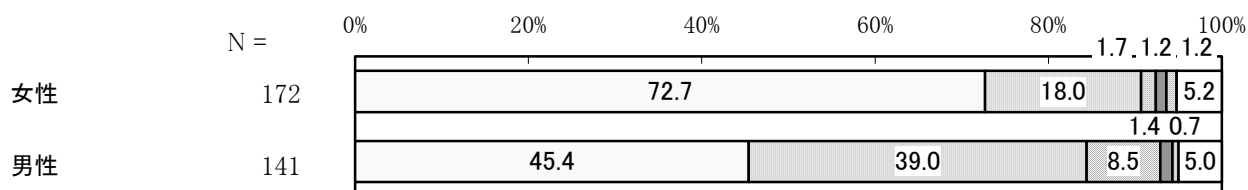
①掃除



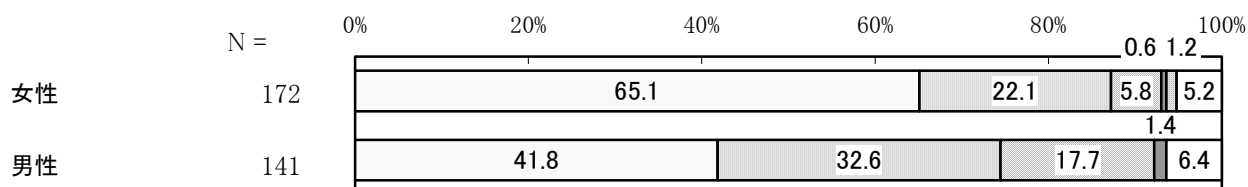
②洗濯



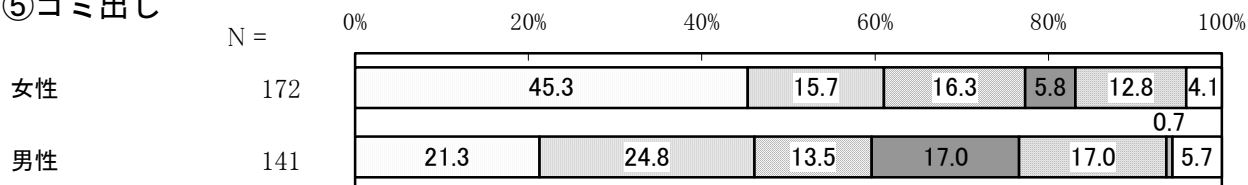
③食事のしたく



④食事の後片付け、食器洗い

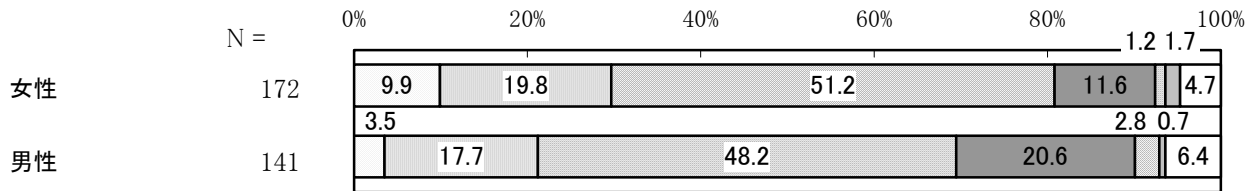


⑤ゴミ出し

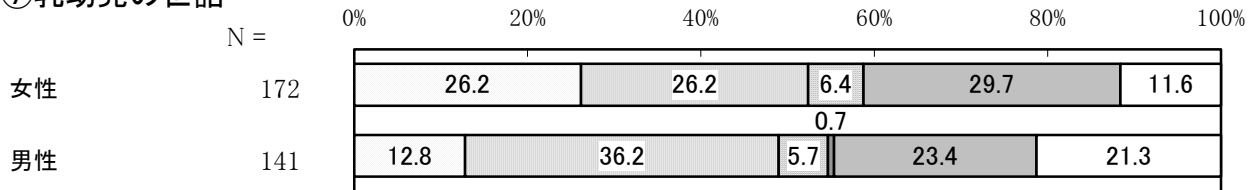


- すべて女性が担当
- 主に女性が担当し男性は手伝う程度
- 男女同じ程度
- 主に男性が担当し女性は手伝う程度
- すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答

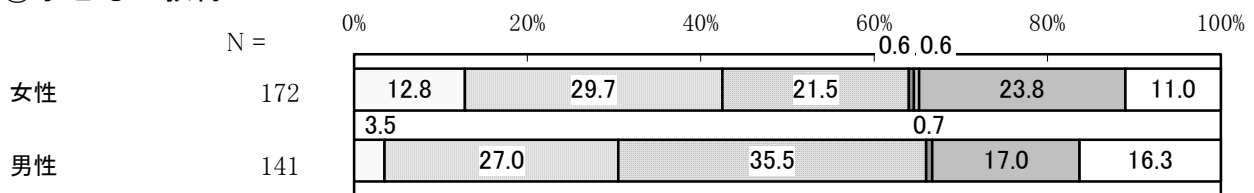
⑥近所づきあい



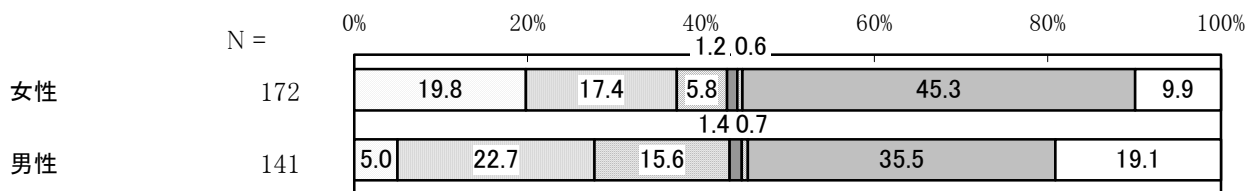
⑦乳幼児の世話



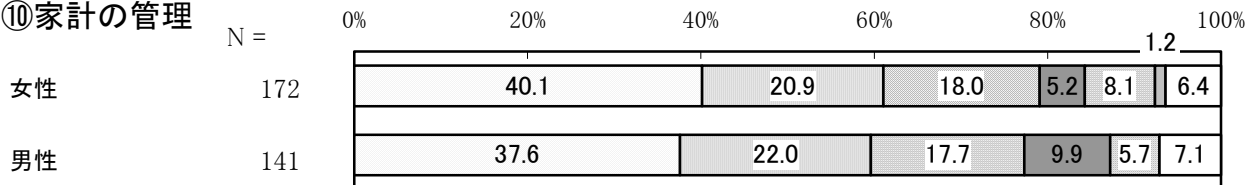
⑧子どもの教育



⑨介護



⑩家計の管理



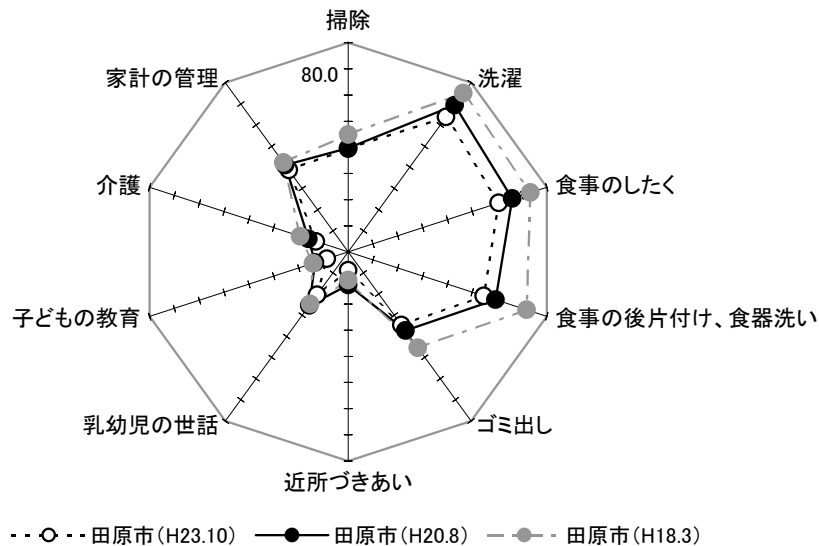


## 【経年比較】

### ～すべて女性が担当の回答率が減少～

#### 《家庭の役割における「すべて女性が担当」の回答率》

家庭の役割における「すべて女性が担当」の回答率を市の平成20年度、17年度調査と比較すると、「近所づきあい」と「乳幼児の世話」を除くすべての項目において、年々減少傾向にあります。



市の平成20年度、17年度調査と比較すると、すべての項目において、「すべて女性が担当」と答えた人の回答率が減少している傾向になっています。また、食事の後片付け、食器洗いで「男女同じ程度」が前回調査に比べ約5ポイント増加しています。

単位：％

		担 当 す べ て 女 性 が	伝 当 主 に 女 性 が 担 う 程 度	男 女 同 じ 程 度	伝 当 主 に 男 性 が 担 う 程 度	担 当 す べ て 男 性 が	不 選 い ない す る 選 択 肢 が	該 当 す る 人 が	無 回 答
① 掃除	田原市(H23.10)	39.4	42.5	11.7	2.2	-	0.3	3.8	
	女性	51.2	35.5	7.6	2.3	-	0.6	2.9	
	男性	24.8	51.8	17.0	1.4	-	-	5.0	
	田原市(H20.8)	39.7	45.7	11.0	0.7	-	0.3	2.7	
	女性	48.4	39.1	8.7	0.6	-	-	3.1	
	男性	29.4	52.9	14.0	0.7	-	0.7	2.2	
	田原市(H18.3)	44.9	45.9	7.9	1.1	-	-	-	
女性	54.2	36.6	8.5	0.3	-	-	-		
男性	31.9	58.8	7.1	2.2	-	-	-		
② 洗濯	田原市(H23.10)	63.8	22.9	7.6	-	0.3	0.3	5.1	
	女性	72.1	18.6	3.5	-	0.6	0.6	4.7	
	男性	53.9	28.4	12.1	-	-	-	5.7	
	田原市(H20.8)	69.3	21.3	6.0	0.7	0.3	-	2.3	
	女性	74.5	18.0	4.3	-	0.6	-	2.5	
	男性	62.5	25.7	8.1	1.5	-	-	2.2	
	田原市(H18.3)	75.0	19.1	4.5	1.5	-	-	-	
女性	82.1	13.0	4.2	0.7	-	-	-		
男性	65.0	27.4	4.9	2.7	-	-	-		
③ 食事のしたく	田原市(H23.10)	60.6	27.3	4.8	1.3	1.0	-	5.1	
	女性	72.7	18.0	1.7	1.2	1.2	-	5.2	
	男性	45.4	39.0	8.5	1.4	0.7	-	5.0	
	田原市(H20.8)	66.0	26.3	4.3	0.7	-	0.3	2.3	
	女性	73.3	22.4	1.9	-	-	-	2.5	
	男性	56.6	31.6	7.4	1.5	-	0.7	2.2	
	田原市(H18.3)	73.4	23.5	2.6	0.6	-	-	-	
女性	80.7	16.3	2.9	-	-	-	-		
男性	63.1	33.3	2.2	1.3	-	-	-		
④ 食事の後片付け、 食器洗い	田原市(H23.10)	54.6	27.0	11.1	1.0	0.6	-	5.7	
	女性	65.1	22.1	5.8	0.6	1.2	-	5.2	
	男性	41.8	32.6	17.7	1.4	-	-	6.4	
	田原市(H20.8)	59.3	29.0	6.3	2.3	-	-	3.0	
	女性	65.2	24.8	6.2	1.2	-	-	2.5	
	男性	52.2	33.8	6.6	3.7	-	-	3.7	
	田原市(H18.3)	71.8	22.0	5.1	0.6	0.4	0.2	-	
女性	81.0	14.1	4.6	0.3	-	-	-		
男性	59.1	32.9	5.8	0.9	-	-	-		
⑤ ゴミ出し	田原市(H23.10)	34.6	19.7	14.9	10.8	14.9	0.3	4.8	
	女性	45.3	15.7	16.3	5.8	12.8	-	4.1	
	男性	21.3	24.8	13.5	17.0	17.0	0.7	5.7	
	田原市(H20.8)	37.3	26.0	12.0	11.3	11.0	-	2.3	
	女性	43.5	24.8	10.6	8.7	9.9	-	2.5	
	男性	29.4	27.9	14.0	14.0	12.5	-	2.2	
	田原市(H18.3)	45.4	23.7	16.1	9.2	5.4	0.2	-	
女性	50.2	22.1	14.7	8.5	4.2	0.3	-		
男性	38.9	25.7	18.1	10.2	7.1	-	-		

単位：％

		担 当 す べ て 女 性 が	伝 当 主 に 女 性 が 担 う 程 度	男 女 同 じ 程 度	伝 当 主 に 男 性 が 担 う 程 度	担 当 す べ て 男 性 が	不 選 択 肢 が な い	該 当 す る 人 が い な い ・ 該 当	無 回 答
⑥ 近所づきあい	田原市(H23.10)	7.0	18.7	49.8	15.6	2.2	1.3	5.4	
	女性	9.9	19.8	51.2	11.6	1.2	1.7	4.7	
	男性	3.5	17.7	48.2	20.6	2.8	0.7	6.4	
	田原市(H20.8)	12.7	20.0	46.7	13.3	3.3	0.7	3.3	
	女性	16.8	26.7	39.8	11.8	0.6	0.6	3.7	
	男性	7.4	12.5	54.4	15.4	6.6	0.7	2.9	
	田原市(H18.3)	10.8	20.2	53.5	12.1	2.1	1.3	-	
	女性	13.5	23.2	50.7	9.9	0.7	1.7	-	
	男性	6.7	16.0	57.3	15.1	4.0	0.9	-	
⑦ 乳幼児の世話	田原市(H23.10)	20.3	30.5	6.0	0.3	-	27.0	15.9	
	女性	26.2	26.2	6.4	-	-	29.7	11.6	
	男性	12.8	36.2	5.7	0.7	-	23.4	21.3	
	田原市(H20.8)	25.3	29.0	9.7	-	-	26.3	9.7	
	女性	30.4	28.0	9.9	-	-	25.5	6.2	
	男性	19.9	30.1	9.6	-	-	27.2	13.2	
	田原市(H18.3)	24.7	38.5	8.9	-	-	27.9	-	
	女性	25.2	39.3	6.9	-	-	28.6	-	
	男性	23.3	37.6	11.9	-	-	27.2	-	
⑧ 子どもの教育	田原市(H23.10)	8.6	28.3	27.9	0.6	0.3	21.0	13.3	
	女性	12.8	29.7	21.5	0.6	0.6	23.8	11.0	
	男性	3.5	27.0	35.5	0.7	-	17.0	16.3	
	田原市(H20.8)	13.3	31.0	26.7	1.0	-	19.7	8.3	
	女性	16.1	38.5	19.9	1.2	-	18.6	5.6	
	男性	10.3	22.8	33.8	0.7	-	21.3	11.0	
	田原市(H18.3)	14.1	37.4	30.8	0.4	-	17.3	-	
	女性	17.2	38.5	26.8	-	-	17.5	-	
	男性	9.3	35.8	36.8	1.0	-	17.2	-	
⑨ 介護	田原市(H23.10)	13.0	20.0	10.2	1.3	0.6	41.0	14.0	
	女性	19.8	17.4	5.8	1.2	0.6	45.3	9.9	
	男性	5.0	22.7	15.6	1.4	0.7	35.5	19.1	
	田原市(H20.8)	16.0	21.3	11.3	0.3	0.3	41.0	9.7	
	女性	19.3	20.5	7.5	-	-	46.6	6.2	
	男性	11.8	22.8	15.4	0.7	0.7	35.3	13.2	
	田原市(H18.3)	19.4	22.0	9.6	0.6	-	48.3	-	
	女性	21.4	19.7	7.5	0.3	-	51.2	-	
	男性	16.8	25.2	12.4	-	-	44.6	-	
⑩ 家計の管理	田原市(H23.10)	38.7	21.6	17.8	7.3	7.3	0.6	6.7	
	女性	40.1	20.9	18.0	5.2	8.1	1.2	6.4	
	男性	37.6	22.0	17.7	9.9	5.7	-	7.1	
	田原市(H20.8)	41.0	22.7	20.7	9.0	3.7	-	3.0	
	女性	44.1	23.0	18.0	8.7	3.7	-	2.5	
	男性	36.8	22.8	23.5	9.6	3.7	-	3.7	
	田原市(H18.3)	42.2	23.0	19.0	10.0	5.3	0.6	-	
	女性	44.9	22.6	17.4	10.5	4.3	0.3	-	
	男性	38.4	23.7	21.0	9.4	6.7	0.9	-	

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成20年8月）  
 田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成18年3月）

全員の方にお聞きします

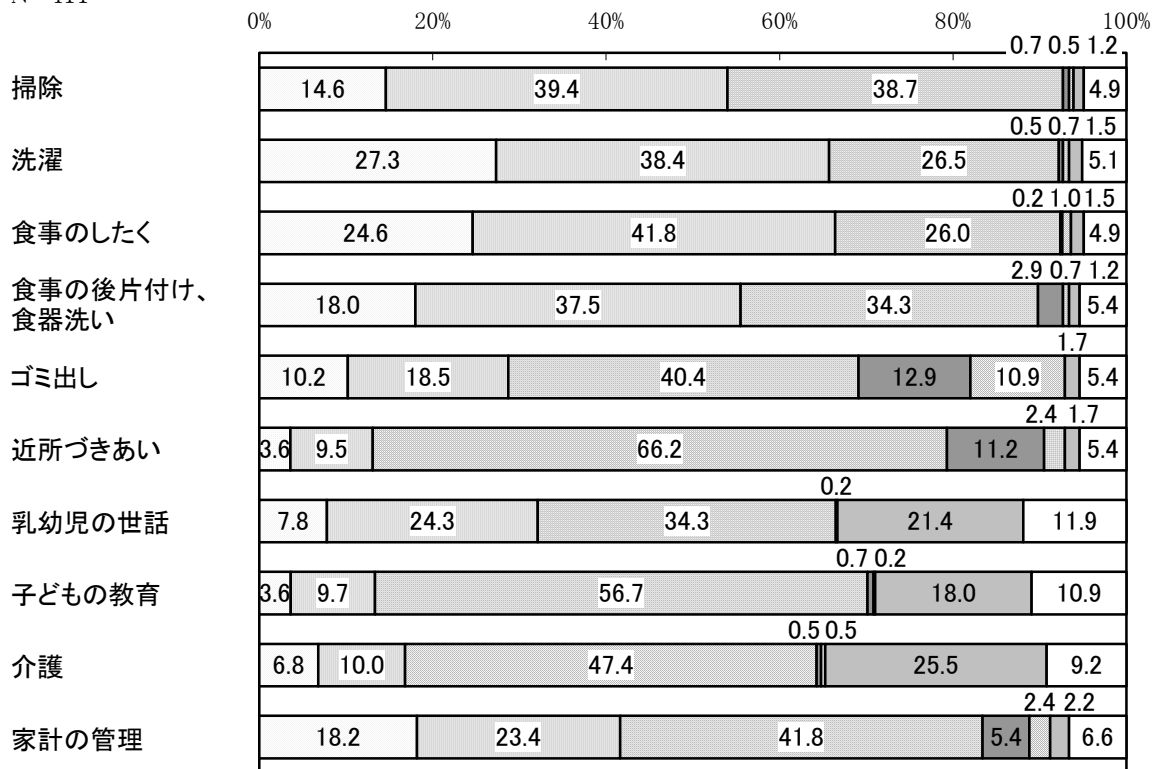
問 18 あなたのご家庭での役割について、理想をお答えください。  
(それぞれ1つずつ○印)

### ～家庭での男女の役割の理想は、「男女同じ程度」～

掃除、洗濯、食事のしたく、食事の後片付け、食器洗いで、「すべて女性が担当」と「主に女性が担当し男性は手伝う程度」をあわせた女性が担当している割合が高く、5割を超えています。一方、近所づきあい、子どもの教育で、「男女同じ程度」の割合が高く、5割を超えています。

- すべて女性が担当
- 主に女性が担当し男性は手伝う程度
- 男女同じ程度
- 主に男性が担当し女性は手伝う程度
- すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答

N = 411



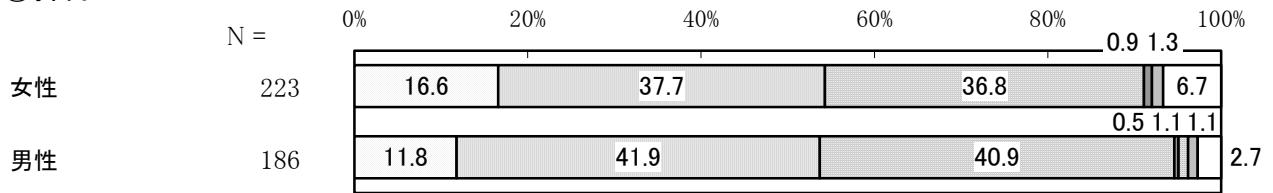
【性別】

～男性は食事のしたくを「すべて女性が担当」することが理想～

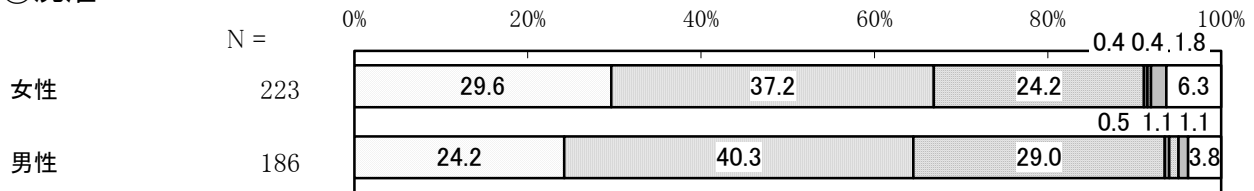
性別でみると、男女ともに結果には同じ傾向がみられます。その中で、「食事のしたく」においては女性よりも男性の方が「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。

- すべて女性が担当
- 主に女性が担当し男性は手伝う程度
- 男女同じ程度
- 主に男性が担当し女性は手伝う程度
- すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答

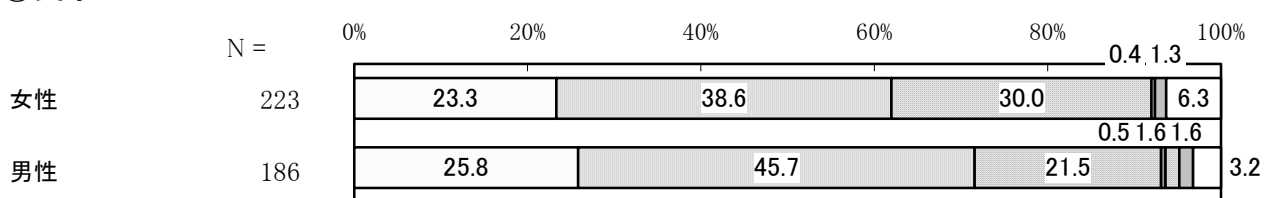
①掃除



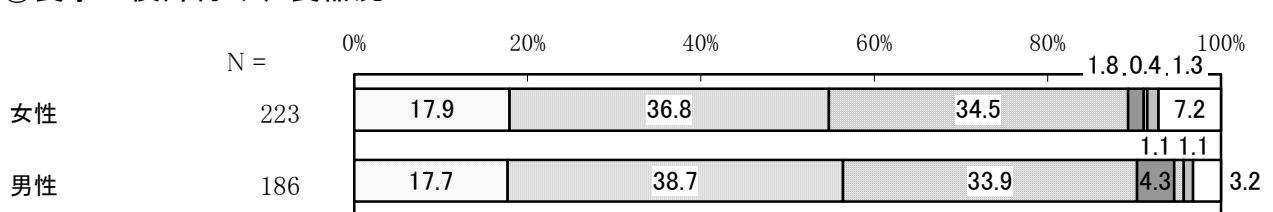
②洗濯



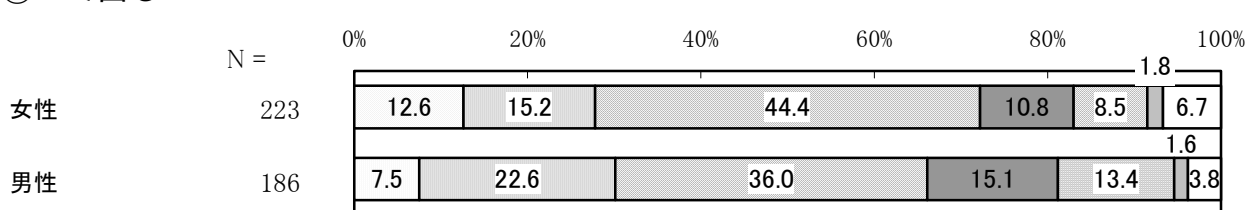
③食事のしたく



④食事の後片付け、食器洗い

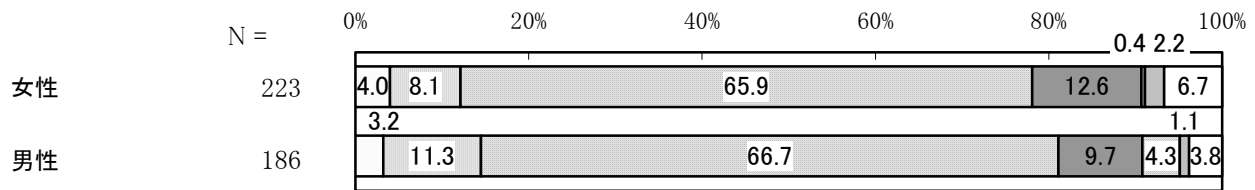


⑤ゴミ出し

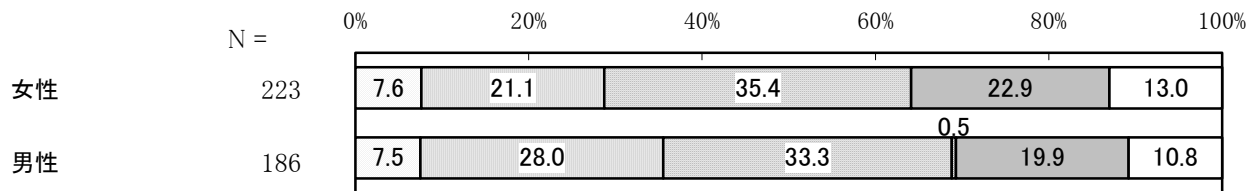


⑥近所づきあい

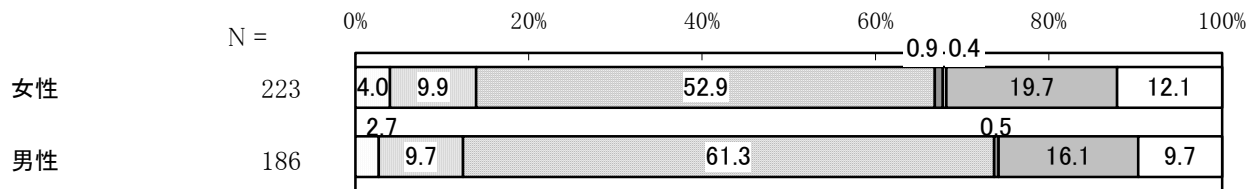
- すべて女性が担当
- 主に女性が担当し男性は手伝う程度
- 男女同じ程度
- 主に男性が担当し女性は手伝う程度
- すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答



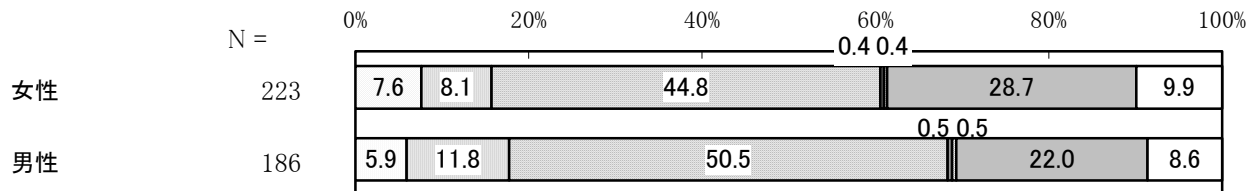
⑦乳幼児の世話



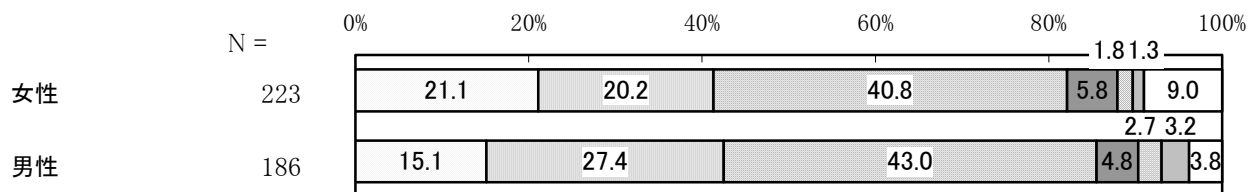
⑧子どもの教育



⑨介護



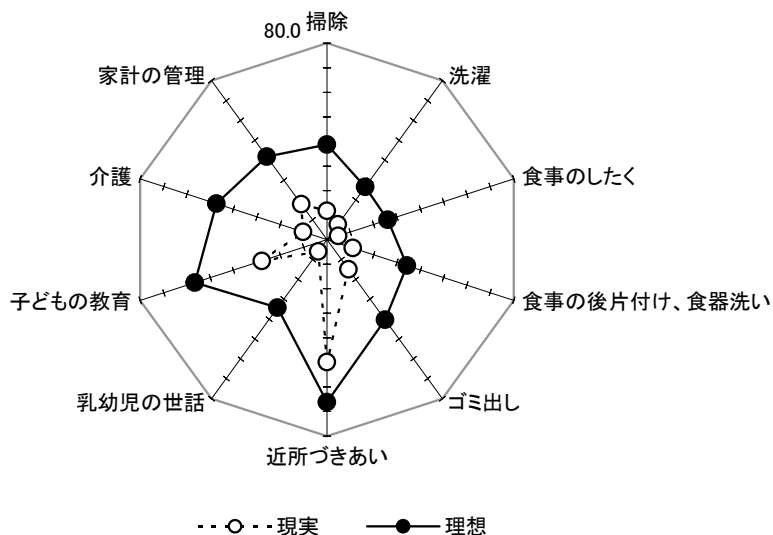
⑩家計の管理



## 【家庭での役割の現実と理想における「男女同じ程度」の回答割合】

### ～すべての分野で理想よりも男女平等でない～

「男女同じ」と回答した割合について現状（問 17）と理想（問 18）を比べてみると、すべての分野において、理想よりも男女平等に行えていないという結果になっています。



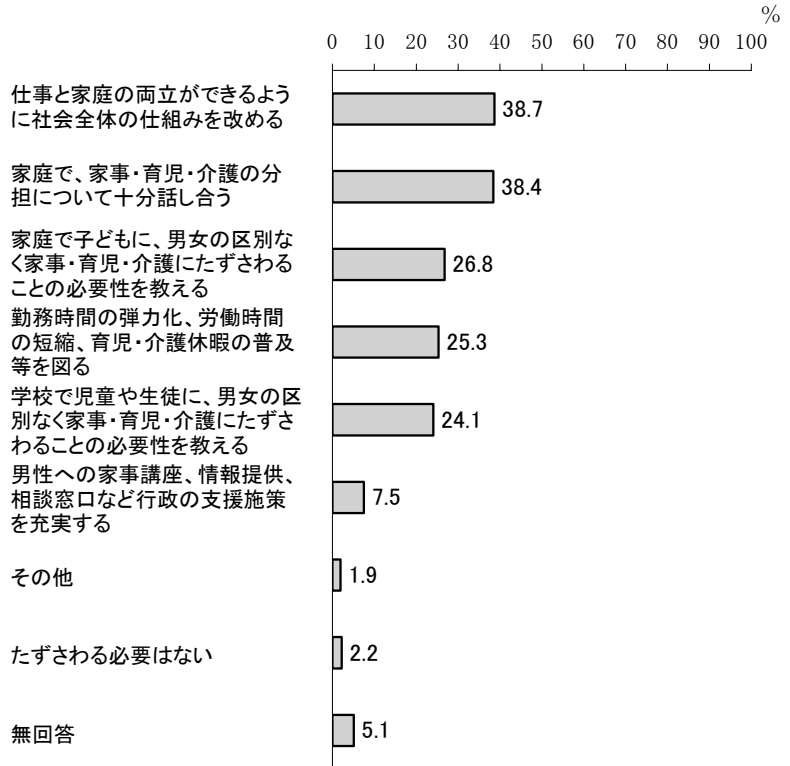
全員の方にお聞きします

問 19 男性が家事・育児・介護にたずさわるためには、どのようにしたらよいと思いますか。(2つまで○印)

～社会全体の仕組みを改める、家庭で十分話し合うことが必要～

「仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める」の割合が38.7%と最も高く、次いで「家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う」の割合が38.4%、「家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える」の割合が26.8%となっています。

N = 411



【性別】

～女性で「子どもの教育」が高い～

性別でみると、男性よりも女性の方が「家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える」の割合が約9ポイント高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う	家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える	勤務時間の弾力化、労働時間の短縮、育児・介護休暇の普及等を図る	学校で児童や生徒に、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える	男性への家事講座、情報提供、相談窓口など行政の支援施策を充実する	その他	たずさわる必要はない	無回答	
女性	223	36.8	38.6	24.7	30.9	23.8	7.6	2.2	0.9	6.7
男性	186	40.9	39.2	25.8	21.5	24.7	6.5	1.6	3.8	3.2



【年代別】

～20歳代、30歳代は社会の仕組みの改革、60歳以上は家庭での話し合いと子どもの教育～

年代別にみると、20歳代では「勤務時間の弾力化、労働時間の短縮、育児・介護休暇の普及等を図る」、30歳代では「仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める」の割合が最も高く、どの年代よりも高くなっています。また、60歳以上では「家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う」と「家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える」と「学校で児童や生徒に、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える」の割合がどの年代よりも高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う	仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める	勤務時間の弾力化、労働時間の短縮、育児・介護休暇の普及等を図る	家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える	学校で児童や生徒に、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える	男性への家事講座、情報提供、相談窓口など行政の支援施策を充実する	その他	たずさわることの必要性はない	無回答
20歳代	48	35.4	47.9	54.2	12.5	14.6	12.5	4.2	—	—
30歳代	45	33.3	57.8	40.0	11.1	13.3	6.7	2.2	2.2	—
40歳代	55	34.5	45.5	32.7	32.7	23.6	1.8	—	1.8	1.8
50歳代	82	40.2	41.5	28.0	20.7	26.8	7.3	1.2	1.2	1.2
60歳以上	176	40.9	29.0	10.8	35.8	29.0	8.5	2.3	3.4	9.1

【経年比較】

～「家庭で十分話し合うこと」と「社会の仕組みを改めること」が減少～

市の平成20年度、17年度調査と比較すると、「家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う」と「仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める」が年々減少しています。一方、「たずさわることの必要性はない」が増加しています。

単位：％

	家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う	仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める	勤務時間の弾力化、労働時間の短縮、育児・介護休暇の普及等を図る	家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える	学校で児童や生徒に、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える	男性への家事講座、情報提供、相談窓口など行政の支援施策を充実する	その他	たずさわることの必要性はない	無回答
田原市(H23.10)	38.4	38.7	25.3	26.8	24.1	7.5	1.9	2.2	5.1
女性	36.8	38.6	24.7	30.9	23.8	7.6	2.2	0.9	6.7
男性	40.9	39.2	25.8	21.5	24.7	6.5	1.6	3.8	3.2
田原市(H20.8)	40.0	39.8	24.2	26.9	25.4	6.7	2.0	1.0	5.7
女性	38.7	35.9	22.6	32.3	30.4	4.6	1.8	0.5	6.5
男性	42.9	45.1	25.3	20.3	18.7	8.8	2.2	1.6	4.4
田原市(H18.3)	45.7	44.0	29.0	30.2	23.6	8.7	3.1	1.5	—
女性	44.7	40.8	30.0	32.6	26.3	9.7	2.4	0.5	—
男性	46.8	49.1	27.9	26.8	19.7	7.4	4.1	3.0	—

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成20年8月）

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成18年3月）

全員の方にお聞きします

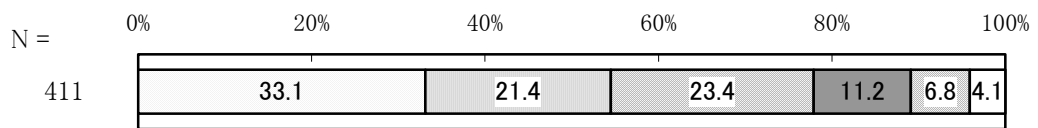
問 20 結婚、家庭、離婚について、あなたのご意見に最も近いものをお答え下さい。  
 (①から⑥でそれぞれ1つずつ○印)

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

～ “賛成” の回答が約半数～

「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が54.5%、「反対」と「どちらかといえば反対」をあわせた“反対”の割合が34.6%となっています。

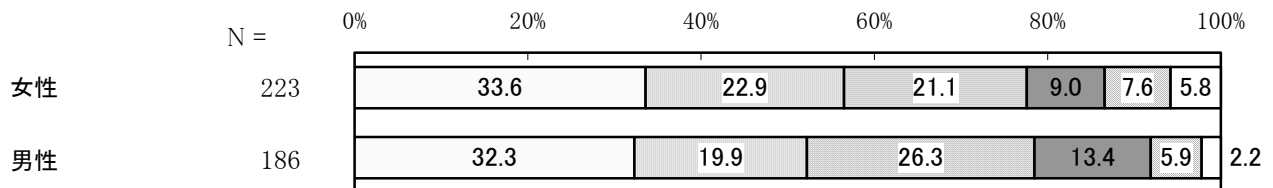
- 賛成
- どちらかといえば賛成
- どちらかといえば反対
- 反対
- わからない
- 無回答



【性別】

～男性のほうが結婚する・しないの選択の自由に反対～

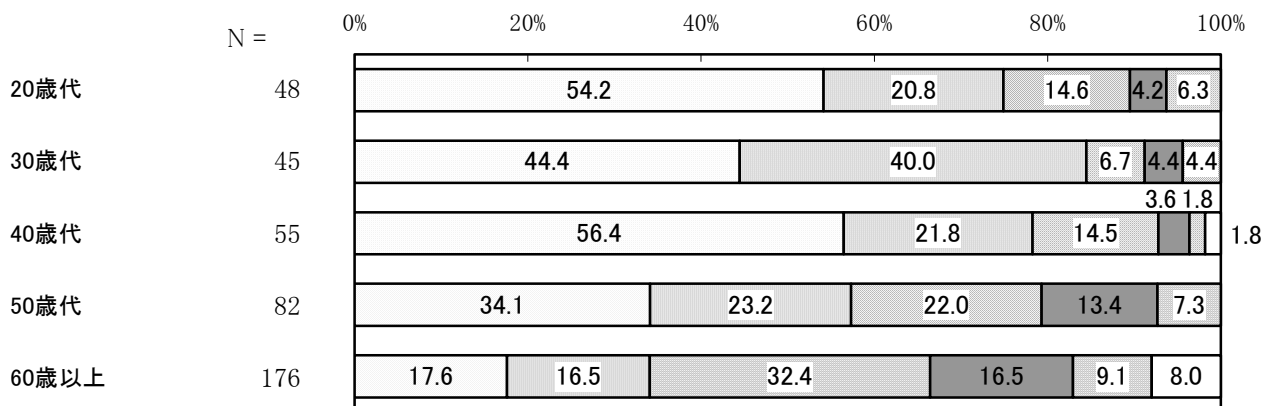
性別でみると、女性よりも男性の方が“反対”の割合が約10ポイント高くなっています。



【年代別】

～若い年代ほど結婚する・しないの選択の自由に賛成～

年代別でみると、30歳代では“賛成”の割合が84.4%、“反対”の割合が11.1%となっています。一方、60歳以上では、“賛成”の割合が34.1%、“反対”の割合が48.9%となっています。



## 【国・県の調査の比較と経年比較】

### ～国・県の調査よりも“賛成”の回答率が低い～

国の調査と比較すると、国の調査よりも“賛成※”の割合が低くなっています。また、県の調査結果と比較すると、同様に“賛成”の割合が低くなっています。

市の平成20年度、17年度調査と比較すると、大きな数値の差は見られず、同じような傾向になっています。

単位：％

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
田原市(H23.10)	33.1	21.4	23.4	11.2	6.8	4.1
女性	33.6	22.9	21.1	9.0	7.6	5.8
男性	32.3	19.9	26.3	13.4	5.9	2.2
田原市(H20.8)	34.1	21.5	22.2	12.1	5.7	4.4
女性	33.2	21.2	24.9	9.7	5.1	6.0
男性	36.3	20.9	18.7	15.4	6.6	2.2
田原市(H18.3)	34.1	25.2	23.8	12.0	4.9	—
女性	40.0	25.3	20.0	9.8	5.0	—
男性	26.0	24.7	29.2	15.3	4.9	—
愛知県(H20.9)	37.9	25.0	20.6	9.3	7.3	
女性	42.4	25.8	18.4	6.2	7.2	
男性	32.6	23.9	23.2	13.0	7.3	
国(H21.10)	51.2	22.2	15.9	9.0	1.7	—
女性	50.8	22.7	14.9	10.1	1.6	—
男性	44.8	21.3	19.1	12.3	2.6	—

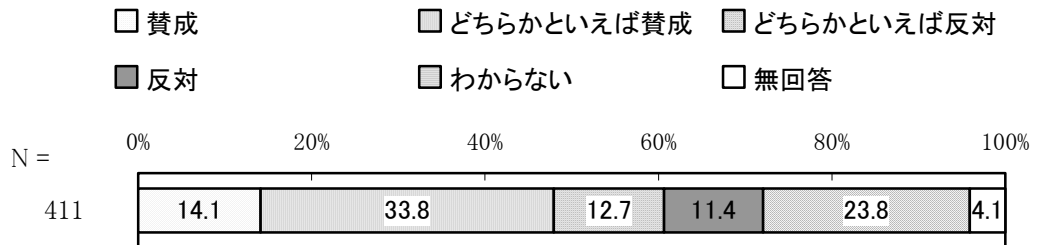
資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成20年8月）  
 田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成18年3月）  
 愛知県「男女共同参画意識に関する調査」（平成20年9月調査）  
 国（内閣府）「男女共同参画に関するアンケート調査」（平成21年10月調査）

※ “賛成”は「賛成」と「どちらかといえば賛成」の計

②女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚するほうがよい

～“賛成”の回答が約半数～

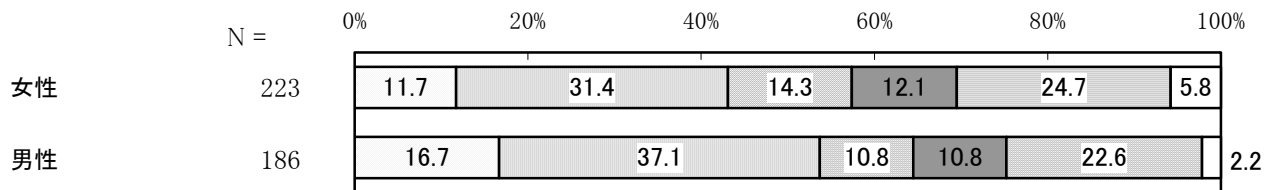
「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が47.9%、「反対」と「どちらかといえば反対」をあわせた“反対”の割合が24.1%となっています。



【性別】

～男性のほうが結婚したほうがよいことに賛成～

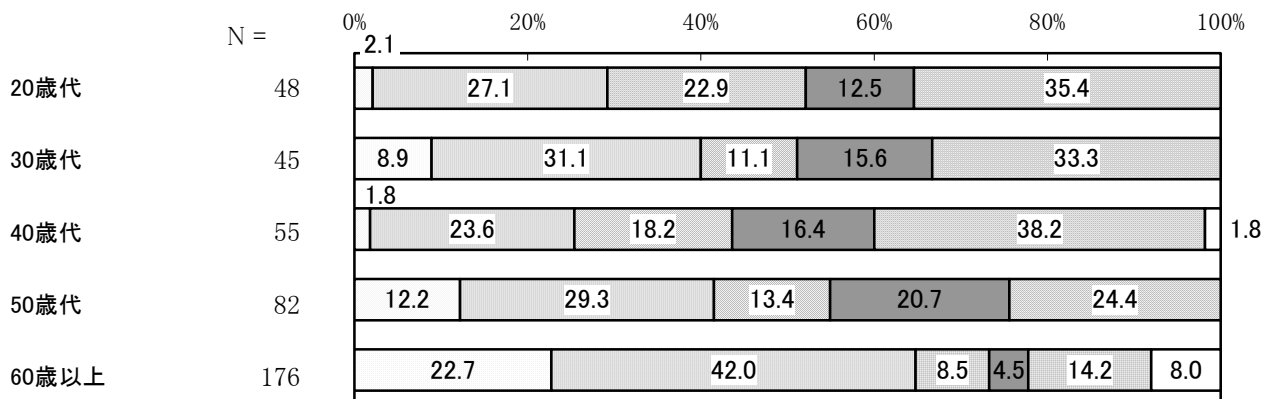
性別でみると、女性よりも男性の方が“賛成”の割合が約11ポイント高くなっています。



【年代別】

～高い年代ほど結婚したほうがよいことに賛成～

年代別でみると、40歳代では“賛成”の割合が25.4%、“反対”の割合が34.6%となっています。一方、60歳以上では、“賛成”の割合が64.7%、“反対”の割合が13.0%となっています。



【経年比較】

～ “反対” の回答が年々減少～

市の平成 20 年度、17 年度調査と比較すると、各年度男女とも“賛成※1”が“反対※2”の回答を上回っています。また、“反対”の割合は年々減少しています。

単位：%

	賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらかといえ ば反対	反対	わからない	無回答
田原市(H23.10)	14.1	33.8	12.7	11.4	23.8	4.1
女性	11.7	31.4	14.3	12.1	24.7	5.8
男性	16.7	37.1	10.8	10.8	22.6	2.2
田原市(H20.8)	14.6	30.6	13.3	13.6	23.2	4.7
女性	12.0	28.6	14.7	17.5	20.7	6.5
男性	18.1	31.3	12.1	9.3	26.9	2.2
田原市(H18.3)	12.1	32.2	17.9	17.1	20.7	-
女性	9.3	28.8	19.2	20.5	22.2	-
男性	15.3	37.3	16.4	12.5	18.5	-

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成 18 年 3 月）

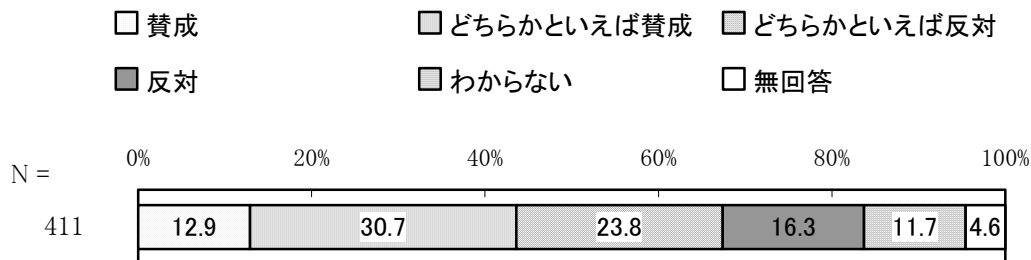
※1 “賛成”は「賛成」と「どちらかといえば賛成」の計

※2 “反対”は「反対」と「どちらかといえば反対」の計

③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

～ “賛成” と “反対” の回答がほぼ同数～

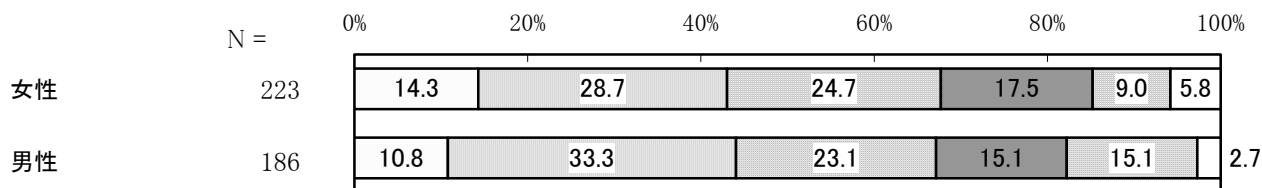
「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が43.6%、「反対」と「どちらかといえば反対」をあわせた“反対”の割合が40.1%となっています。



【性別】

～女性で家族中心の生活に “反対” がやや高い～

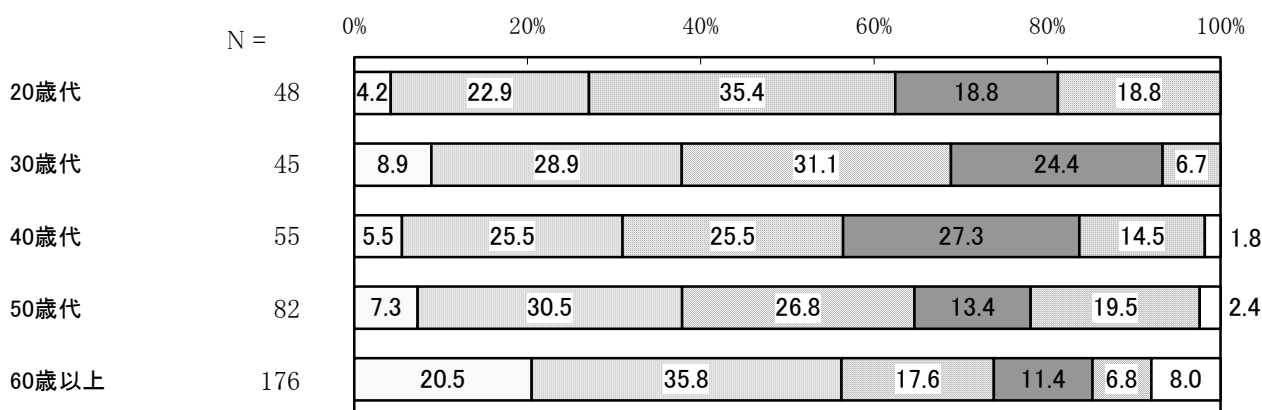
性別で見ると、男性よりも女性の方が“反対”の割合が約4ポイント高くなっています。



【年代別】

～60歳以上の約6割が女性は結婚したら家庭中心の生活に “賛成” ～

年代別で見ると、20歳代から50歳代までは“賛成”の割合が4割以下となっていますが、60歳以上では、“賛成”の割合が56.3%で、どの年齢層よりも高くなっています。



【経年比較】

～前回調査と同じ傾向～

市の平成 20 年度、17 年度調査と比較すると、大きな数値の差は見られず、同じような傾向になっています。

単位：%

	賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらかといえ ば反対	反対	わからない	無回答
田原市(H23.10)	12.9	30.7	23.8	16.3	11.7	4.6
女性	14.3	28.7	24.7	17.5	9.0	5.8
男性	10.8	33.3	23.1	15.1	15.1	2.7
田原市(H20.8)	10.9	30.6	24.9	18.0	10.9	4.7
女性	10.1	28.6	27.6	19.4	7.8	6.5
男性	11.5	33.0	22.0	16.5	14.8	2.2
田原市(H18.3)	12.7	34.5	26.6	17.6	8.6	—
女性	12.8	32.7	28.4	18.6	7.5	—
男性	12.2	36.9	24.4	16.4	10.1	—

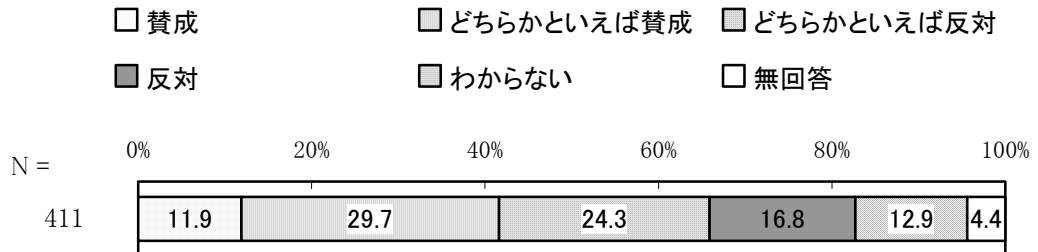
資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成 18 年 3 月）

④夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

～“賛成”と“反対”の回答がほぼ同数～

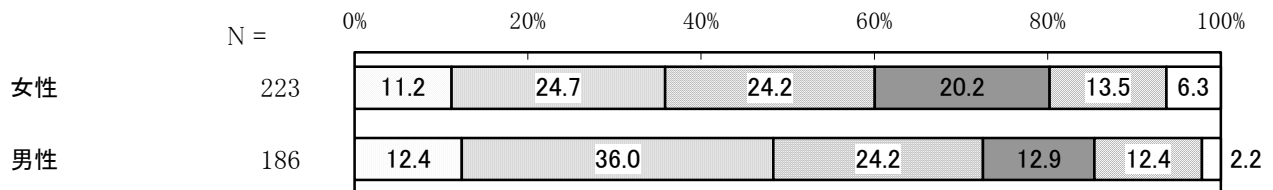
「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が41.4%、「反対」と「どちらかといえば反対」をあわせた“反対”の割合が41.1%となっています。



【性別】

～男性のほうが夫が外で働き、妻が家庭を守ることに賛成～

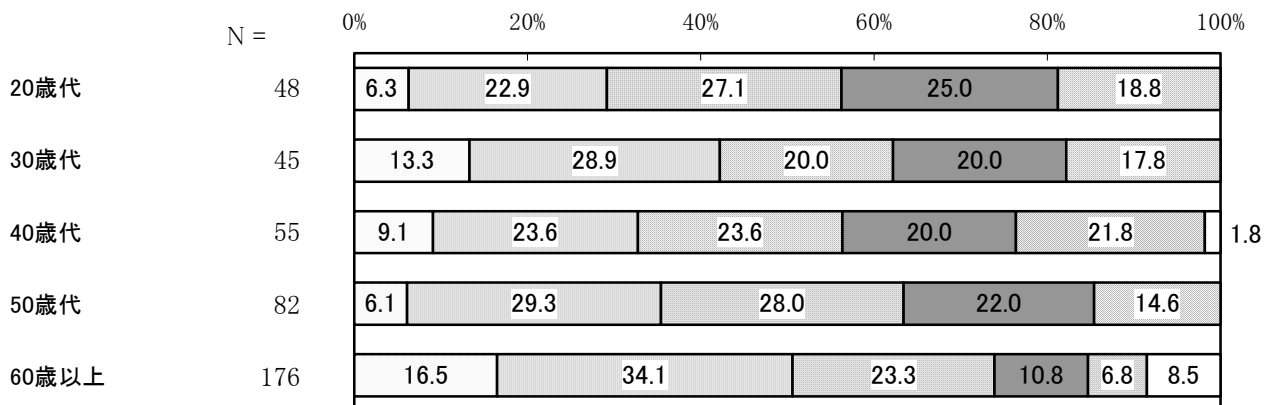
性別でみると、女性よりも男性の方が“賛成”の割合が約13ポイント高くなっています。



【年代別】

～60歳以上の約5割が夫が外で働き、妻が家庭を守ることに賛成～

年代別でみると、20歳代では“賛成”の割合が29.2%、“反対”の割合が52.1%となっています。一方、60歳以上では、“賛成”の割合が50.6%、“反対”の割合が34.1%となっています。





【国の調査の比較と経年比較】

～国の調査よりも“反対”が低い～

国の調査と比較すると、国の調査よりも“反対※”の割合が 14 ポイント低くなっています。

市の平成 20 年度調査と比較すると、大きな数値の差は見られず、同じような傾向になっています。

単位：％

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
田原市(H23.10)	11.9	29.7	24.3	16.8	12.9	4.4
女性	11.2	24.7	24.2	20.2	13.5	6.3
男性	12.4	36.0	24.2	12.9	12.4	2.2
田原市(H20.8)	9.1	32.6	24.7	17.8	11.1	4.7
女性	7.4	30.0	25.3	21.2	9.7	6.5
男性	11.5	34.6	24.7	14.3	12.6	2.2
国(H21.10)	10.6	30.7	31.3	23.8	3.6	—
女性	9.5	27.8	32.0	26.6	4.0	—
男性	11.9	34.0	30.4	20.7	3.1	—

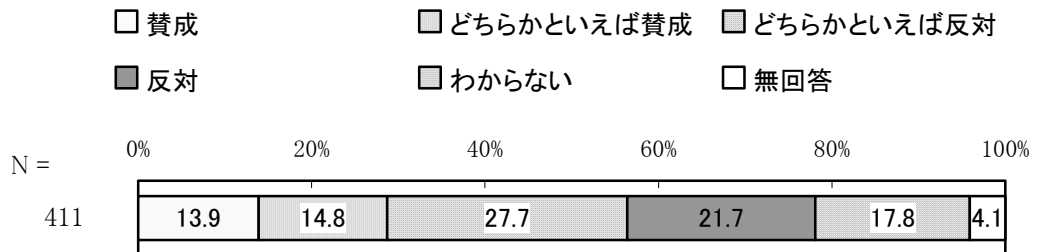
資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）  
 国（内閣府）「男女共同参画に関するアンケート調査」（平成 21 年 10 月調査）

※ “反対”は「反対」と「どちらかといえば反対」の計

⑤結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

～結婚しても子どもをもつ必要性がないことに“反対”が約半数～

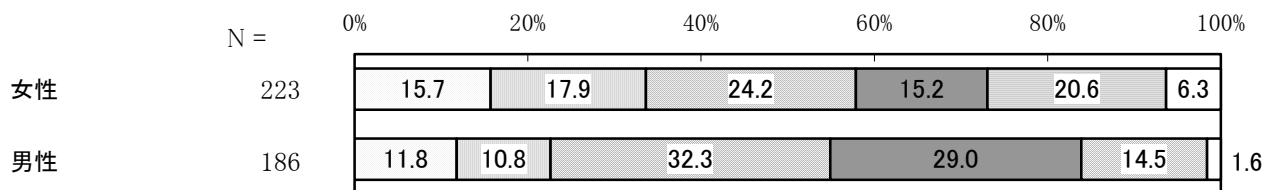
「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が28.7%、「反対」と「どちらかといえば反対」をあわせた“反対”の割合が49.4%となっています。



【性別】

～男性のほうが結婚しても子どもをもつ必要性がないことに反対～

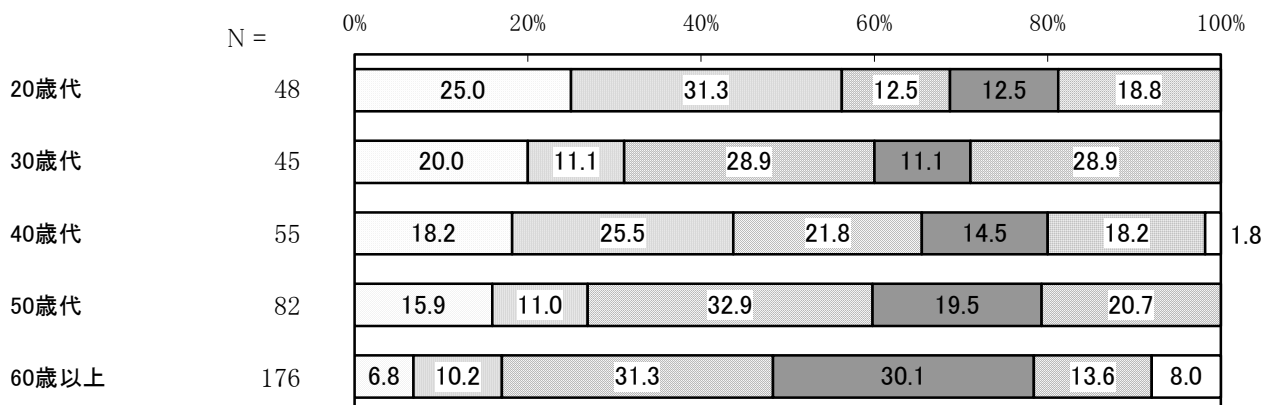
性別でみると、男性よりも女性の方が“賛成”の割合が約11ポイント高くなっています。一方、女性よりも男性の方が“反対”の割合が約22ポイント高くなっています。



【年代別】

～年齢が低いほど結婚しても子どもをもつ必要性がないことに賛成～

年代別でみると、20歳代では“賛成”の割合が56.3%、“反対”の割合が25.0%となっています。一方、60歳以上では、“賛成”の割合が17.0%、“反対”の割合が61.4%となっています。



## 【国・県の調査の比較と経年比較】

### ～国・県の調査よりも“賛成”が低い～

国の調査と比較すると、国の調査よりも“賛成※”の割合が約 14 ポイント低くなっています。また、県の調査結果と比較すると、同様に“賛成”の割合が約 14 ポイント低くなっています。

市の平成 20 年度調査と比較すると、大きな数値の差は見られず、同じような傾向になっています。

単位：％

	賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらかといえ ば反対	反対	わからない	無回答
田原市(H23.10)	13.9	14.8	27.7	21.7	17.8	4.1
女性	15.7	17.9	24.2	15.2	20.6	6.3
男性	11.8	10.8	32.3	29.0	14.5	1.6
田原市(H20.8)	14.6	14.3	28.6	20.7	17.0	4.7
女性	15.2	14.7	29.0	16.6	18.0	6.5
男性	14.3	13.7	28.0	26.4	15.4	2.2
愛知県(H20.9)	24.2	19.0	27.9	16.7		12.3
女性	26.8	20.0	27.2	12.4		13.5
男性	21.0	17.7	28.7	21.7		10.8
国(H21.10)	22.5	20.3	30.1	22.8	4.3	－
女性	25.3	21.2	29.9	19.8	3.9	－
男性	19.3	19.4	30.4	26.2	4.8	－

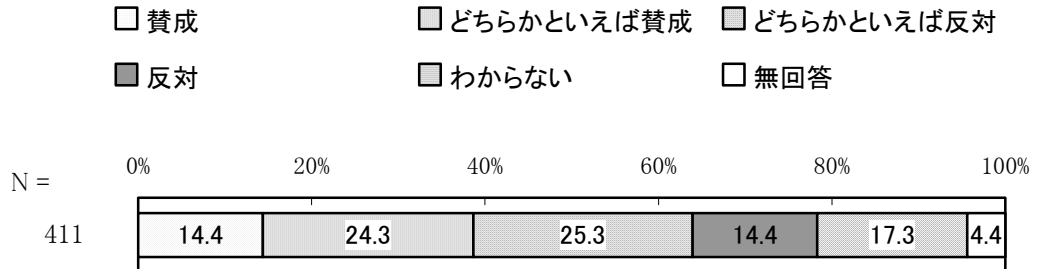
資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）  
 愛知県「男女共同参画意識に関する調査」（平成 20 年 9 月調査）  
 国（内閣府）「男女共同参画に関するアンケート調査」（平成 21 年 10 月調査）

※ “賛成”は「賛成」と「どちらかといえば賛成」の計

⑥結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

～“反対”の割合がやや高い～

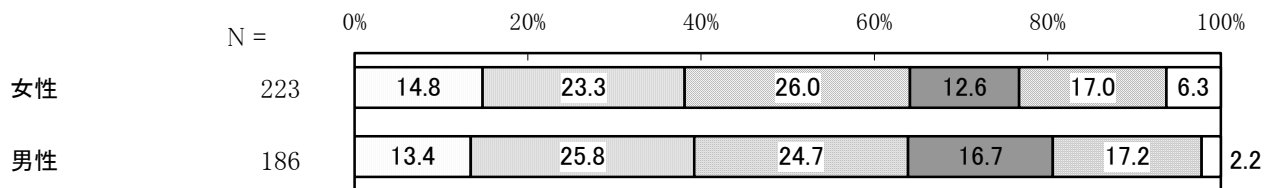
「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が38.7%、「反対」と「どちらかといえば反対」をあわせた“反対”の割合が39.7%となっています。



【性別】

～男性のほうが離婚に“反対”が高い～

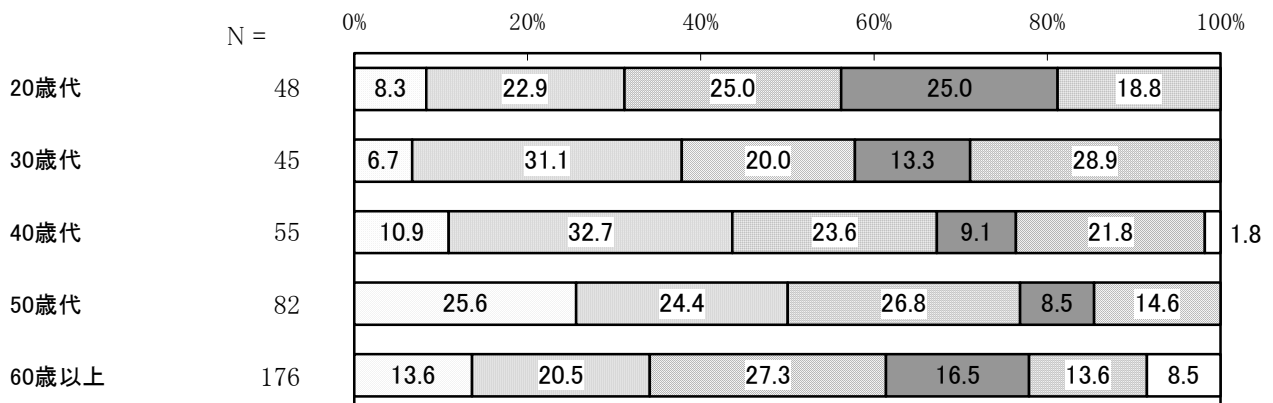
性別でみると、「反対」の割合が女性よりも男性の方が4ポイントほど高くなっていますが、他で大きな差はありません。



【年代別】

～50歳代以下では、年齢が高いほど離婚に“賛成”が高い～

年代別でみると、20歳代では“賛成”の割合が31.2%、“反対”の割合が50.0%となっています。一方、50歳代では、“賛成”の割合が50.0%、“反対”の割合が35.3%となっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

～国・県の調査よりも“賛成”が低い～

国の調査と比較すると、国の調査よりも“賛成※”の割合が約 11 ポイント低くなっています。また、県の調査結果と比較すると、県の調査よりも“賛成”の割合が低くなっています。

市の平成 20 年度、17 年度調査と比較すると、“賛成”の割合が前回調査に比べ約 8 ポイント増加しています。

単位：％

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
田原市(H23.10)	14.4	24.3	25.3	14.4	17.3	4.4
女性	14.8	23.3	26.0	12.6	17.0	6.3
男性	13.4	25.8	24.7	16.7	17.2	2.2
田原市(H20.8)	13.1	17.8	28.9	16.3	19.3	4.7
女性	13.8	17.1	29.0	13.8	20.3	6.0
男性	12.6	18.1	29.1	19.2	18.1	2.7
田原市(H18.3)	15.3	22.1	29.3	13.8	19.5	—
女性	16.9	23.7	28.5	10.1	20.9	—
男性	12.8	20.1	30.0	19.1	17.4	—
愛知県(H20.9)	19.2	25.6	26.8	12.2		16.2
女性	19.3	26.6	25.2	10.8		18.1
男性	19.1	24.3	28.8	13.9		13.9
国(H21.10)	21.9	28.2	29.3	15.5	5.1	—
女性	24.7	29.1	27.7	13.5	4.9	—
男性	18.6	27.3	31.1	17.7	5.3	—

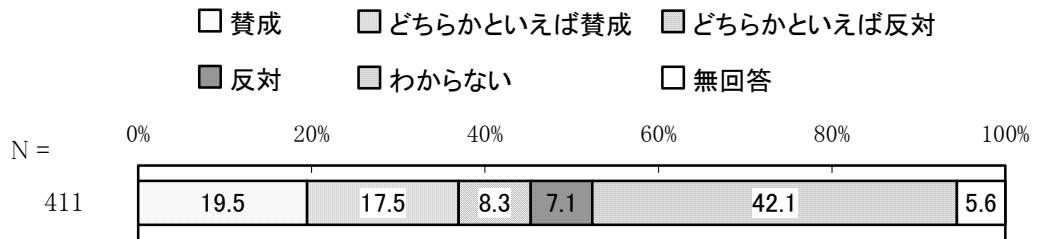
資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）  
 田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成 18 年 3 月）  
 愛知県「男女共同参画意識に関する調査」（平成 20 年 9 月調査）  
 国（内閣府）「男女共同参画に関するアンケート調査」（平成 21 年 10 月調査）

※ “賛成”は「賛成」と「どちらかといえば賛成」の計

⑦一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である

～“賛成”より“反対”の割合が高い～

「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が37.0%、「反対」と「どちらかといえば反対」をあわせた“反対”の割合が15.4%となっています。



【性別】

～女性のほうが離婚すると女性の立場が不利と回答～

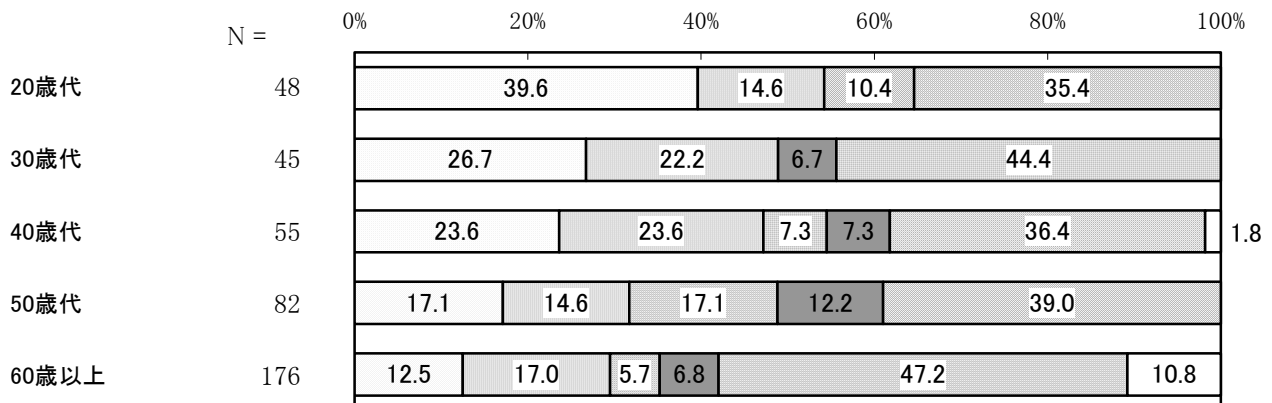
性別で見ると、男性よりも女性の方が“賛成”の割合が約12ポイント高くなっています。一方、女性よりも男性の方が“反対”の割合が約12ポイント高くなっています。



【年代別】

～年代が低いほど離婚すると女性の立場が不利と回答する割合が高い～

年代別で見ると、年齢層が低くなるほど、“賛成”の割合が高くなっており、20歳代では“賛成”の割合が54.2%となっています。一方、60歳以上では、“賛成”の割合が29.5%となっています。



【経年比較】

～離婚すると女性の立場が不利と回答する割合が年々減少～

市の平成 20 年度、17 年度調査と比較すると、男女とも“賛成※”が年々減少しています。

単位：%

	賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらかといえ ば反対	反対	わからない	無回答
田原市(H23.10)	19.5	17.5	8.3	7.1	42.1	5.6
女性	24.7	17.5	6.3	3.6	39.9	8.1
男性	12.9	17.7	10.8	11.3	44.6	2.7
田原市(H20.8)	21.2	17.5	7.4	4.7	43.2	5.9
女性	24.4	18.0	6.5	2.3	41.9	6.9
男性	18.1	17.0	8.8	7.7	44.0	4.4
田原市(H18.3)	26.1	20.4	9.5	5.4	38.5	—
女性	30.4	20.3	8.1	4.8	36.5	—
男性	20.4	20.8	11.6	6.3	40.8	—

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成 18 年 3 月）

※ “賛成”は「賛成」と「どちらかといえば賛成」の計

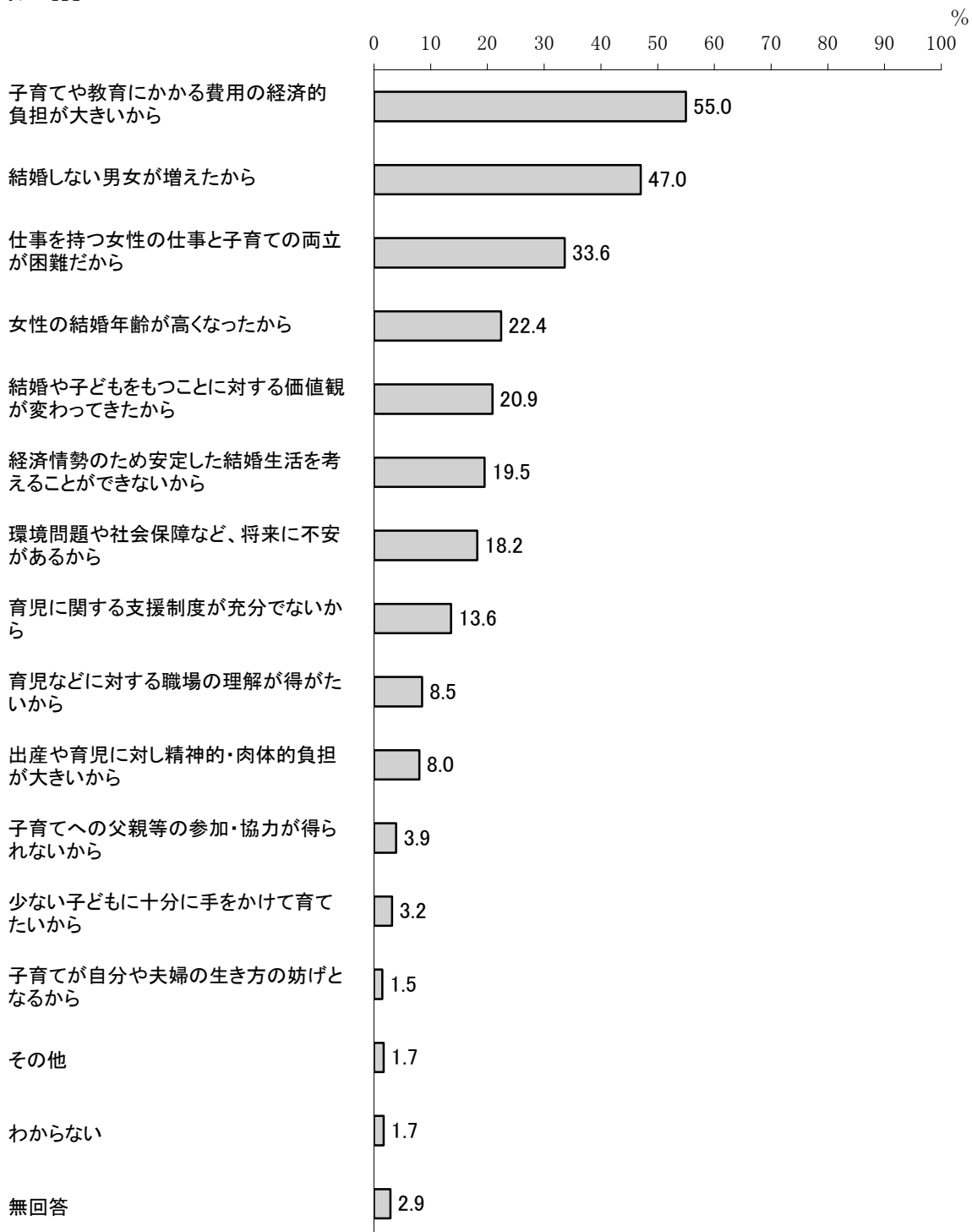
全員の方にお聞きします

問 21 少子化が社会問題となっています。あなたが特に大きな要因と思うのはどれですか。(3つまで○印)

### ～「経済的負担」が5割強～

「子育てや教育にかかる費用の経済的負担が大きいから」の割合が55.0%と最も高く、次いで「結婚しない男女が増えたから」の割合が47.0%、「仕事を持つ女性の仕事と子育ての両立が困難だから」の割合が33.6%となっています。

N = 411





## 結婚、家庭生活に関する回答結果のまとめ

- 家庭生活の現状で「すべて女性が担当」と回答している人が前回調査よりも減少傾向にある
- 家庭での男女の役割の理想は、「男女同じ程度」だが、現実には男女平等でない
- 男性が家事・育児・介護にたずさわるためには、社会全体の仕組みを改めること、家庭で十分話し合うことが必要
- 結婚については個人の自由に賛成する傾向がある
- 結婚しても子どもをもつ必要性がないことに“賛成”が国や県よりも低い
- 少子化の大きな要因は経済的負担であるとする意見が最も多い

## 4 子育て、子どもの教育について

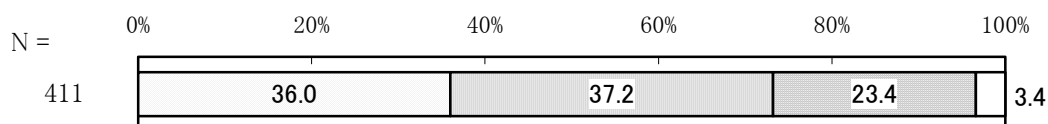
全員の方にお聞きします

問 22 「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」という考え方について、どのように思いますか。(1つに○印)

### ～「同じように育てたほうがよい」と 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」がほぼ同じ割合～

「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てた方がよい」の割合が 37.2%と最も高く、次いで「男の子、女の子と区別せずに、同じように育てた方がよい」の割合が 36.0%、「どちらともいえない」の割合が 23.4%となっています。

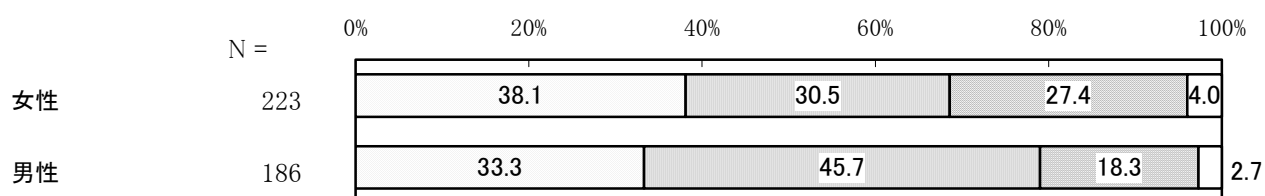
- 男の子、女の子と区別せずに、同じように育てた方がよい
- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てた方がよい
- どちらともいえない
- 無回答



#### 【性別】

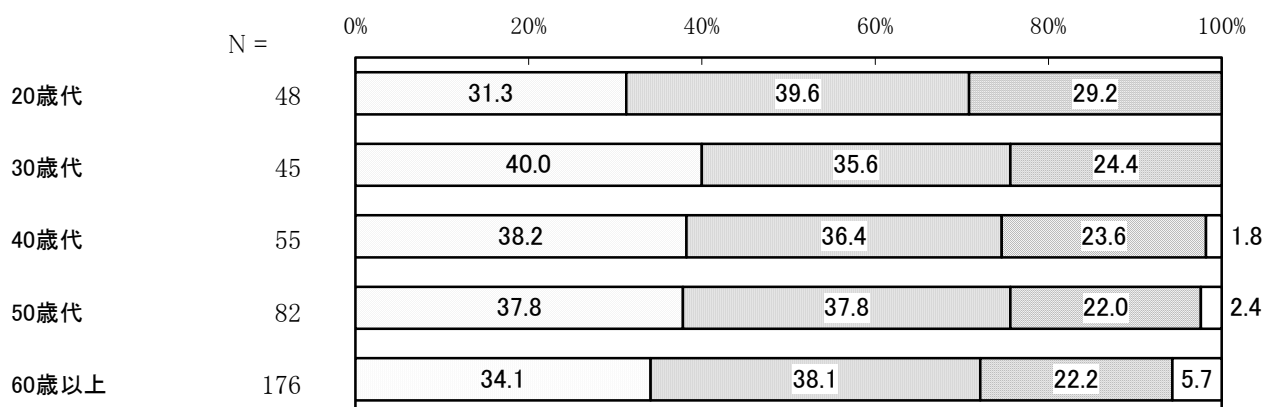
### ～男性の方が「男の子は男らしく、女の子は女らしく」～

性別でみると、女性よりも男性の方が「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てた方がよい」の割合が 45.7%と高くなっています。



#### 【年代別】

年代別にみると、大きな差はみられません。



【経年比較】

～「同じように育てたほうがよい」が年々増加～

市の平成 20 年度、17 年度調査と比較すると、男女とも「男の子、女の子と区別せずに、同じように育てたほうがよい」が年々増加しています。

単位：％

	男の子、女の子と区別せずに、同じように育てたほうがよい	「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てたほうがよい	どちらともいえない	無回答
田原市(H23.10)	36.0	37.2	23.4	3.4
女性	38.1	30.5	27.4	4.0
男性	33.3	45.7	18.3	2.7
田原市(H20.8)	31.6	43.0	22.2	3.2
女性	35.5	34.1	26.3	4.1
男性	27.5	53.3	17.6	1.6
田原市(H18.3)	24.5	48.2	27.3	—
女性	26.8	41.2	32.0	—
男性	21.4	58.3	20.3	—

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）  
 田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成 18 年 3 月）

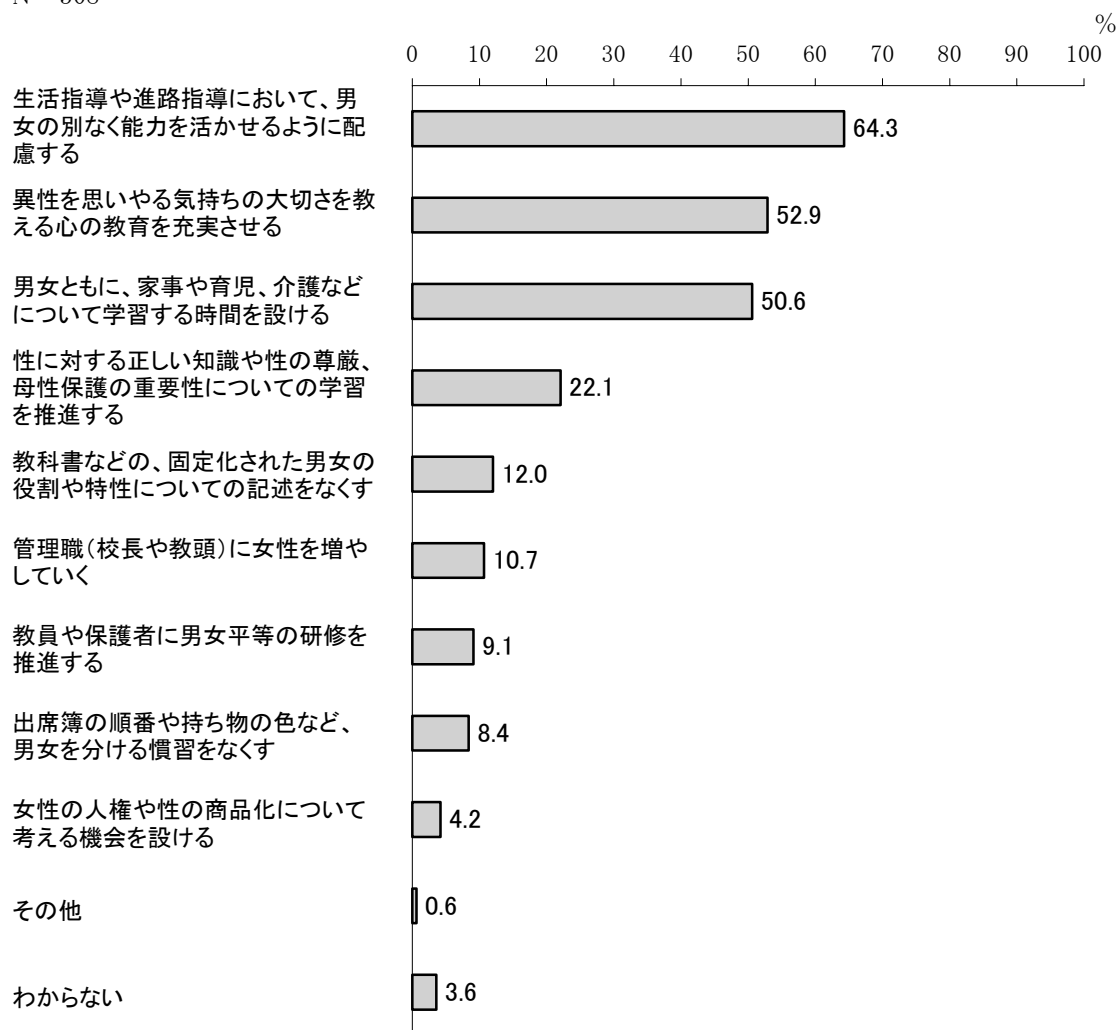
子どもをお持ちの方にお聞きします

問 23 男女平等の意識を育てるために、学校教育ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（3つまで○印）

### ～「生活指導での配慮」「心の教育」「家事・育児・介護の学習」が5割以上～

「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を活かせるように配慮する」の割合が64.3%と最も高く、次いで「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」の割合が52.9%、「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が50.6%となっています。

N = 308



【性別】

～男性で女性よりも「男女ともに家事・育児・介護について学習」～

性別でみると、男性よりも女性の方が「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が約7.4ポイント高くなっています。 単位：%

区分	有効回答数（件）	生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を活かせるように配慮する	教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす	異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる	男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける	性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する	女性の権利や性の商品化について考える機会を設ける	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく	出席簿の順番や持ち物の色など、男女を分ける慣習をなくす	その他	わからない
女性	174	61.5	11.5	51.7	54.0	22.4	5.2	8.0	10.3	8.0	0.6	5.7
男性	133	67.7	12.8	54.9	46.6	21.8	3.0	10.5	11.3	9.0	0.8	0.8

【年代別】

～40歳代で「生活指導での配慮」が約7割、50歳代で「心の教育」が6割強～

年代別にみると、40歳代の「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を活かせるように配慮する」の割合が70.8%、50歳代の「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」の割合が63.4%で、どの年齢層よりも高くなっています。 単位：%

区分	有効回答数（件）	生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を活かせるように配慮する	教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす	異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる	男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける	性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する	女性の権利や性の商品化について考える機会を設ける	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく	出席簿の順番や持ち物の色など、男女を分ける慣習をなくす	その他	わからない
20歳代	22	59.1	13.6	50.0	59.1	18.2	-	4.5	27.3	18.2	-	-
30歳代	34	58.8	17.6	44.1	52.9	17.6	5.9	2.9	14.7	8.8	2.9	5.9
40歳代	48	70.8	18.8	41.7	50.0	10.4	4.2	4.2	8.3	14.6	-	-
50歳代	71	62.0	9.9	63.4	52.1	21.1	7.0	5.6	9.9	5.6	1.4	1.4
60歳以上	129	65.1	9.3	55.0	47.3	29.5	3.1	14.7	7.0	5.4	-	6.2

【経年比較】

～「心の教育」「性の尊厳の学習を推進」が年々減少～

市の平成20年度、17年度調査と比較すると、男女とも「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」と「性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する」が年々減少しています。

単位：%

	生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を活かせるように配慮する	教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす	異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる	男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける	性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する	女性の人権や性の商品化について考える機会を設ける	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく	出席簿の順番や持ち物の色など、男女を分ける慣習をなくす	その他	わからない
田原市 (H23.10)	64.3	12.0	52.9	50.6	22.1	4.2	9.1	10.7	8.4	0.6	3.6
女性	61.5	11.5	51.7	54.0	22.4	5.2	8.0	10.3	8.0	0.6	5.7
男性	67.7	12.8	54.9	46.6	21.8	3.0	10.5	11.3	9.0	0.8	0.8
田原市 (H20.8)	60.0	10.2	59.3	56.5	31.2	3.9	6.7	9.5	4.9	2.8	2.1
女性	54.7	8.2	60.4	67.9	32.7	5.0	5.0	9.4	3.1	1.3	1.9
男性	66.4	12.3	57.4	43.4	27.9	2.5	9.0	9.8	6.6	4.9	2.5
田原市 (H18.3)	64.9	11.6	63.2	58.5	34.7	5.0	13.7	12.0	5.3	2.1	7.3
女性	63.5	12.2	62.3	65.8	35.2	5.0	10.2	9.9	5.2	1.7	8.2
男性	67.6	10.9	65.2	49.1	34.5	5.1	18.4	15.0	5.5	2.7	5.1

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成20年8月）

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成18年3月）

## 子育て、子どもの教育に関する回答結果のまとめ

- 子どもは男女の別なく同じように育てたほうがよいと考える人が年々増加している
- 男性の方が「男の子は男らしく、女の子は女らしく」と考える人の割合が高い
- 女性の方が男女ともに家事・育児・介護について学習する時間を設けることが必要だと感じている人の割合が高い
- 男女平等の意識を育てるためには、心の教育、性の尊厳の学習を推進することが必要だと感じている人が年々減少している

## 5 働くことについて

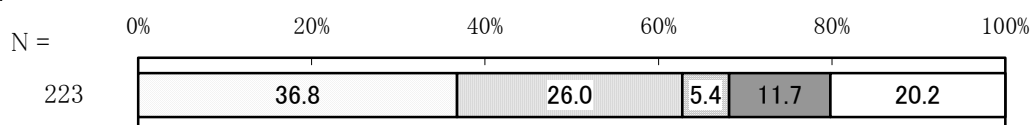
問 24～26 は女性の方にお聞きします

問 24 あなたの退職経験についてお答えください。(1つに○印)

### ～女性の約6割が“退職経験あり”～

「かつて働いていて退職の経験があり、現在は就業している」と「かつて働いていて退職し、現在無職」をあわせた“退職経験あり”の割合が62.8%となっています。

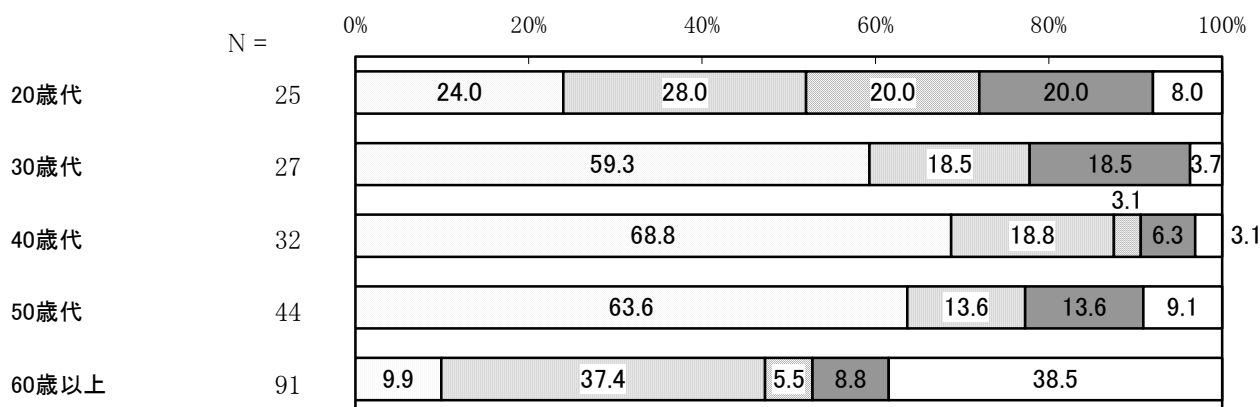
- かつて働いていて退職の経験があり、現在は就業している
  かつて働いていて退職し、現在無職  
 就業経験なし
  就業中で退職経験なし  
 無回答



#### 【年代別】

### ～30歳から50歳代で“退職経験あり”が7割以上～

年代別でみると、30歳代から50歳代は“退職経験あり”の割合が7割から9割になっており、40歳代が87.6%と最も高くなっています。また、「かつて働いていて退職し、現在無職」の割合は60歳以上が37.4%と最も高くなっています。



#### 【経年比較】

### ～「退職経験があり、現在就業している」は年々減少～

市の平成20年度、17年度調査と比較すると、「かつて働いていて退職し、現在無職」を除くすべての項目で割合が年々減少しています。

単位：%

	かつて働いていて退職の経験があり、現在は就業している	かつて働いていて退職し、現在無職	就業経験なし	就業中で退職経験なし	無回答
田原市(H23.10) 女性	36.8	26.0	5.4	11.7	20.2
田原市(H20.8) 女性	41.5	22.1	7.8	12.4	16.1
田原市(H18.3) 女性	48.7	24.1	8.2	19.0	-

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」(平成20年8月)

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」(平成18年3月)

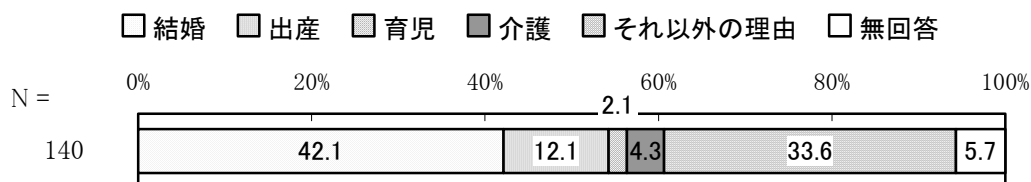


問 24 で「かつて働いていて退職の経験があり、現在は就業している」「かつて働いていて退職し、現在無職」と答えた方のみにお聞きします

問 25 かつて退職した理由をお聞かせください。(1つに○印)

### ～女性の4割が結婚退職～

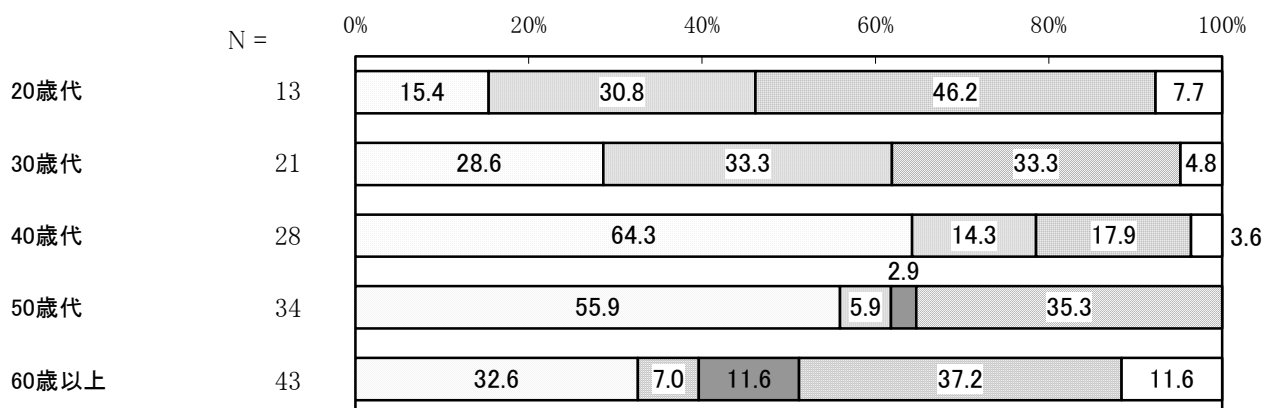
「結婚」の割合が42.1%と最も高く、次いで「それ以外の理由」の割合が33.6%、「出産」の割合が12.1%となっています。



#### 【年代別】

### ～20歳代、30歳代では出産、40歳代、50歳代では結婚～

年代別でみると、20歳代と30歳代は「出産」の割合が高く、40歳代と50歳代は「結婚」の割合が高くなっています。



#### 【経年比較】

### ～介護による退職が年々増加～

市の平成20年度、17年度調査と比較すると、「結婚」の割合が平成17年度に比べ減少しています。一方、「介護」の割合が年々増加しています。

単位：%

	結婚	出産	育児	介護	それ以外の理由	無回答
田原市(H23.10)女性	42.1	12.1	2.1	4.3	33.6	5.7
田原市(H20.8)女性	42.0	23.9	3.6	1.4	23.2	5.8
田原市(H18.3)女性	52.8	13.1	4.9	0.7	28.5	-

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」(平成20年8月)  
田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」(平成18年3月)

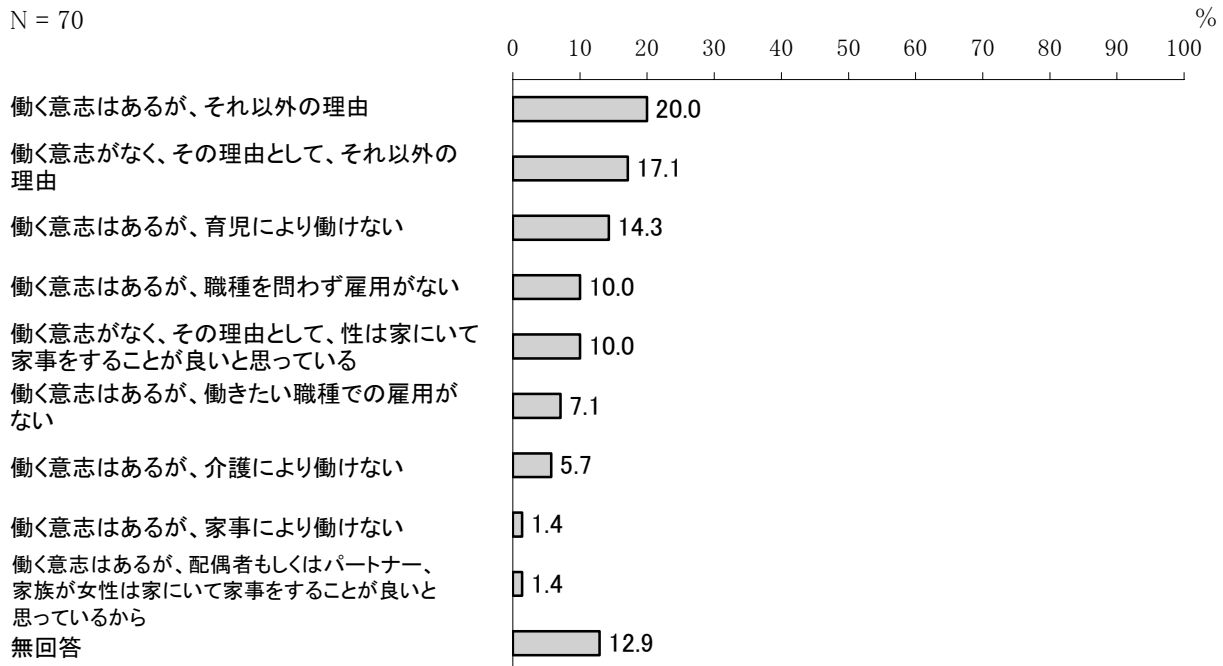
問 24 で「かつて働いていて退職し、現在無職」「就業経験なし」と答えた方のみにお聞きします

問 26 現在無職、または就業経験のない理由をお聞かせください。(1つに○印)

### ～「働く意志はあるが、育児により働けない」がトップ～

「働く意志はあるが、育児により働けない」の割合が 14.3%、「働く意志はあるが、職種を問わず雇用がない」「働く意志がなく、その理由として、女性は家において家事をすることが良いと思っている」が 10.0%、「働く意志はあるが、働きたい職種での雇用がない」が 7.1%となっています。

N = 70



#### 【経年比較】

### ～働く意志があるが働けない人が減少～

市の平成 20 年度、17 年度調査と比較すると、「働く意志はあるが、育児により働けない」と「働く意志はあるが、家事により働けない」と「働く意志はあるが、介護により働けない」が年々減少しています。

単位：%

	働く意志はあるが、育児により働けない	働く意志はあるが、家事により働けない	働く意志はあるが、介護により働けない	働く意志はあるが、配偶者もしくはパートナー、家族が女性は家において家事をすることが良いと思っているから	働く意志はあるが、働きたい職種での雇用がない	働く意志はあるが、職種を問わず雇用がない	働く意志はあるが、それ以外の理由	働く意志がなく、その理由として、性は家において家事をすることが良いと思っている	働く意志がなく、その理由として、それ以外の理由	無回答
田原市 (H23.10) 女性	14.3	1.4	5.7	1.4	7.1	10.0	20.0	10.0	17.1	12.9
田原市 (H20.8) 女性	24.6	3.1	7.7	7.7	3.1	4.6	21.5	4.6	7.7	15.4
田原市 (H18.3) 女性	44.4	5.6	11.1	5.6	5.6	5.6	-	5.6	22.2	-

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」(平成 20 年 8 月)

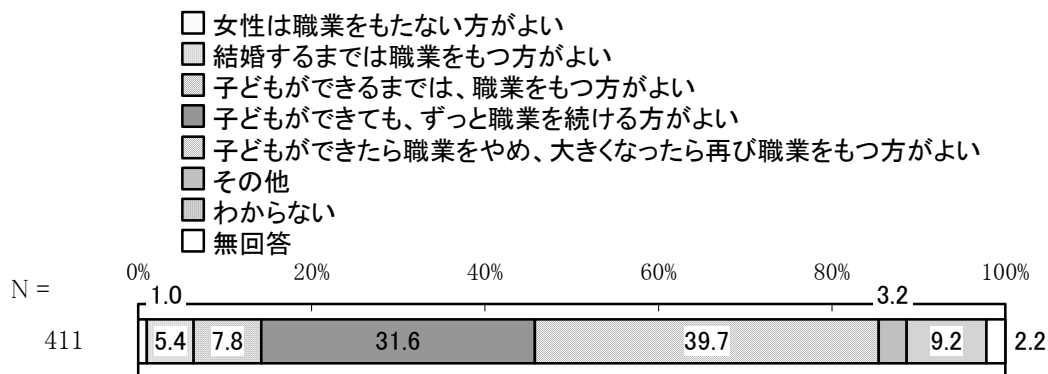
田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」(平成 18 年 3 月)

全員の方にお聞きします

問 27 一般的に女性が職業(農業・商業など家業を含む)をもつことについて、あなたは  
 どうお考えですか。(1つに○印)

～出産時に退職し、子どもが大きくなったら再び就業がトツフ～

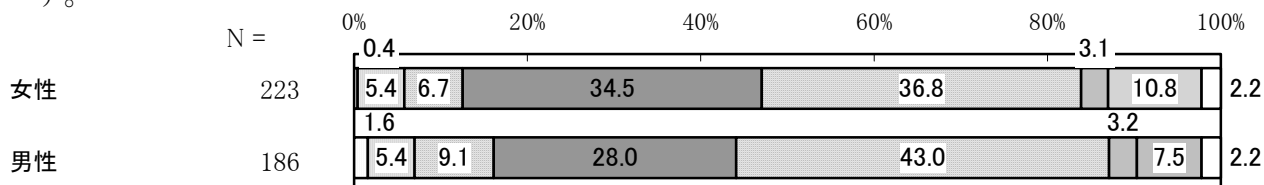
「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が39.7%と最も高く、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が31.6%、「わからない」の割合が9.2%となっています。



【性別】

～女性のほうが出産時に退職し、子どもが大きくなったら再び就業の割合が高い～

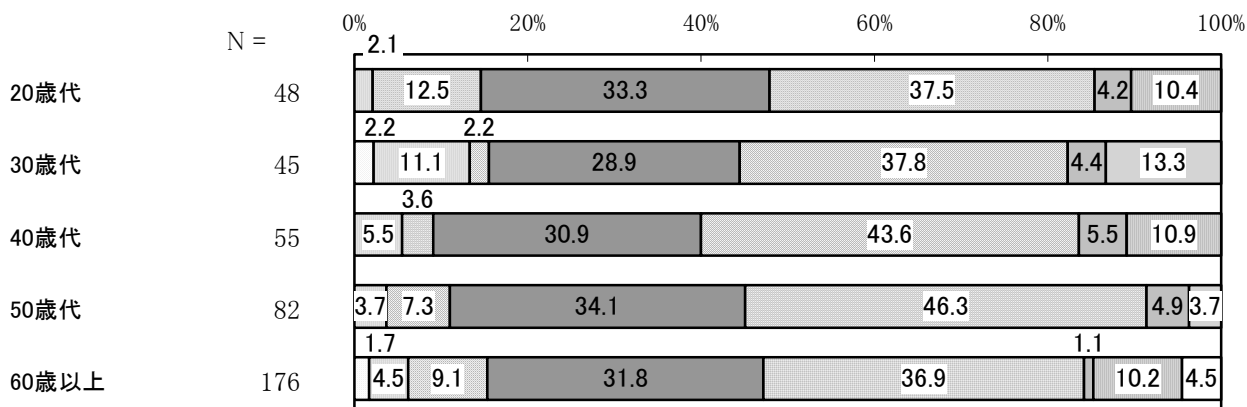
性別でみると、男女ともに「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が最も高くなっています。また、女性では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が男性よりも高く、34.5%となっています。



【年代別】

～全年代で出産時に退職し、子どもが大きくなったら再び就業の割合が高い～

年代別にみると、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合がどの年代でも最も高くなっています。また、20歳代、40歳代、50歳代の人に「女性に職業をもたない方がよい」と回答した人はいません。



【国・県の調査の比較と経年比較】

～子どもができてもずっと就業する意識が年々増加～

国・県の調査と比較すると、国・県の調査結果よりも「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が低くなっています。

市の平成20年度、17年度調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が年々増加しています。

単位：%

	女性が職業をもたない方がよい	結婚するまでは職業をもつ方がよい	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	その他	わからない	無回答
田原市(H23.10)	1.0	5.4	7.8	31.6	39.7	3.2	9.2	2.2
女性	0.4	5.4	6.7	34.5	36.8	3.1	10.8	2.2
男性	1.6	5.4	9.1	28.0	43.0	3.2	7.5	2.2
田原市(H20.8)	1.0	6.4	5.2	25.4	41.7	7.2	8.4	4.7
女性	0.9	6.5	3.2	21.7	42.4	9.7	10.6	5.1
男性	1.1	6.0	7.7	30.8	39.6	4.4	6.0	4.4
田原市(H18.3)	1.4	6.0	8.8	21.8	48.8	6.3	6.8	-
女性	1.7	4.9	7.2	22.7	50.4	5.9	7.2	-
男性	1.0	7.5	10.6	20.8	46.8	6.8	6.5	-
愛知県(H20.9)	1.1	5.8	7.4	32.6	43.1		6.1	3.9
女性	1.1	4.7	5.6	31.8	46.1		6.8	4.0
男性	1.1	7.2	9.6	33.5	39.5		5.3	3.8
国(H21.10)	3.5	5.5	10.7	45.9	31.3	1.4	3.5	-
女性	3.2	4.9	8.0	47.5	34.2	0.8	3.2	-
男性	4.0	6.2	13.8	44.0	27.9	2.0	4.0	-

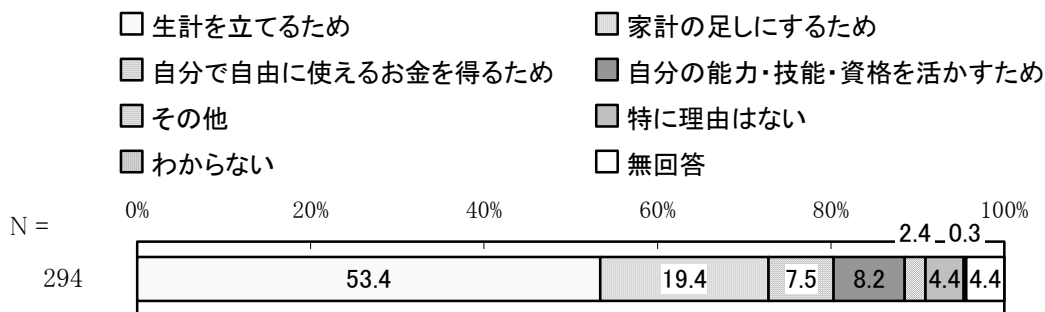
資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成20年8月）  
 田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成18年3月）  
 愛知県「男女共同参画意識に関する調査」（平成20年9月調査）  
 国（内閣府）「男女共同参画に関するアンケート調査」（平成21年10月調査）

仕事をしている方全員にお聞きします

問 28 あなたが現在働いているのは、どのような理由からでしょうか。  
(主なもの1つに○印)

### ～生計を立てるための約半数～

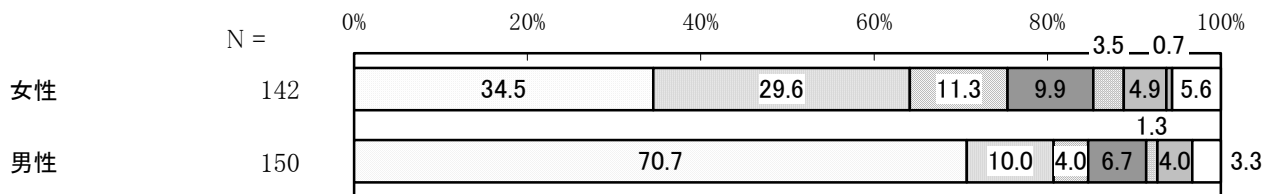
「生計を立てるため」の割合が 53.4%と最も高く、次いで「家計の足しにするため」の割合が 19.4%、「自分の能力・技能・資格を活かすため」の割合が 8.2%となっています。



#### 【性別】

### ～男性のほうが「生計を立てるため」が高い～

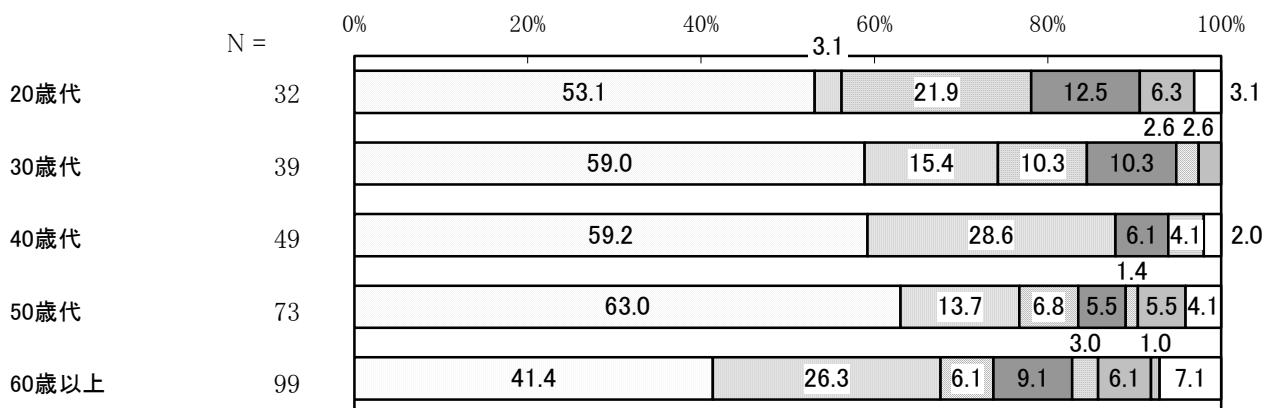
性別で見ると、男女ともに「生計を立てるため」の割合が最も高くなっています。また、女性では「家計の足しにするため」の割合が男性よりも高く、29.6%、男性では「生計を立てるため」の割合が女性よりも高く 70.7%となっています。



#### 【年代別】

### ～50歳代は生計のため、20歳代は自分で自由に使うお金のため～

年代別にみると、「生計を立てるため」の割合がもっとも高い年代が 50 歳代で、63.0%となっています。また、「自分で自由に使えるお金を得るため」の割合が高い年代は 20 歳代で 21.9%となっています。



【経年比較】

～「家計の足し」「自分で自由に使えるお金のため」  
「能力・技能・資格を活かすため」が年々増加～

市の平成 20 年度、17 年度調査と比較すると、質問数が各年度異なるため一概に比較することはできませんが、「家計の足しにするため」と「自分で自由に使えるお金の得るため」と「自分の能力・技能・資格を活かすため」が年々増加しています。

単位：％

	生計を立てるため	家計の足しにするため	自分で自由に使えるお金の得るため	自分の能力・技能・資格を活かすため	その他	特に理由はない	わからない	無回答
田原市(H23.10)	53.4	19.4	7.5	8.2	2.4	4.4	0.3	4.4
女性	34.5	29.6	11.3	9.9	3.5	4.9	0.7	5.6
男性	70.7	10.0	4.0	6.7	1.3	4.0	-	3.3
田原市(H20.8)	55.2	17.2	7.4	7.7	3.0	2.7	0.3	6.4
女性	41.6	26.2	8.7	9.4	4.0	2.0	-	8.1
男性	68.9	8.1	6.1	6.1	2.0	3.4	0.7	4.7
田原市(H18.3)	40.5	9.3	4.3	3.3	1.0	1.7	0.4	-
女性	22.9	14.1	6.5	4.2	1.8	1.8	0.4	-
男性	61.5	3.6	1.8	2.3	0.4	1.5	0.5	-

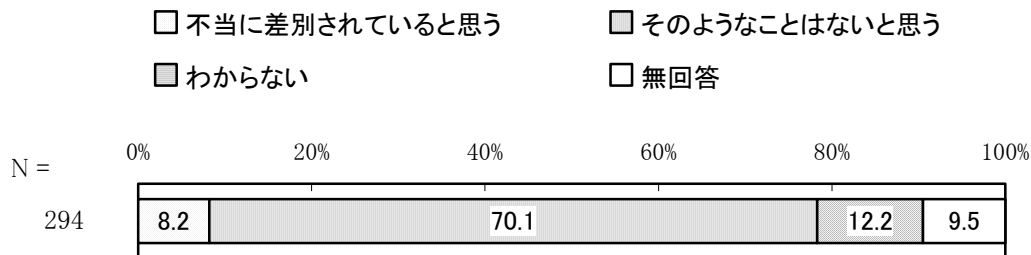
資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）  
田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成 18 年 3 月）

仕事をしている方全員にお聞きします

問 29 あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性は男性に比べ不当に差別されていると思いますか。別にそのようなことはないと思いますか。(1つに○印)

～「不当に差別されている」割合が8.2%～

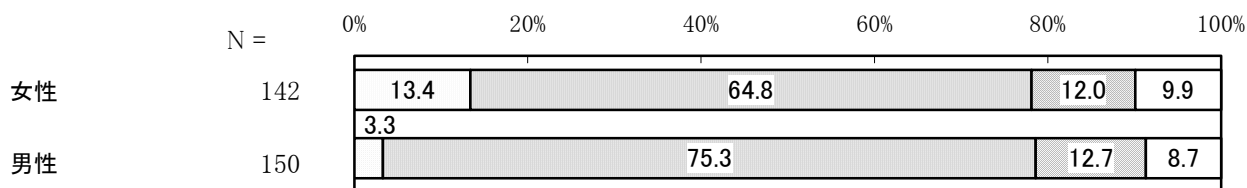
「そのようなことはないと思う」の割合が70.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が12.2%、「不当に差別されていると思う」の割合が8.2%となっています。



【性別】

～女性のほうが不当に差別されている意識が高い～

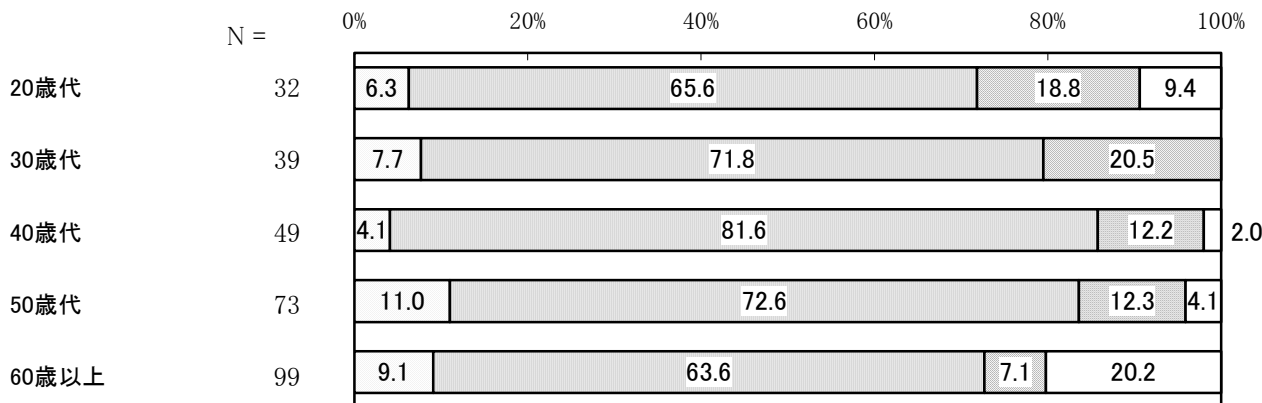
性別でみると、男性よりも女性の方が「不当に差別されていると思う」の割合が10ポイント高くなっています。一方、女性よりも男性の方が「そのようなことはないと思う」の割合が11ポイント高くなっています。



【年代別】

～50歳代で不当に差別されている割合が高い～

年代別でみると、「不当に差別されていると思う」の割合が高い年代は50歳代で11.0%となっています。



【経年比較】

～「不当に差別されている」が年々減少～

市の平成20年度、17年度調査と比較すると、「不当に差別されていると思う」が年々減少しています。一方、「そのようなことはないと思う」が前回調査に比べ4ポイント程度増加しています。

単位：％

	不当に差別されていると思う	そのようなことはないと思う	わからない	無回答
田原市(H23.10)	8.2	70.1	12.2	9.5
女性	13.4	64.8	12.0	9.9
男性	3.3	75.3	12.7	8.7
田原市(H20.8)	11.4	65.7	12.5	10.4
女性	13.4	60.4	12.1	14.1
男性	9.5	70.9	12.8	6.8
田原市(H18.3)	11.5	73.1	15.4	-
女性	11.9	71.9	16.2	-
男性	11.0	74.4	14.6	-

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成20年8月）

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成18年3月）



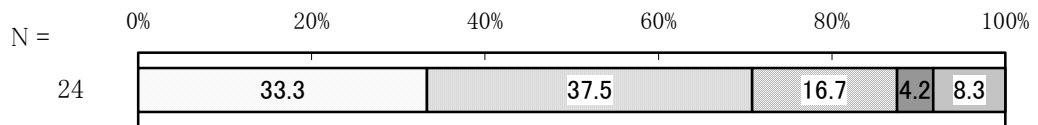
問 29 で「不当に差別されていると思う」と答えた方にお聞きします

問 30 それは具体的にどのようなことですか。(1つに○印)

### ～昇進、昇格の問題がトップ、次いで賃金の問題～

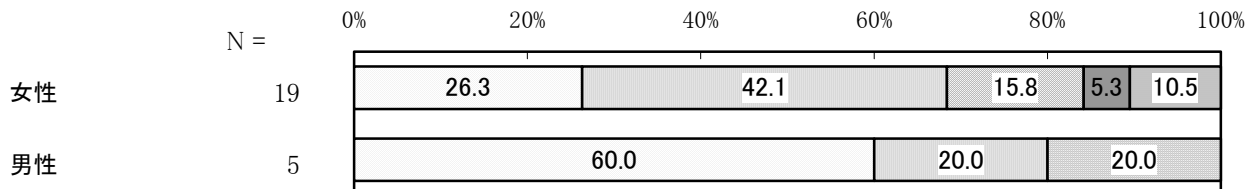
「昇進、昇格に差別がある」の割合が 37.5%と最も高く、次いで「賃金に差別がある」の割合が 33.3%、「能力が正当に評価されない」の割合が 16.7%となっています。

- 賃金に差別がある
- 昇進、昇格に差別がある
- 能力が正当に評価されない
- 補助的な仕事しかやらせてもらえない
- 女性を幹部職員に登用しない
- 結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある
- 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある
- 教育・訓練を受ける機会が少ない
- その他
- わからない



#### 【性別】

サンプル数が少なく標本誤差が大きいことが想定されるため、参考程度ですが、性別でみると、男性よりも女性の方が「昇進、昇格に差別がある」の割合が 22 ポイント高くなっています。一方、女性よりも男性の方が「賃金に差別がある」の割合が 34 ポイント高くなっています。



## 【経年比較】

この質問項目ではサンプル数が少なく（N = 24）標本誤差が大きいことが想定されるため、分析を行いません。参考までに、今回の結果と平成20年度、17年度調査の数値を示すと以下の通りです。

単位：%

	賃金に差別がある	昇進、昇格に差別がある	能力が正当に評価されない	補助的な仕事しかやらせてもらえない	女性を幹部職員に登用しない	結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある	女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	教育・訓練を受ける機会が少ない	その他	わからない	無回答
田原市(H23.10)	33.3	37.5	16.7	4.2	-	-	-	-	8.3	-	-
女性	26.3	42.1	15.8	5.3	-	-	-	-	10.5	-	-
男性	60.0	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-
田原市(H20.8)	32.4	5.9	20.6	11.8	11.8	2.9	-	-	2.9	2.9	8.8
女性	40.0	5.0	20.0	10.0	10.0	-	-	-	5.0	5.0	5.0
男性	21.4	7.1	21.4	14.3	14.3	7.1	-	-	-	-	14.3
田原市(H18.3)	32.7	9.1	23.6	10.9	-	9.1	3.6	-	7.3	3.6	-
女性	25.8	12.9	29.0	3.2	-	9.7	6.5	-	9.7	3.2	-
男性	41.7	4.2	16.7	12.5	-	8.3	-	-	12.5	4.2	-

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成20年8月）

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成18年3月）

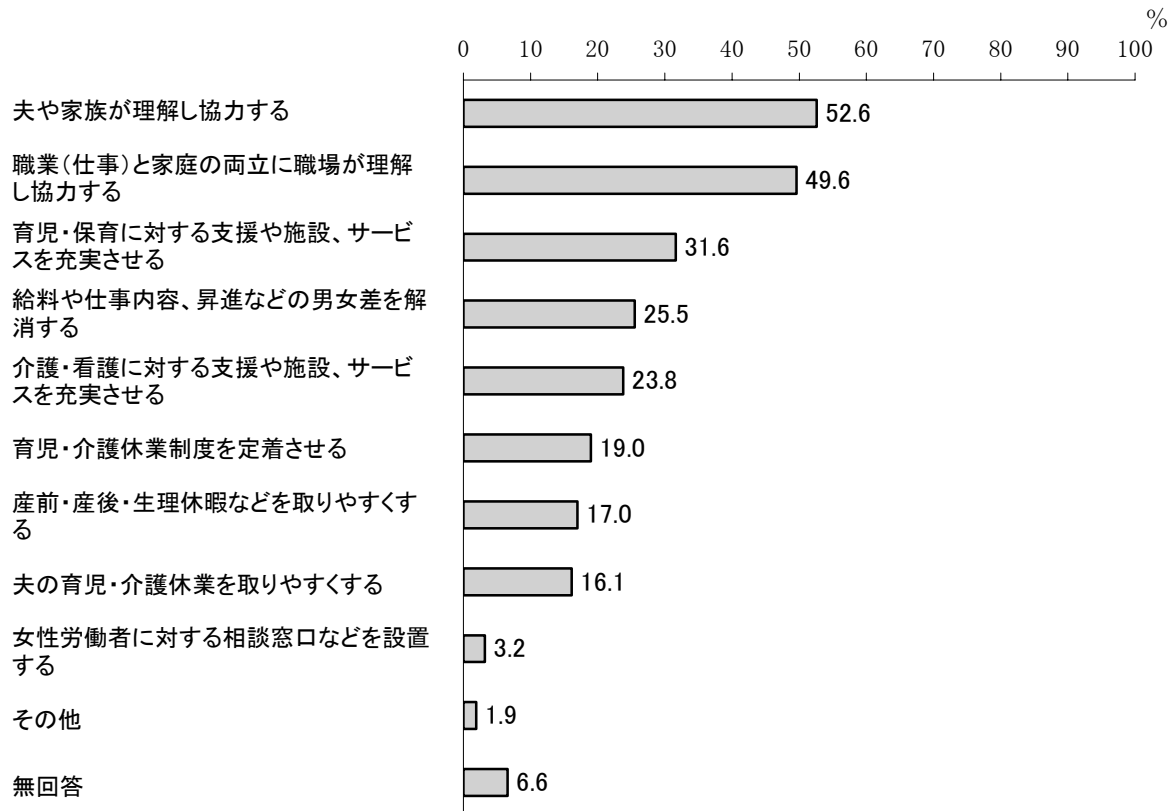
全員の方にお聞きします

問 31 女性が安心して働ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで○印)

～夫や家族の理解、職場の理解が必要～

「夫や家族が理解し協力する」の割合が 52.6%と最も高く、次いで「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が 49.6%、「育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる」の割合が 31.6%となっています。

N = 411



【性別】

～女性のほうが職場の理解、サービスの充実が高い～

性別でみると、男性よりも女性の方が「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」と「育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる」と「介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する	職業(仕事)と家庭の両立に職場が理解し協力する	夫や家族が理解し協力する	育児・介護休業制度を定着させる	夫の育児・介護休業を取りやすくする	産前・産後・生理休暇などを取りやすくする	育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる	介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる	女性労働者に対する相談窓口などを設置する	その他	無回答
女性	223	24.2	53.4	53.4	17.0	14.3	16.1	34.1	26.5	3.6	2.2	7.6
男性	186	27.4	45.2	51.1	21.5	18.3	18.3	28.5	21.0	2.7	1.6	5.4

【年代別】

～30歳代は職場の理解とサービスの充実、40歳代と60歳以上は家族の理解～

年代別にみると、40歳代と60歳以上で「夫や家族が理解し協力する」の割合が約6割と高くなっています。また、30歳代で「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が68.9%、「育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる」の割合が53.3%とどの年代よりも高くなっています。 単位：%

区分	有効回答数（件）	給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する	職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する	夫や家族が理解し協力する	育児・介護休業制度を定着させる	夫の育児・介護休業を取りやすくする	産前・産後・生理休暇などを取りやすくする	育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる	介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる	女性労働者に対する相談窓口などを設置する	その他	無回答
20歳代	48	41.7	60.4	47.9	29.2	18.8	35.4	29.2	8.3	4.2	2.1	—
30歳代	45	33.3	68.9	37.8	22.2	20.0	22.2	53.3	13.3	—	2.2	—
40歳代	55	27.3	49.1	58.2	20.0	21.8	21.8	29.1	21.8	1.8	1.8	—
50歳代	82	26.8	52.4	48.8	20.7	15.9	15.9	39.0	30.5	2.4	1.2	2.4
60歳以上	176	18.2	42.0	58.0	14.8	12.5	10.2	25.0	27.8	4.5	2.3	13.1

【経年比較】

～育児サービスの充実が増加、職場での男女格差の解消が減少～

市の平成20年度、17年度調査と比較すると、「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」が年々減少しています。一方、「育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる」が年々増加しています。 単位：%

	給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する	職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する	夫や家族が理解し協力する	育児・介護休業制度を定着させる	夫の育児・介護休業を取りやすくする	産前・産後・生理休暇などを取りやすくする	育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる	介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる	女性労働者に対する相談窓口などを設置する	その他	無回答
田原市(H23.10)	25.5	49.6	52.6	19.0	16.1	17.0	31.6	23.8	3.2	1.9	6.6
女性	24.2	53.4	53.4	17.0	14.3	16.1	34.1	26.5	3.6	2.2	7.6
男性	27.4	45.2	51.1	21.5	18.3	18.3	28.5	21.0	2.7	1.6	5.4
田原市(H20.8)	27.2	57.8	52.1	24.7	12.8	19.5	29.1	19.8	5.7	1.5	5.4
女性	23.0	56.7	54.8	22.1	12.0	21.2	30.9	20.7	6.0	1.4	5.5
男性	32.4	59.9	48.9	26.9	13.7	17.0	26.9	18.7	5.5	1.6	4.9
田原市(H18.3)	29.6	62.1	61.2	29.9	16.8	39.3	18.7	26.3	8.6	1.7	—
女性	20.9	60.3	62.4	27.8	15.3	41.3	19.6	32.0	8.7	1.3	—
男性	40.4	62.5	57.3	31.5	18.4	34.8	16.9	17.2	8.2	2.2	—

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成20年8月）

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成18年3月）

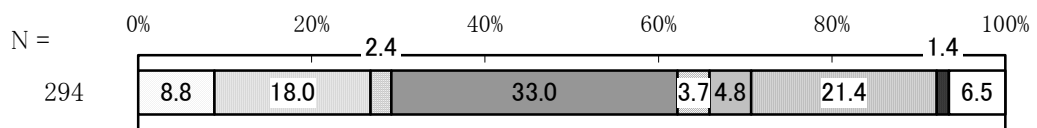
仕事をしている方にお聞きします

問 32 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。  
(あなたの希望に該当するもの1つに○印)

～「仕事と家庭生活をともに優先」がトップ～

「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が 33.0%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」の割合が 21.4%、「家庭生活」を優先したい」の割合が 18.0%となっています。

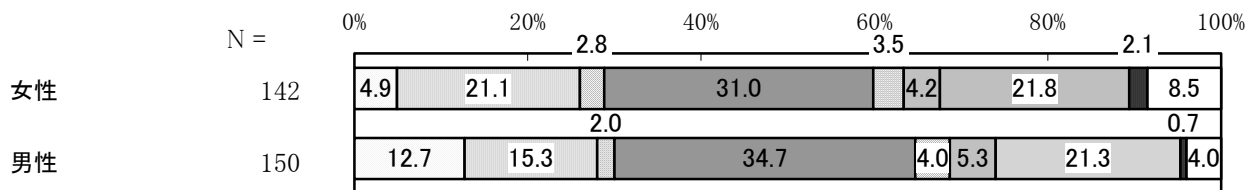
- 「仕事」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい
- 無回答
- 「家庭生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- わからない



【性別】

～女性は家庭生活を優先、男性は仕事を優先の傾向～

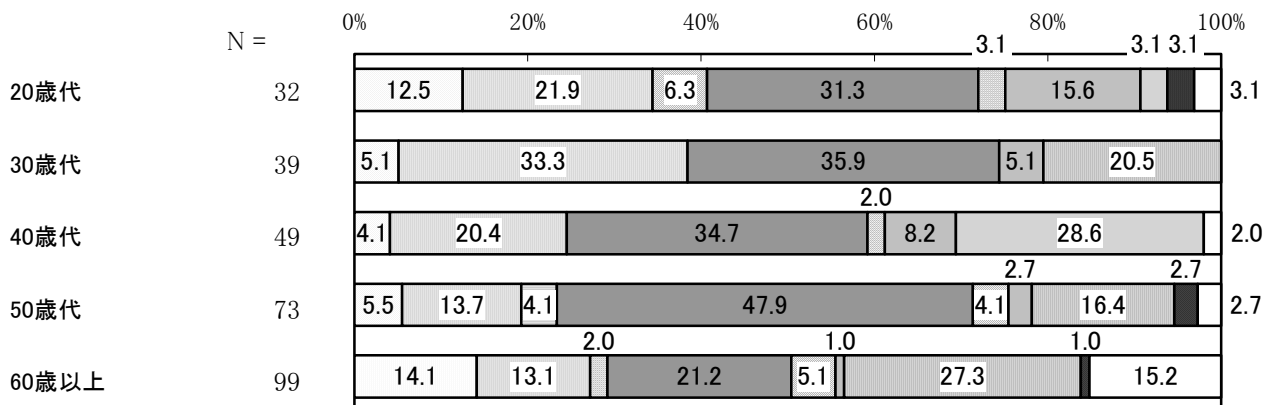
性別でみると、男性よりも女性の方が「家庭生活」を優先したい」の割合が約 6 ポイント高くなっています。一方、女性よりも男性の方が「仕事」を優先したい」の割合が約 8 ポイント高くなっています。



【年代別】

～30歳代は家庭生活を優先、40歳以上においては仕事、家庭生活、地域・個人の生活の三つとも大切にしたい～

年代別にみると、30歳代で「家庭生活」を優先したい」の割合が 33.3%、50歳代で「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が 47.9%とどの年代よりも高くなっています。また、40歳代と60歳以上で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」の割合が約 3割と高くなっています。



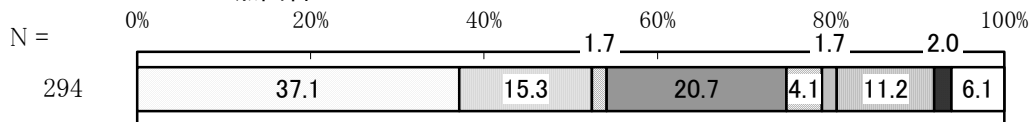
仕事をしている方にお聞きします

問 33 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。  
(あなたの現在の状況に該当するもの1つに○印)

「仕事」を優先している」の割合が 37.1%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が 20.7%、「家庭生活」を優先している」の割合が 15.3%となっています。

～仕事優先が全体の約 4 割～

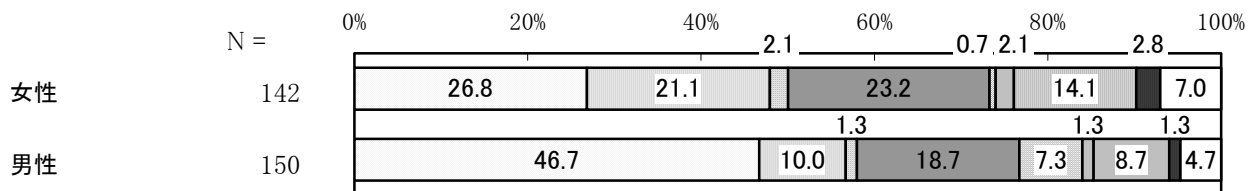
- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている
- わからない
- 無回答



【性別】

～女性は家庭生活を優先、男性は仕事を優先～

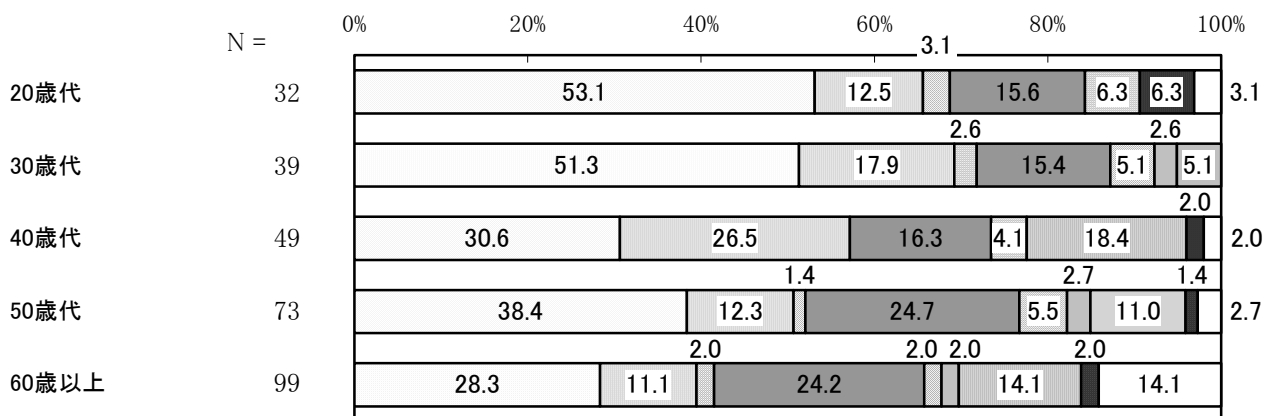
性別で見ると、男性よりも女性の方が「家庭生活」を優先している」の割合が約 11 ポイント高くなっています。一方、女性よりも男性の方が「仕事」を優先している」の割合が約 20 ポイント高くなっています。



【年代別】

～20 歳代、30 歳代は仕事優先、40 歳代は家庭生活を優先～

年代別にみると、40 歳代で「家庭生活」を優先している」の割合が 26.5%とどの年代よりも高くなっています。また、20 歳代と 30 歳以上で「仕事」を優先している」の割合が約 5 割と高くなっています。



## 【国・県の調査の比較】

### ～国・県の調査結果よりも「家庭生活を優先」が低い～

現在の状況については、国の調査と比較すると、国の調査よりも「「仕事」を優先している」と「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている」の割合が高くなっています。一方、「「家庭生活」を優先している」の割合が約 18 ポイント低くなっています。また、県の調査結果と比較すると、「「仕事」を優先している」の割合が約 7 ポイント高くなっています。一方、「「家庭生活」を優先している」の割合が約 8 ポイント低くなっています。

希望については、国の調査と比較すると、国の調査よりも「「家庭生活」を優先したい」の割合が約 11 ポイント低くなっています。一方、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」が 4 ポイント程度高くなっています。また、県の調査結果と比較すると、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が約 5 ポイント高くなっています。一方、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」の割合が 6 ポイント程度低くなっています。

## 現在の状況

単位：%

	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている	その他	わからない	無回答
田原市(H23.10)	37.1	15.3	1.7	20.7	4.1	1.7	11.2	-	2.0	6.1
女性	26.8	21.1	2.1	23.2	0.7	2.1	14.1	-	2.8	7.0
男性	46.7	10.0	1.3	18.7	7.3	1.3	8.7	-	1.3	4.7
愛知県(H20.9)	30.2	23.4	2.5	20.2	3.2	5.8	8.4	1.0		5.1
女性	16.2	36.0	2.1	19.9	2.2	8.0	9.5	1.0		5.2
男性	46.9	8.5	3.0	20.6	4.4	3.3	7.2	0.9		5.2
国(H21.10)	25.8	33.0	3.7	21.0	3.6	6.7	4.6	-	1.6	-
女性	15.3	44.2	2.9	21.1	2.3	8.5	4.2	-	1.5	-
男性	37.8	20.1	4.6	21.0	5.1	4.6	5.1	-	1.7	-

# 希望

単位：%

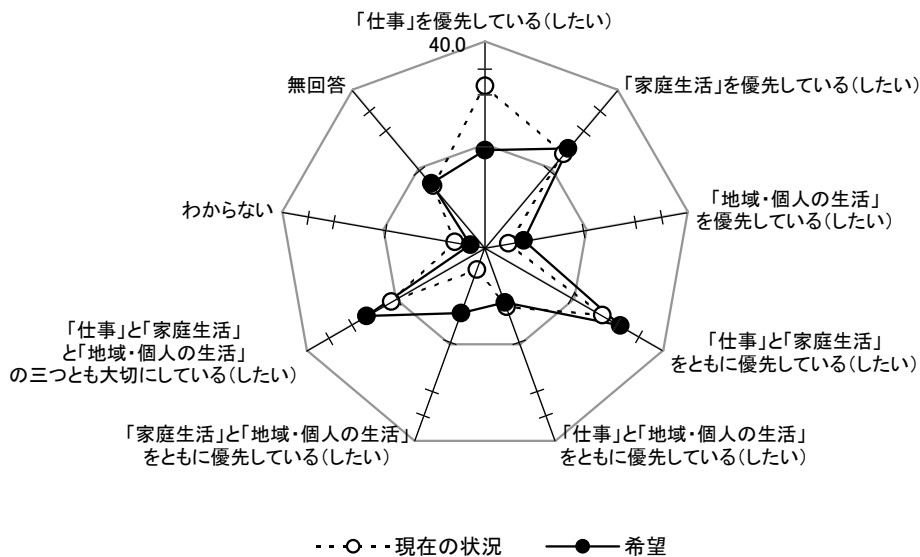
	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい	その他	わからない	無回答	
田原市(H23.10)	8.8	18.0	2.4	33.0	3.7	4.8	21.4	-	1.4	6.5
女性	4.9	21.1	2.8	31.0	3.5	4.2	21.8	-	2.1	8.5
男性	4.9	21.1	2.8	31.0	3.5	4.2	21.8	-	2.1	8.5
愛知県(H20.9)	4.8	21.9	2.6	27.8	1.7	9.0	27.8	4.8	-	3.5
女性	2.1	25.6	2.4	23.4	1.6	11.1	29.6	2.1	-	3.5
男性	8.0	17.5	2.9	33.1	2.0	6.6	25.6	8.0	-	3.6
国(H21.10)	8.5	28.7	2.2	31.2	3.6	7.8	16.9	-	1.1	-
女性	4.4	34.1	2.1	29.7	2.5	9.0	17	-	1.2	-
男性	13.3	22.5	2.3	33.0	4.8	6.4	16.7	-	0.9	-

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成20年8月）  
 愛知県「男女共同参画意識に関する調査」（平成20年9月調査）  
 国（内閣府）「男女共同参画に関するアンケート調査」（平成21年10月調査）

## 【生活の中で優先したいことにおける現在の状況と希望の比較】

### ～現在優先しているのは仕事、優先したいのは仕事と家庭生活と地域・個人の生活～

生活の中で優先したいことにおける現在の状況と希望の比較については、「仕事」を優先している（したい）で希望に比べ現在の状況の割合が高くなっています。一方、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（したい）」と「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている（したい）」で現在の状況に比べ希望の割合が高くなっています。





## 仕事・家庭生活・地域活動の希望と現実の一致・不一致の比較

内閣府の「仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランスに関する）意識調査」と比較すると、全体から見て希望と現実が一致している割合は国の結果よりも 24 ポイントほど上回っています。

N = 274 単位：%

		問 32 仕事・家庭生活・地域活動の関係（希望）								計
		「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」ともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」ともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」ともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい	わからない	
問 33 仕事・家庭生活・地域活動の関係（現在の状況）	「仕事」を優先している	8.4	6.2	1.5	14.6	1.8	0.7	5.5	0.7	39.4
	「家庭生活」を優先している	0.4	8.0	0.4	3.3	0.0	1.5	2.9	0.0	16.4
	「地域・個人の生活」を優先している	0.4	0.4	0.4	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	1.8
	「仕事」と「家庭生活」ともに優先している	0.0	3.6	0.4	13.9	0.0	0.7	3.6	0.0	22.3
	「仕事」と「地域・個人の生活」ともに優先している	0.4	0.0	0.0	0.7	0.7	1.1	1.5	0.0	4.4
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」ともに優先している	0.0	0.0	0.0	1.1	0.4	0.4	0.0	0.0	1.8
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている	0.0	1.1	0.0	1.5	0.7	0.4	8.4	0.0	12.0
	わからない	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.4	0.4	0.7	1.8
計	9.5	19.3	2.6	35.4	4.0	5.1	22.6	1.5	100.0	

希望と現実の一致群 = 40.1%

N = 2169 単位：%

		希望							計
		仕事優先	家庭生活優先	地域・個人の生活優先	仕事と家庭生活優先	仕事と地域・個人の生活優先	家庭生活と地域・個人の生活優先	仕事・家庭生活・地域個人の生活を両立	
現実	仕事優先	1.2	11.4	2.3	14.9	3.1	5.1	17.0	55.1
	家庭生活優先	0.6	6.2	0.3	5.6	0.5	2.3	6.3	21.7
	地域・個人の生活優先	0.0	0.1	0.7	0.3	0.4	0.1	0.5	2.2
	仕事と家庭生活優先	0.3	1.6	0.5	4.2	0.5	0.7	5.3	13.1
	仕事と地域・個人の生活優先	0.0	0.3	0.1	0.5	0.7	0.4	1.2	3.3
	家庭生活と地域・個人の生活優先	0.0	0.2	0.0	0.3	0.0	0.8	0.7	2.1
	仕事・家庭生活・地域個人の生活を両立	0.1	0.4	0.1	0.4	0.0	0.2	1.4	2.5
	計	2.3	20.1	4.1	26.1	5.3	9.6	32.5	100.0

希望と現実の一致群 = 15.2%

資料：内閣府「仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランスに関する）意識調査」（平成 20 年 8 月）

## 働くことに関する回答結果のまとめ

- 退職理由について、介護による退職が年々増加している
- 働く意志があるが働けない人が前回調査よりも減少している
- 子どもができてはずっと就業する意識が年々増加している
- 女性のほうが男性よりも職場で不当に差別されている意識が高い
- 女性の職場での差別の理由は「昇進、昇格の問題」「賃金の問題」などの回答率が高い
- 女性が働き続けるためには夫や家族の理解、職場の理解が必要
- 「「仕事」を優先している」と「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている」と回答した人の割合が国の調査よりも高い

## 6 地域活動・社会活動について

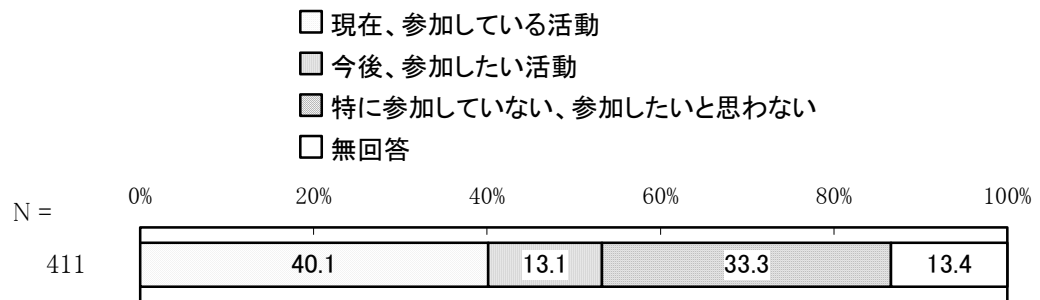
全員の方にお聞きします

問 34 あなたは、どのような地域活動に参加していますか。また、今後参加したいと思う地域活動は何ですか。(それぞれ該当する項目すべてに○印)

### ①自治会・町内会活動

#### ～自治会・町内会活動に参加しているが約4割～

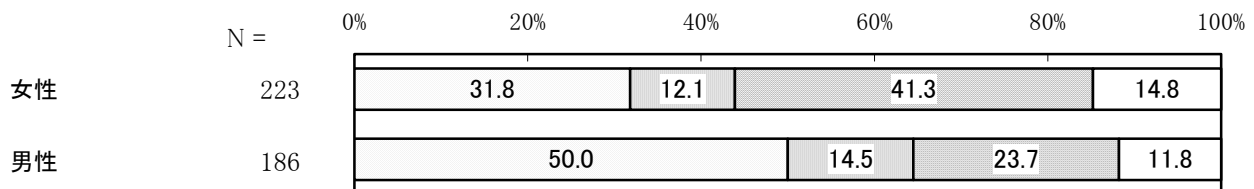
「現在、参加している活動」の割合が40.1%と最も高く、次いで「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が33.3%、「今後、参加したい活動」の割合が13.1%となっています。



#### 【性別】

#### ～女性のほうが自治会・町内会に不参加～

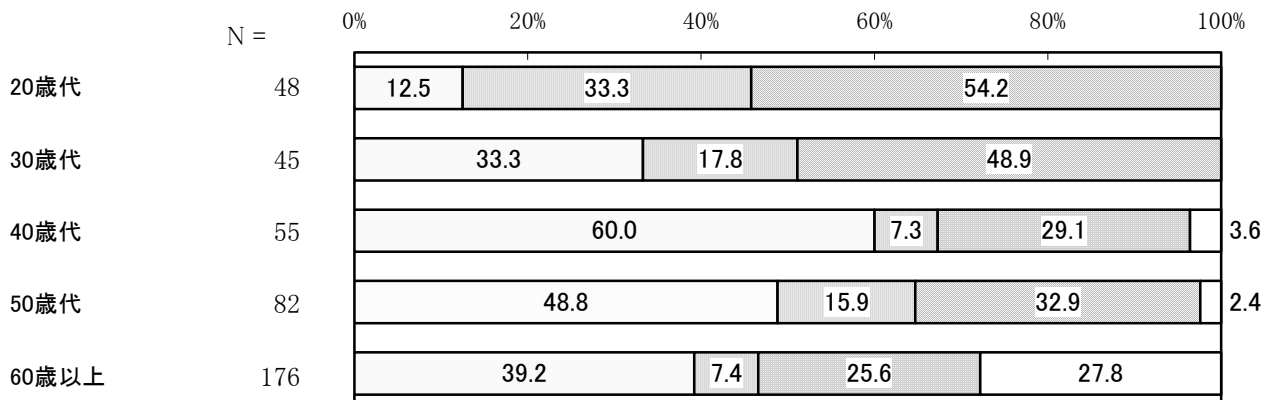
性別でみると、男性より女性の方が「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が約18ポイント高くなっています。



#### 【年代別】

#### ～20歳代では不参加が5割強、40歳代では現在参加しているが6割～

年代別でみると、20歳代では「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が54.2%と高くなっています。一方、40歳代では「現在、参加している活動」の割合が60.0%と高くなっています。

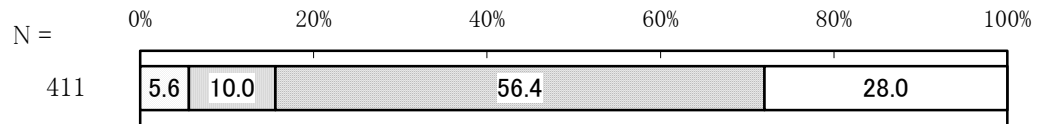


## ②女性団体活動

### ～女性団体活動の不参加は5割強～

「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が56.4%と最も高く、次いで「今後、参加したい活動」の割合が10.0%、「現在、参加している活動」の割合が5.6%となっています。

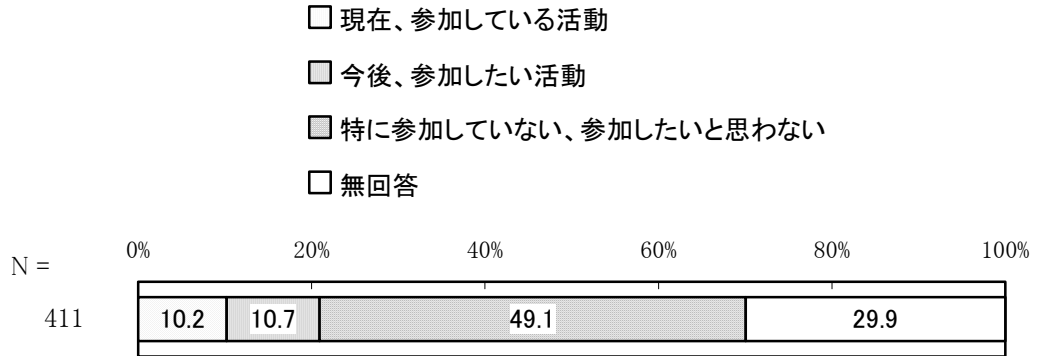
- 現在、参加している活動
- 今後、参加したい活動
- 特に参加していない、参加したいと思わない
- 無回答



### ③ P T A 活動

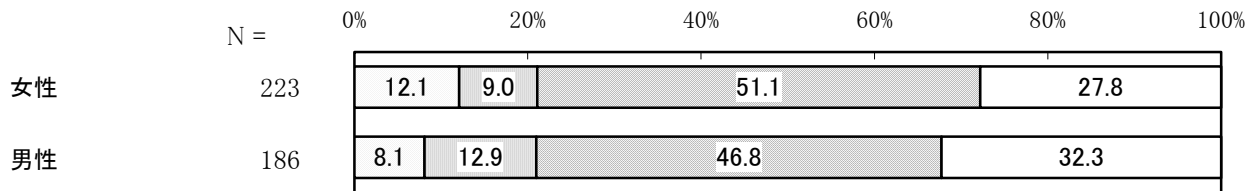
#### ～ P T A 活動の参加は約 1 割～

「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が 49.1%と最も高く、次いで「今後、参加したい活動」の割合が 10.7%、「現在、参加している活動」の割合が 10.2%となっています。



#### 【性別】

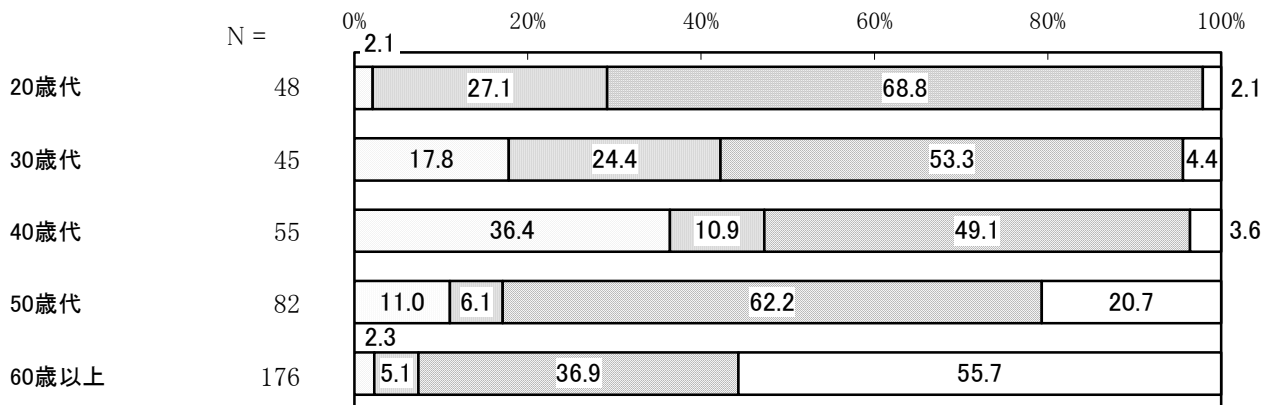
性別でみると、大きな差はみられません。



#### 【年代別】

#### ～ P T A 活動の参加は 40 歳代で約 4 割～

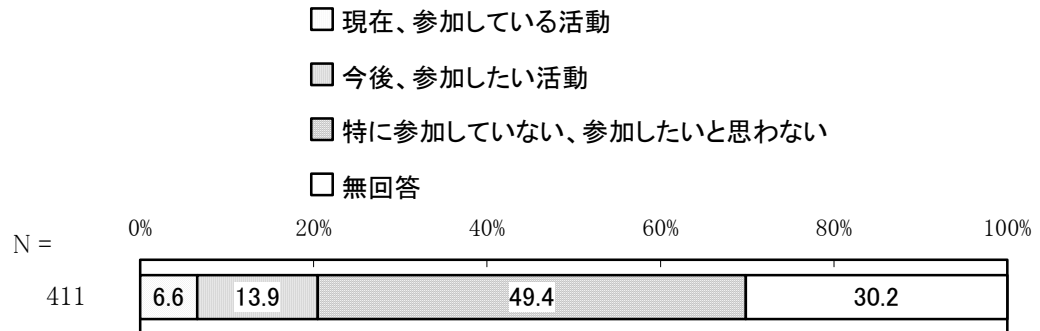
年代別でみると、「現在、参加している活動」の割合が 40 歳代で最も高くなっていますが、「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が「今後、参加したい活動」の割合を大きく上回っています。



#### ④子ども会・青少年活動

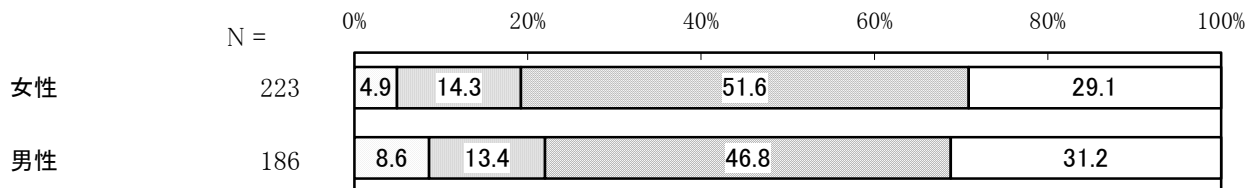
### ～子ども会・青少年活動不参加は約5割～

「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が49.4%と最も高く、次いで「今後、参加したい活動」の割合が13.9%、「現在、参加している活動」の割合が6.6%となっています。



#### 【性別】

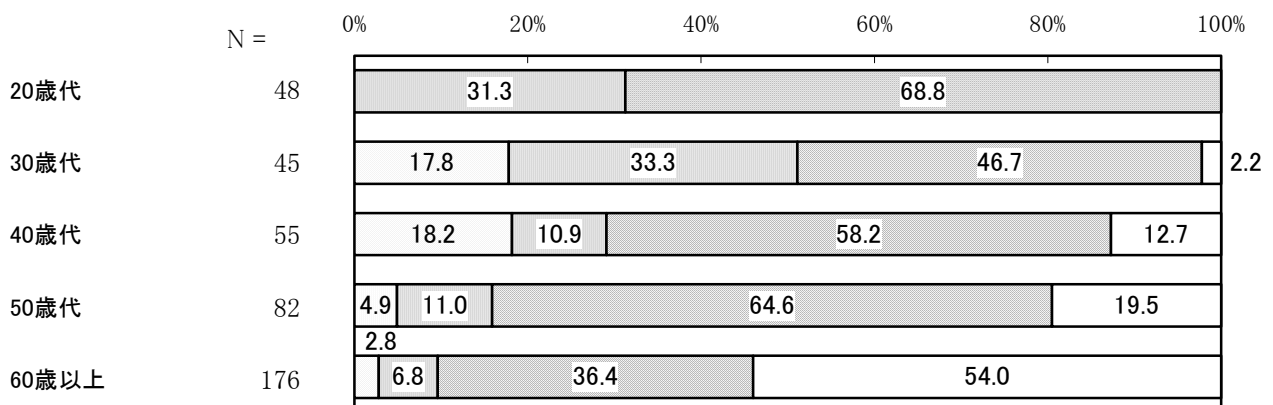
性別でみると、大きな差はみられません。



#### 【年代別】

### ～子ども会・青少年活動参加は40歳代がトップ～

年代別でみると、「現在、参加している活動」の割合が40歳代で最も高くなっていますが、「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が「今後、参加したい活動」の割合を大きく上回っています。

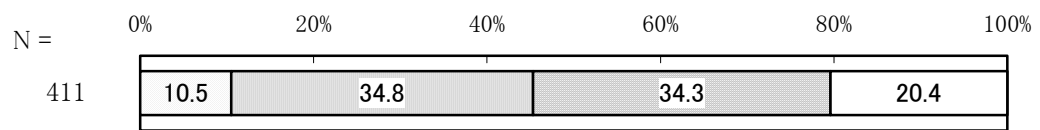


⑤ ボランティア活動などの社会奉仕活動

～「今後参加したい」と「参加したいと思わない」がほぼ同数～

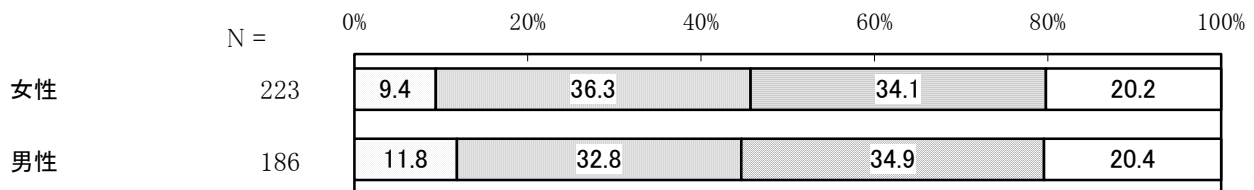
「今後、参加したい活動」の割合が 34.8%と最も高く、次いで「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が 34.3%、「現在、参加している活動」の割合が 10.5%となっています。

- 現在、参加している活動
- 今後、参加したい活動
- 特に参加していない、参加したいと思わない
- 無回答



【性別】

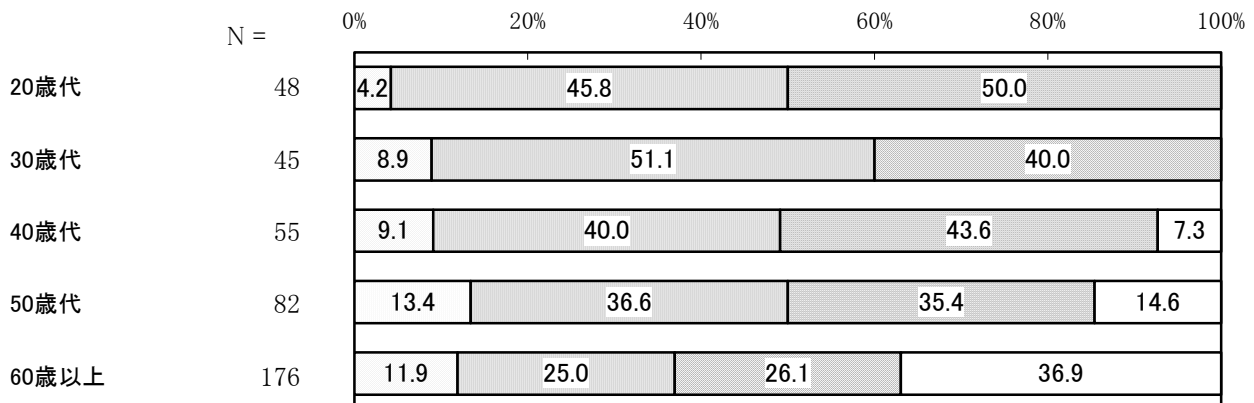
性別で見ると、大きな差はみられません。



【年代別】

～50歳代は「ボランティア活動に参加している」、  
30歳代は「今後参加したい」～

年代別で見ると、「現在、参加している活動」の割合は50歳代で最も高く、「今後、参加したい活動」の割合は30歳代で最も高くなっています。



## ⑥その他

### 現在、参加している活動

- ・ 子どもがいたときには全てに参加していました。今は介護、仕事と時間が取れません。
- ・ 年齢なので誘いがないです。
- ・ 文化協会、社会教育、登山会
- ・ 地域のスポーツチーム
- ・ 老人クラブ活動・ゲートボール
- ・ 趣味の会
- ・ 花だんの手入れ

### 今後、参加したい活動

回答はありませんでした。



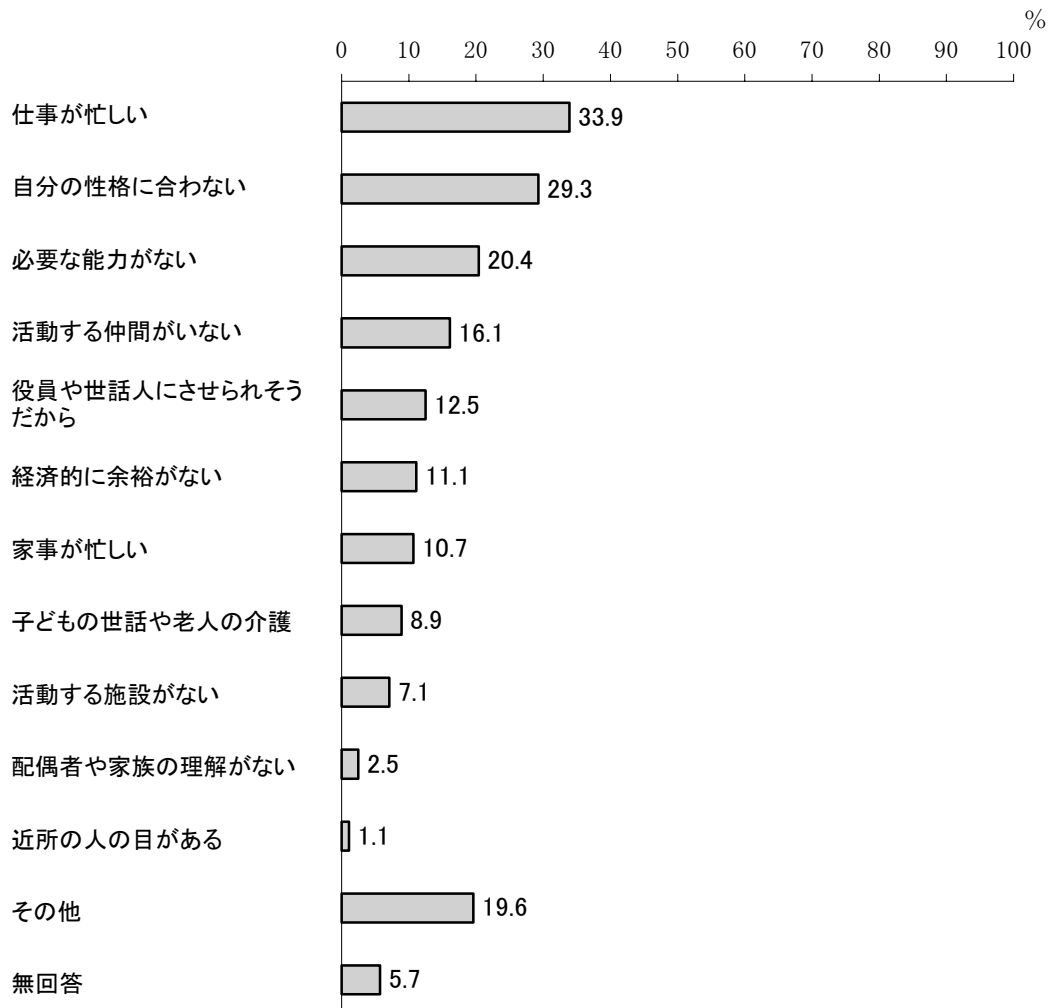
問 34 で「特に参加していない、参加したいと思わない」をひとつでも選んだ方にお聞きします

問 35 地域活動に参加していない主な理由は何ですか。(3つまで○印)

### ～「仕事が忙しい」がトップ～

「仕事が忙しい」の割合が 33.9%と最も高く、次いで「自分の性格に合わない」の割合が 29.3%、「必要な能力がない」の割合が 20.4%となっています。

N = 280



【性別】

～男性は「仕事が忙しい」、女性は「自分の性格に合わない」～

性別でみると、女性では「自分の性格に合わない」の割合が、男性では「仕事が忙しい」の割合が最も高くなっています。また、男性よりも女性の方が「自分の性格に合わない」、「家事が忙しい」、「子どもの世話や老人の介護」、「活動する仲間がいない」の割合が高くなっています。一方、女性よりも男性の方が「仕事が忙しい」、「役員や世話人にさせられそうだから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	子どもの世話や老人の介護	仕事が忙しい	家事が忙しい	経済的に余裕がない	配偶者や家族の理解がない	必要な能力がない	近所の人の目がある	自分の性格に合わない	活動する仲間がいない	活動する施設がない	役員や世話人にさせられそうだから	その他	無回答
女性	157	12.1	28.0	14.6	10.2	3.2	21.0	1.3	33.1	18.5	7.6	9.6	21.0	5.1
男性	122	4.9	41.8	5.7	12.3	1.6	18.9	0.8	23.8	13.1	6.6	16.4	18.0	6.6

【経年比較】

～「仕事が忙しい」「経済的に余裕がない」「自分の性格に合わない」が年々減少～

市の平成20年度、17年度調査と比較すると、「仕事が忙しい」と「経済的に余裕がない」と「自分の性格に合わない」が年々減少しています。また、「子どもの世話や老人の介護」が前回調査に比べ4ポイント程度減少しています。

単位：％

	子どもの世話や老人の介護	仕事が忙しい	家事が忙しい	経済的に余裕がない	配偶者や家族の理解がない	必要な能力がない	近所の人の目がある	自分の性格に合わない	活動する仲間がいない	活動する施設がない	役員や世話人にさせられそうだから	その他	無回答
田原市(H23.10)	8.9	33.9	10.7	11.1	2.5	20.4	1.1	29.3	16.1	7.1	12.5	19.6	5.7
女性	12.1	28.0	14.6	10.2	3.2	21.0	1.3	33.1	18.5	7.6	9.6	21.0	5.1
男性	4.9	41.8	5.7	12.3	1.6	18.9	0.8	23.8	13.1	6.6	16.4	18.0	6.6
田原市(H20.8)	13.2	40.8	7.9	15.8	1.3	22.4	2.6	31.6	13.2	1.3	2.6	25.0	3.9
女性	16.7	37.5	12.5	8.3	2.1	22.9	2.1	33.3	16.7	2.1	2.1	27.1	2.1
男性	7.1	46.4	-	28.6	-	21.4	3.6	28.6	7.1	-	3.6	21.4	7.1
田原市(H18.3)	10.7	48.2	17.9	25.6	3.0	19.0	1.8	42.3	24.4	11.9	13.1	13.1	-
女性	13.2	44.3	25.5	29.5	4.7	17.9	2.8	50.8	28.3	15.1	9.4	9.4	-
男性	6.6	55.7	4.9	23.6	-	21.3	-	37.7	18.0	6.6	19.7	19.7	-

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」(平成20年8月)

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」(平成18年3月)

配偶者またはパートナーと暮らしている方にお聞きします

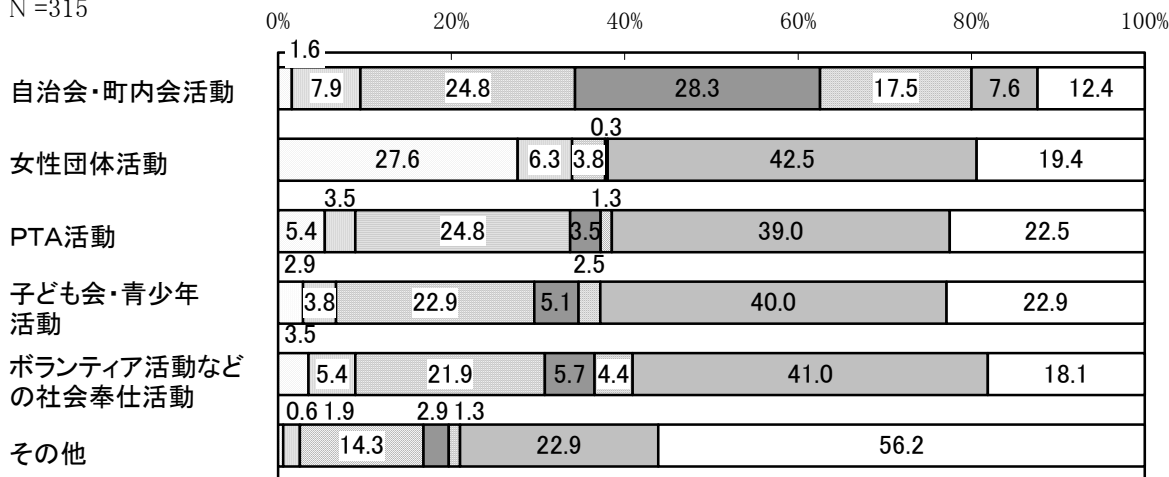
問 36 地域活動の中で、あなたのご家庭での男女の役割分担について、現状をお答えください。(①から⑥でそれぞれ1つずつ〇印)

～自治会、町内会活動は“男性が担当”が約半数～

女性団体活動で、「すべて女性が担当」と「主に女性が担当して男性は手伝う程度」をあわせた女性が担当している割合が高く、約3割となっています。一方、自治会・町内会活動で、「主に男性が担当して女性は手伝う程度」と「すべて男性が担当」をあわせた男性が担当している割合が高く、約5割となっています。

- すべて女性が担当
- 主に女性が担当して男性は手伝う程度
- 男女同じ程度
- 主に男性が担当して女性は手伝う程度
- すべて男性が担当
- どちらも参加していない
- 無回答

N = 315



【性別】

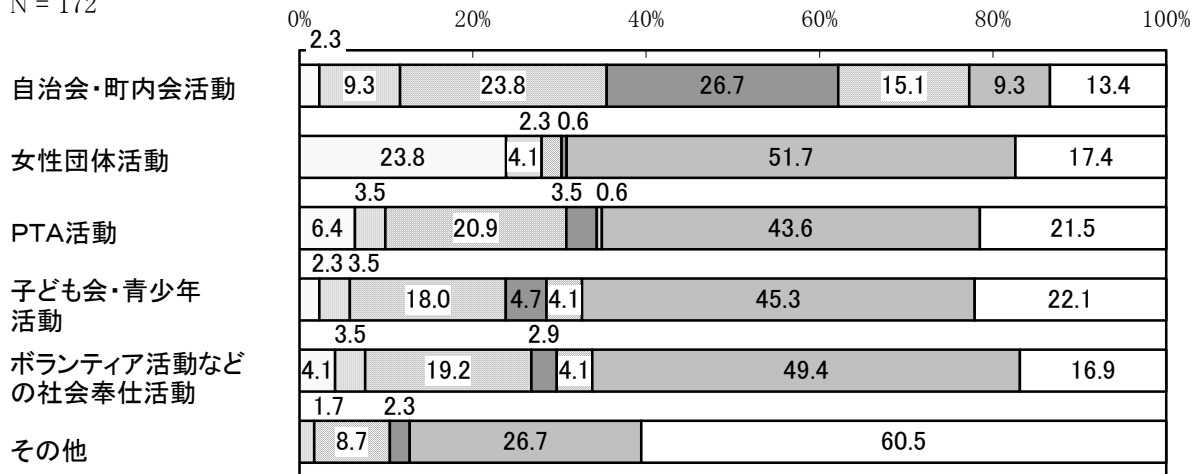
～自治会・町内会活動、ボランティア活動では男女に意識差～

性別でみると、自治会・町内会活動、ボランティア活動などの社会奉仕活動においては女性よりも男性の方が“男性が担当している”の割合が高く、男女間で意識差があることがうかがえます。

- すべて女性が担当
- 主に女性が担当して男性は手伝う程度
- 男女同じ程度
- 主に男性が担当して女性は手伝う程度
- すべて男性が担当
- どちらも参加していない
- 無回答

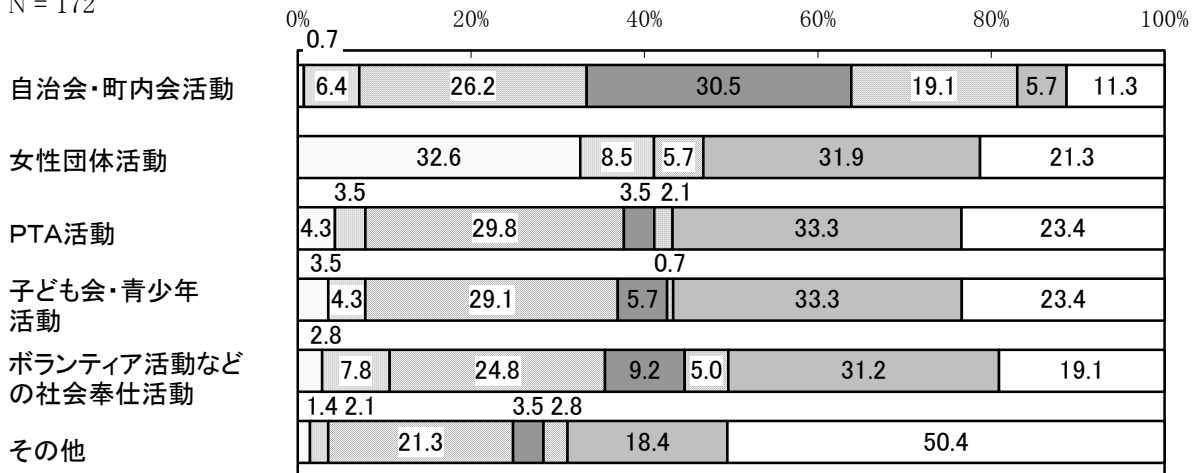
女性

N = 172



男性

N = 172



【経年比較】

～前回調査と同じ傾向～

市の平成 20 年度と比較すると、各項目で大きな数値の差は見られず、同じような傾向になっています。

単位：％

		担 当 す べ て 女 性 が	主 に 女 性 が 担 当 す べ て 女 性 が 担 当 す べ て 女 性 が	男 女 同 じ 程 度	主 に 女 性 が 担 当 す べ て 女 性 が	担 当 す べ て 男 性 が	ど ち ら も 参 加 し て い な い	無 回 答
① 活 動 自 治 会 ・ 町 内 会	田原市(H23.10)	1.6	7.9	24.8	28.3	17.5	7.6	12.4
	女性	2.3	9.3	23.8	26.7	15.1	9.3	13.4
	男性	0.7	6.4	26.2	30.5	19.1	5.7	11.3
	田原市(H20.8)	4.3	7.7	21.0	32.7	13.7	11.0	9.7
	女性	6.2	11.8	20.5	32.3	11.2	9.9	8.1
	男性	2.2	2.9	22.1	33.1	16.2	12.5	11.0
② 女 性 団 体 活 動	田原市(H23.10)	27.6	6.3	3.8	0.3	-	42.5	19.4
	女性	23.8	4.1	2.3	0.6	-	51.7	17.4
	男性	32.6	8.5	5.7	-	-	31.9	21.3
	田原市(H20.8)	29.0	6.7	2.3	-	-	44.7	17.3
	女性	24.2	5.6	2.5	-	-	54.0	13.7
	男性	35.3	8.1	2.2	-	-	33.8	20.6
③ P T A 活 動	田原市(H23.10)	5.4	3.5	24.8	3.5	1.3	39.0	22.5
	女性	6.4	3.5	20.9	3.5	0.6	43.6	21.5
	男性	4.3	3.5	29.8	3.5	2.1	33.3	23.4
	田原市(H20.8)	4.7	4.3	21.7	2.3	1.3	46.0	19.7
	女性	6.2	6.2	22.4	1.2	0.6	49.1	14.3
	男性	2.9	2.2	21.3	3.7	2.2	42.6	25.0
④ 年 活 動 子 ど も 会 ・ 青 少	田原市(H23.10)	2.9	3.8	22.9	5.1	2.5	40.0	22.9
	女性	2.3	3.5	18.0	4.7	4.1	45.3	22.1
	男性	3.5	4.3	29.1	5.7	0.7	33.3	23.4
	田原市(H20.8)	2.7	5.3	20.3	3.7	1.7	46.0	20.3
	女性	3.7	6.2	19.9	3.1	1.9	48.4	16.8
	男性	1.5	4.4	21.3	4.4	1.5	43.4	23.5
⑤ 仕 活 動 ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 な ど の 社 会 奉 献	田原市(H23.10)	3.5	5.4	21.9	5.7	4.4	41.0	18.1
	女性	4.1	3.5	19.2	2.9	4.1	49.4	16.9
	男性	2.8	7.8	24.8	9.2	5.0	31.2	19.1
	田原市(H20.8)	3.0	3.7	21.0	8.0	3.3	46.0	15.0
	女性	4.3	3.7	19.3	7.5	0.6	52.2	12.4
	男性	1.5	3.7	23.5	8.8	6.6	39.0	16.9
⑥ そ の 他	田原市(H23.10)	0.6	1.9	14.3	2.9	1.3	22.9	56.2
	女性	-	1.7	8.7	2.3	-	26.7	60.5
	男性	1.4	2.1	21.3	3.5	2.8	18.4	50.4
	田原市(H20.8)	1.7	1.7	10.7	3.3	1.0	29.3	52.3
	女性	3.1	1.9	8.7	2.5	0.6	34.8	48.4
	男性	-	1.5	13.2	4.4	1.5	22.8	56.6

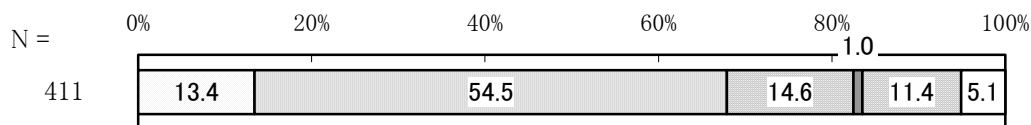
全員の方にお聞きします

問 37 女性が地域社会を代表する立場として、施策づくりに参画する場合、その割合についてどう思いますか。(地域社会を代表する立場の例としては、市議会議員、行政の委員、地域団体の代表者・役員等です。)(1つに○印)

**～今より女性の代表者が増えると良いと思っている人が約半数～**

「今よりもう少し女性の代表者が増えると良い」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「現状のままで良い」の割合が 14.6%、「半分は女性の代表者が占めるべきだと思う」の割合が 13.4%となっています。

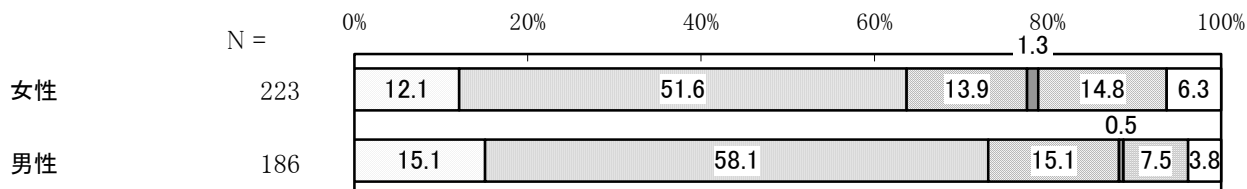
- 半分は女性の代表者が占めるべきだと思う
- 今よりもう少し女性の代表者が増えると良い
- 現状のままで良い
- 女性の代表者は必要ない
- わからない
- 無回答



**【性別】**

**～男性で今よりもう少し女性の代表者が増えると良いと思っている人が高い～**

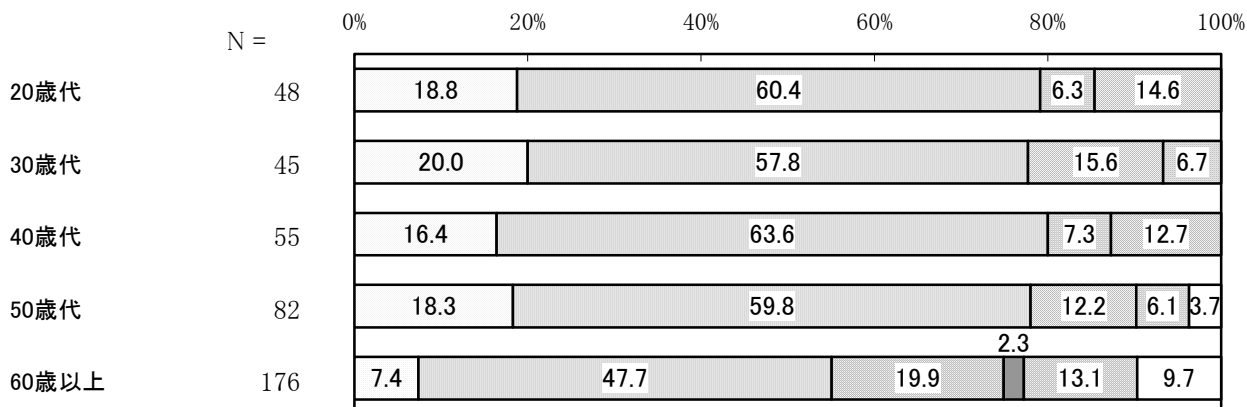
性別でみると、女性よりも男性の方が「今よりもう少し女性の代表者が増えると良い」の割合が高くなっています。



**【年代別】**

**～30歳代は「半分は女性の代表者が占めるべき」、60歳代は「現状維持」～**

年代別にみると、「半分は女性の代表者が占めるべきだと思う」の割合が最も高いのは30歳代で20.0%となっています。一方、「現状のままで良い」の割合が最も高いのは60歳以上で19.9%となっています。



【経年比較】

～男女とも「半分は女性の代表者が占めるべきだと思う」が年々増加～

市の平成 20 年度、17 年度調査と比較すると、男女とも「半分は女性の代表者が占めるべきだと思う」が年々増加しています。

単位：％

	半分は女性の代表者が占めるべきだと思う	今よりも少し女性の代表者が増えると良い	現状のままが良い	女性の代表者は必要ない	わからない	無回答
田原市(H23.10)	13.4	54.5	14.6	1.0	11.4	5.1
女性	12.1	51.6	13.9	1.3	14.8	6.3
男性	15.1	58.1	15.1	0.5	7.5	3.8
田原市(H20.8)	11.6	47.4	16.8	1.2	17.8	5.2
女性	10.1	46.5	15.7	0.5	22.1	5.1
男性	13.7	48.4	17.6	2.2	13.2	4.9
田原市(H18.3)	11.2	56.9	16.7	1.3	13.9	-
女性	9.8	56.3	16.7	1.5	15.7	-
男性	13.2	57.9	16.8	1.1	11.1	-

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）  
 田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成 18 年 3 月）

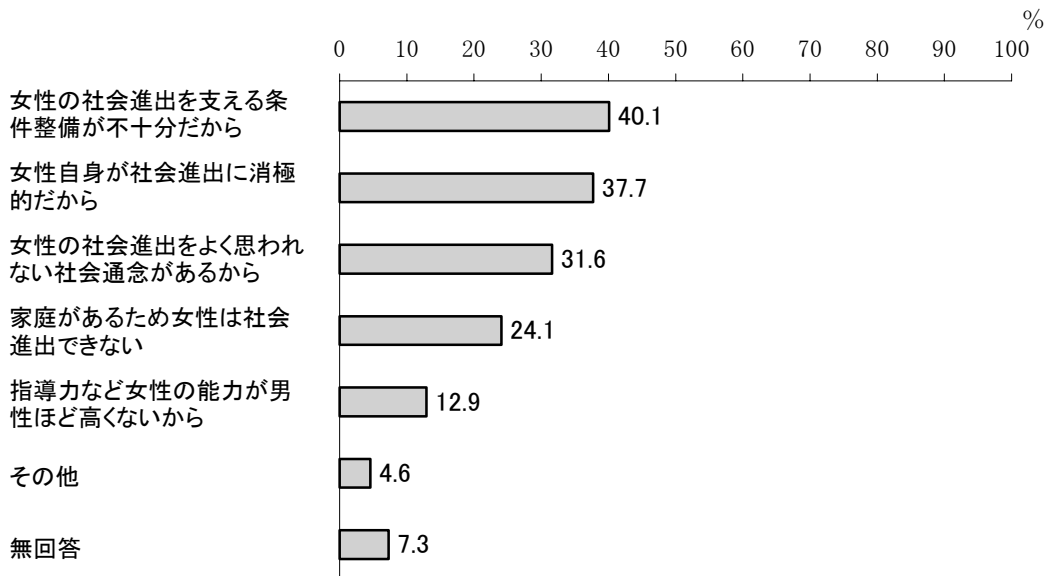
全員の方にお聞きします

問 38 田原市では、法令・条例設置委員への女性の登用率が約 20%と低いですが、それはどのような理由からだと思えますか。(2つまで○印)

～条件整備の不十分、女性が社会進出に消極的が約 4 割～

「女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから」の割合が 40.1%と最も高く、次いで「女性自身が社会進出に消極的だから」の割合が 37.7%、「女性の社会進出をよく思われない社会通念があるから」の割合が 31.6%となっています。

N = 411



【性別】

～女性のほうが「女性の社会進出をよく思われない社会通念があるから」が高い～

性別で見ると、男性よりも女性の方が「女性の社会進出をよく思われない社会通念があるから」の割合が高くなっています。一方、女性よりも男性の方が「女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	条件整備が不十分だから	女性自身が消極的だから	社会通念があるから	家庭があるため社会進出できない	指導力など女性の能力が男性ほど高くないから	その他	無回答
女性	223	36.8	35.4	37.2	25.1	14.3	5.8	8.1
男性	186	38.7	27.4	43.0	23.1	11.3	3.2	6.5



【年代別】

～20 歳代の半数が「条件整備の不十分」、  
50 歳代の約半数が「女性自身が社会進出に消極的だから」～

年代別にみると、「女性自身が社会進出に消極的だから」の割合が最も高いのは 50 歳代で 45.1%となっています。また、20 歳代では「女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから」の割合が 50.0%となっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	女性自身が 社会的に消極的 だから	女性の社会進出 をよく思われな い社会通念があ るから	女性の社会進出 を支える条件整 備が不十分だか ら	女性の社会進出 できない 家庭があるため 女性はあるため 女性はあるため 女性はあるため	指導力など女性 の能力が男性ほ ど高くないから	その他	無回答
20 歳代	48	33.3	33.3	50.0	39.6	2.1	4.2	2.1
30 歳代	45	22.2	37.8	46.7	31.1	11.1	6.7	—
40 歳代	55	32.7	40.0	49.1	23.6	7.3	7.3	1.8
50 歳代	82	45.1	35.4	37.8	22.0	12.2	1.2	6.1
60 歳以上	176	40.3	25.6	35.2	18.2	18.2	5.1	12.5

【経年比較】

～家庭があるため社会進出できないと回答した割合が減少～

市の平成 20 年度、17 年度調査と比較すると、「家庭があるため女性社会進出できない」が前回調査に比べ 4 ポイント減少しています。

単位：%

	女性自身が 社会的に消極的 だから	女性の社会進出 をよく思われな い社会通念があ るから	女性の社会進出 を支える条件整 備が不十分だか ら	女性の社会進出 できない 家庭があるため 女性はあるため 女性はあるため	指導力など女性 の能力が男性ほ ど高くないから	その他	無回答
田原市(H23.10)	37.7	31.6	40.1	24.1	12.9	4.6	7.3
女性	36.8	35.4	37.2	25.1	14.3	5.8	8.1
男性	38.7	27.4	43.0	23.1	11.3	3.2	6.5
田原市(H20.8)	35.8	30.9	41.0	28.1	11.9	3.5	6.4
女性	35.5	35.0	36.9	30.4	10.6	3.7	5.5
男性	37.4	25.8	46.2	24.7	12.6	3.3	7.1
田原市(H18.3)	37.0	29.4	44.7	34.8	14.4	3.7	—
女性	43.7	34.8	39.3	34.3	19.4	3.1	—
男性	36.2	28.7	52.7	35.5	11.1	5.4	—

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」(平成 20 年 8 月)

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」(平成 18 年 3 月)

## 地域活動・社会活動に関する回答結果のまとめ

- 地域活動ではボランティア活動において参加意向が高い
- 地域活動に参加できない原因として、「仕事が忙しい」「経済的に余裕がない」「自分の性格に合わない」が年々減少している
- 自治会・町内会活動、ボランティア活動では男女に意識差
- 約半数が施策づくりに女性の代表者が増えると良いと思っている
- 女性の登用率が低い理由は、「女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから」、「女性自身が社会進出に消極的だから」という認識が高く、「家庭があるため女性は社会進出できない」と回答した割合は前回調査よりも減少

## 7 介護について

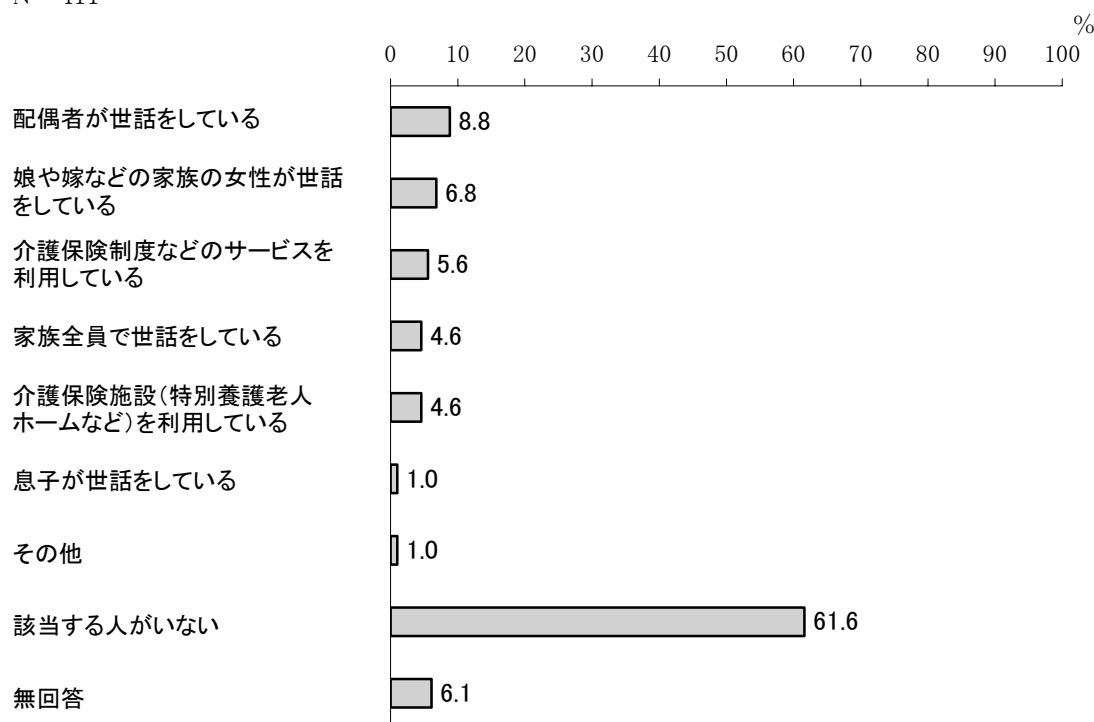
全員の方にお聞きします

問 39 現在、介護は主にどのような形で行っていますか。(1つに○印)

### ～「配偶者が世話をしている」がトップ～

「配偶者が世話をしている」の割合が 8.8%、「娘や嫁などの家族の女性が世話をしている」の割合が 6.8%、「介護保険制度などのサービスを利用している」の割合が 5.6%となっています。一方、「該当する人がいない」の割合が 61.6%となっています。

N = 411



### 【性別】

#### ～家族の女性が世話をしている傾向～

性別でみると、男性よりも女性の方が「娘や嫁などの家族の女性が世話をしている」の割合が高くなっています。一方、女性よりも男性の方が「該当する人がいない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	配偶者が世話をしている	娘や嫁などの家族の女性が世話をしている	息子が世話をしている	家族全員で世話をしている	介護保険制度などのサービスを利用している	介護保険施設(特別養護老人ホームなど)を利用している	その他	該当する人がいない	無回答
女性	223	8.1	9.4	0.4	3.1	6.7	4.5	1.8	58.7	7.2
男性	186	9.1	3.8	1.6	6.5	4.3	4.8	-	65.1	4.8

【経年比較】

～サービスや施設を利用する割合が年々増加～

市の平成20年度、17年度調査と比較すると、「配偶者が世話をしている」と「介護保険制度などのサービスを利用している」と「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用している」が年々増加しています。

単位：％

	配偶者が世話をしている	娘や嫁などの家族の女性が世話をしている	息子が世話をしている	家族全員で世話をしている	介護保険制度などのサービスを利用している	介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用している	その他	該当する人がいない	無回答
田原市(H23.10)	8.8	6.8	1.0	4.6	5.6	4.6	1.0	61.6	6.1
女性	8.1	9.4	0.4	3.1	6.7	4.5	1.8	58.7	7.2
男性	9.1	3.8	1.6	6.5	4.3	4.8	-	65.1	4.8
田原市(H20.8)	7.7	5.7	0.2	6.4	3.7	3.7	1.7	63.7	7.2
女性	4.6	7.8	-	6.5	4.6	4.1	1.8	64.5	6.0
男性	11.0	3.3	0.5	5.5	2.2	2.7	1.6	64.8	8.2
田原市(H18.3)	6.4	8.9	0.8	5.7	2.9	2.2	1.1	72.0	-
女性	3.3	11.6	0.3	6.1	3.0	2.2	1.1	72.5	-
男性	10.6	5.3	1.5	5.3	2.6	1.9	1.1	71.7	-

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成20年8月）

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成18年3月）

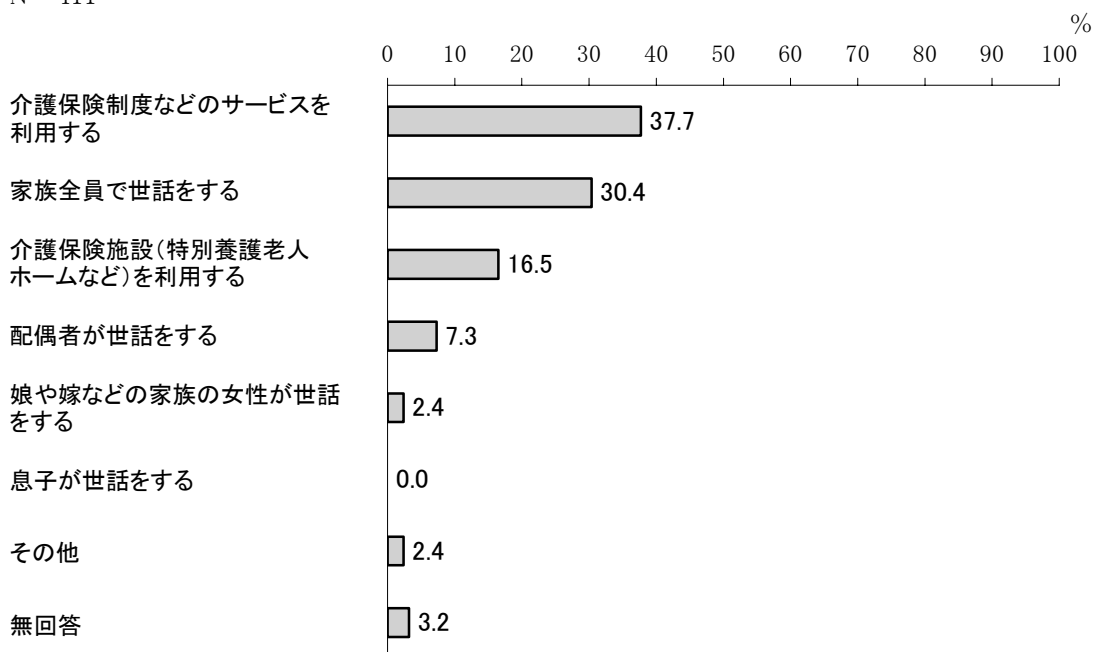
全員の方にお聞きします

問 40 あなたは、将来、要介護者などの身のまわりの世話は、どのような形をとるのが最も望ましいと考えますか。(1つに○印)

### ～サービス利用が望ましい～

「介護保険制度などのサービスを利用する」の割合が 37.7%と最も高く、次いで「家族全員で世話をする」の割合が 30.4%、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用する」の割合が 16.5%となっています。

N = 411



#### 【性別】

### ～女性は「サービス利用」、男性は「家族全員で世話」～

性別でみると、女性では「介護保険制度などのサービスを利用する」の割合、男性では「家族全員で世話をする」の割合が最も高くなっています。また、男性では、「配偶者が世話をする」の割合が女性よりも高く、9.1%となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	配偶者が世話をする	娘や嫁などの家族の女性が世話をする	息子が世話をする	家族全員で世話をする	介護保険制度などのサービスを利用する	介護保険施設(特別養護老人ホームなど)を利用する	その他	無回答
女性	223	5.4	1.3	-	27.4	43.9	15.7	3.1	3.1
男性	186	9.1	3.8	-	34.4	30.1	17.7	1.6	3.2

【年代別】

～40歳代以下は家族全員で世話、50歳代以上は介護保険サービス～

年代別にみると、20歳代から40歳代では「家族全員で世話をする」の割合、50歳代、60歳以上では「介護保険制度などのサービスを利用する」が最も高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	配偶者が世話をする	娘や嫁などの家族の女性が世話をする	息子が世話をする	家族全員で世話をする	介護保険制度などのサービスを利用する	介護保険施設(特別養護老人ホームなど)を利用する	その他	無回答
20歳代	48	2.1	-	-	56.3	25.0	10.4	6.3	-
30歳代	45	4.4	4.4	-	44.4	31.1	13.3	2.2	-
40歳代	55	3.6	5.5	-	38.2	34.5	14.5	3.6	-
50歳代	82	12.2	2.4	-	25.6	41.5	14.6	2.4	1.2
60歳以上	176	8.5	1.7	-	19.9	41.5	21.0	1.1	6.3

【経年比較】

～家族全員で世話が減少、介護保険サービスの利用が増加～

市の平成20年度、17年度調査と比較すると、「家族全員で世話をする」が前回調査に比べ10ポイント程度減少しています。一方、「介護保険制度などのサービスを利用する」が前回調査に比べ10.3ポイント増加しています。

単位：％

	配偶者が世話をする	娘や嫁などの家族の女性が世話をする	息子が世話をする	家族全員で世話をする	介護保険制度などのサービスを利用する	介護保険施設(特別養護老人ホームなど)を利用する	その他	無回答
田原市(H23.10)	7.3	2.4	-	30.4	37.7	16.5	2.4	3.2
女性	5.4	1.3	-	27.4	43.9	15.7	3.1	3.1
男性	9.1	3.8	-	34.4	30.1	17.7	1.6	3.2
田原市(H20.8)	6.4	2.2	0.7	40.7	27.4	17.0	1.5	4.0
女性	2.8	1.8	0.9	41.9	29.0	19.4	1.4	2.8
男性	11.0	2.7	0.5	40.1	24.7	14.3	1.6	4.9
田原市(H18.3)	7.1	1.5	0.9	38.5	34.1	14.9	2.9	-
女性	5.0	1.1	1.1	37.1	37.6	15.5	2.6	-
男性	9.7	2.2	0.7	40.8	29.2	14.1	3.2	-

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」(平成20年8月)

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」(平成18年3月)

## 介護に関する回答結果のまとめ

- 介護の理想は介護保険制度などのサービスを利用することだが、現状は女性が世話をしている傾向にある
- 前回よりも介護保険制度などのサービスや介護保険施設などを利用していると回答した割合が年々増加している

## 8 人権について

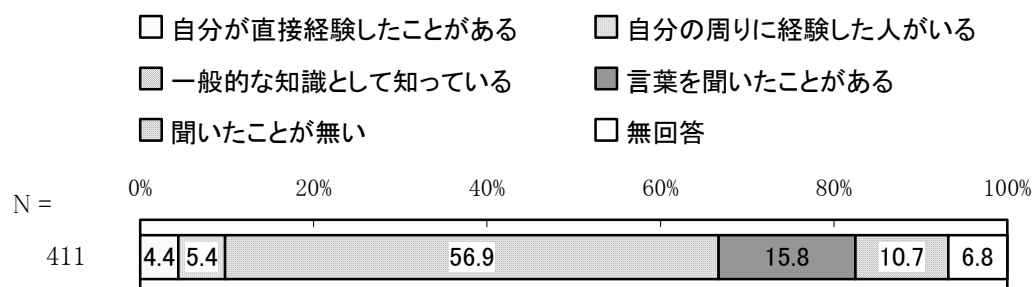
全員の方にお聞きします

問 41 セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスについて、自分が経験したり、そのような話を聞いたことがありますか。(それぞれ1つずつ○印)

### ①セクシュアル・ハラスメント

#### ～セクシュアル・ハラスメントの認知度は約6割～

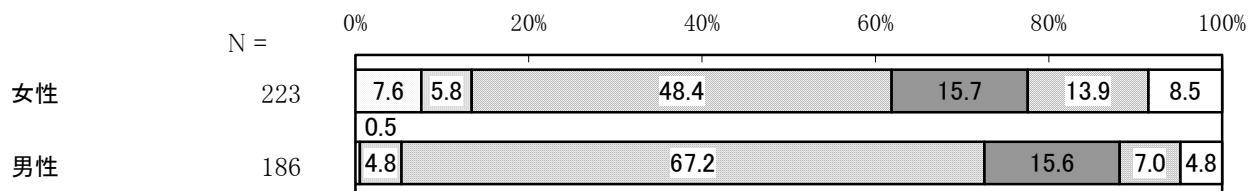
「一般的な知識として知っている」の割合が 56.9%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことがある」の割合が 15.8%、「聞いたことが無い」の割合が 10.7%となっています。



#### 【性別】

#### ～女性の8%が経験したことがあると回答～

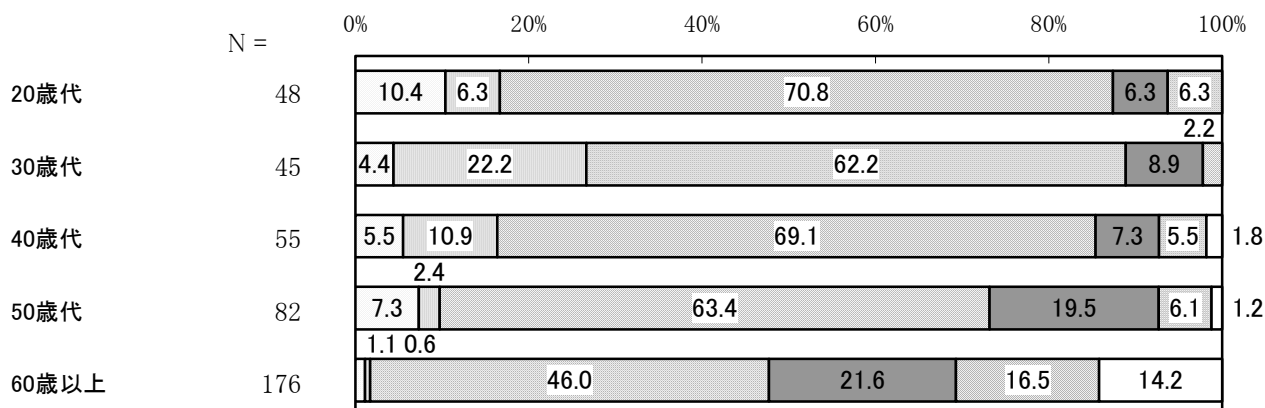
性別でみると、女性では「自分が直接経験したことがある」の割合が約 8%となっています。



#### 【年代別】

#### ～20歳代の約1割が経験したことがあると回答～

年代別でみると、「自分が直接経験したことがある」の割合が最も高いのは、20歳代で、10.4%となっています。次いで、50歳代、40歳代の順に高くなっています。





【経年比較】

～一般的な知識として知っている人が減少～

市の平成 20 年度、17 年度調査と比較すると、「一般的な知識として知っている」が年々減少しています。一方、男性で「言葉を聞いたことがある」が年々増加しています。

単位：%

	自分が直接経験したことがある	自分の周りに経験した人がいる	一般的な知識として知っている	言葉を聞いたことがある	聞いたことが無い	無回答
田原市(H23.10)	4.4	5.4	56.9	15.8	10.7	6.8
女性	7.6	5.8	48.4	15.7	13.9	8.5
男性	0.5	4.8	67.2	15.6	7.0	4.8
田原市(H20.8)	5.4	5.9	57.8	12.3	13.6	4.9
女性	9.7	4.1	53.5	12.4	15.7	4.6
男性	0.5	7.7	63.2	12.6	11.0	4.9
田原市(H18.3)	5.9	7.4	63.0	12.9	10.8	-
女性	8.6	5.3	61.1	13.3	11.7	-
男性	2.0	10.4	66.0	12.4	9.2	-

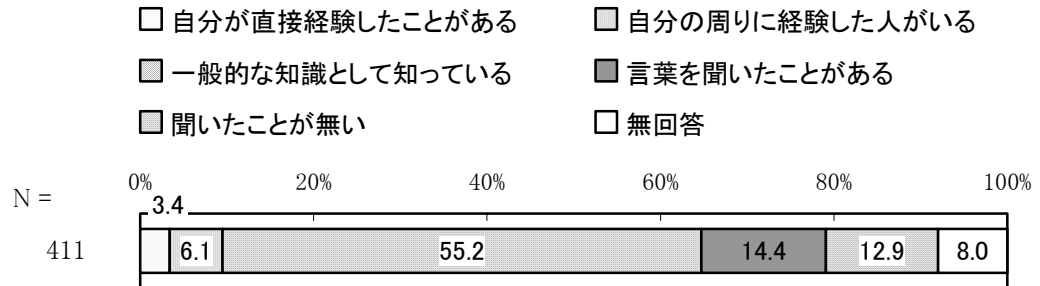
資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成 18 年 3 月）

②ドメスティック・バイオレンス

～約半数が「一般的な知識として知っている」～

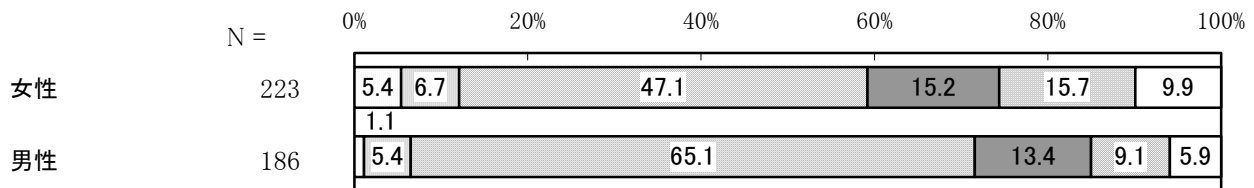
「一般的な知識として知っている」の割合が 55.2%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことがある」の割合が 14.4%、「聞いたことが無い」の割合が 12.9%となっています。



【性別】

～女性の約5%が直接経験したことがあると回答～

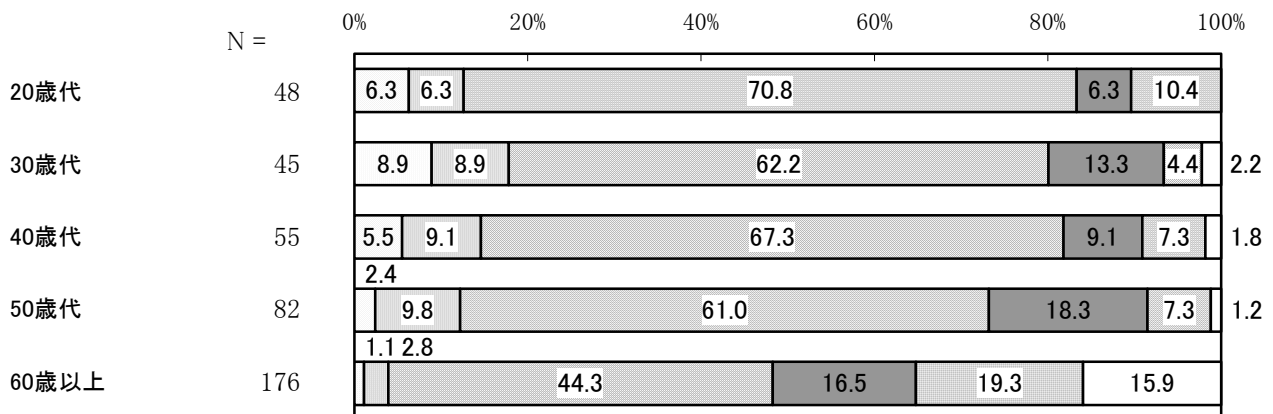
性別で見ると、女性では「自分が直接経験したことがある」の割合が約5%となっています。



【年代別】

～30歳代の8.9%が直接経験したことがあると回答～

年代別で見ると、「自分が直接経験したことがある」の割合が最も高いのは、30歳代で、8.9%となっています。次いで、20歳代、40歳代の順に高くなっています。



【経年比較】

～「聞いたことが無い」が年々減少～

市の平成 20 年度、17 年度調査と比較すると、「聞いたことが無い」が年々減少しています。

単位：%

	自分が直接経験した ことがある	自分の周りに経験し た人がいる	一般的な知識として 知っている	言葉を聞いたことが ある	聞いたことが無い	無回答
田原市(H23.10)	3.4	6.1	55.2	14.4	12.9	8.0
女性	5.4	6.7	47.1	15.2	15.7	9.9
男性	1.1	5.4	65.1	13.4	9.1	5.9
田原市(H20.8)	4.7	7.4	54.3	12.1	16.8	4.7
女性	7.8	5.5	53.0	12.9	16.6	4.1
男性	1.1	9.9	55.5	11.5	17.0	4.9
田原市(H18.3)	5.9	9.3	52.9	16.2	18.3	-
女性	3.6	9.5	52.8	16.2	17.9	-
男性	2.0	8.9	53.3	16.3	18.7	-

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）  
田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成 18 年 3 月）

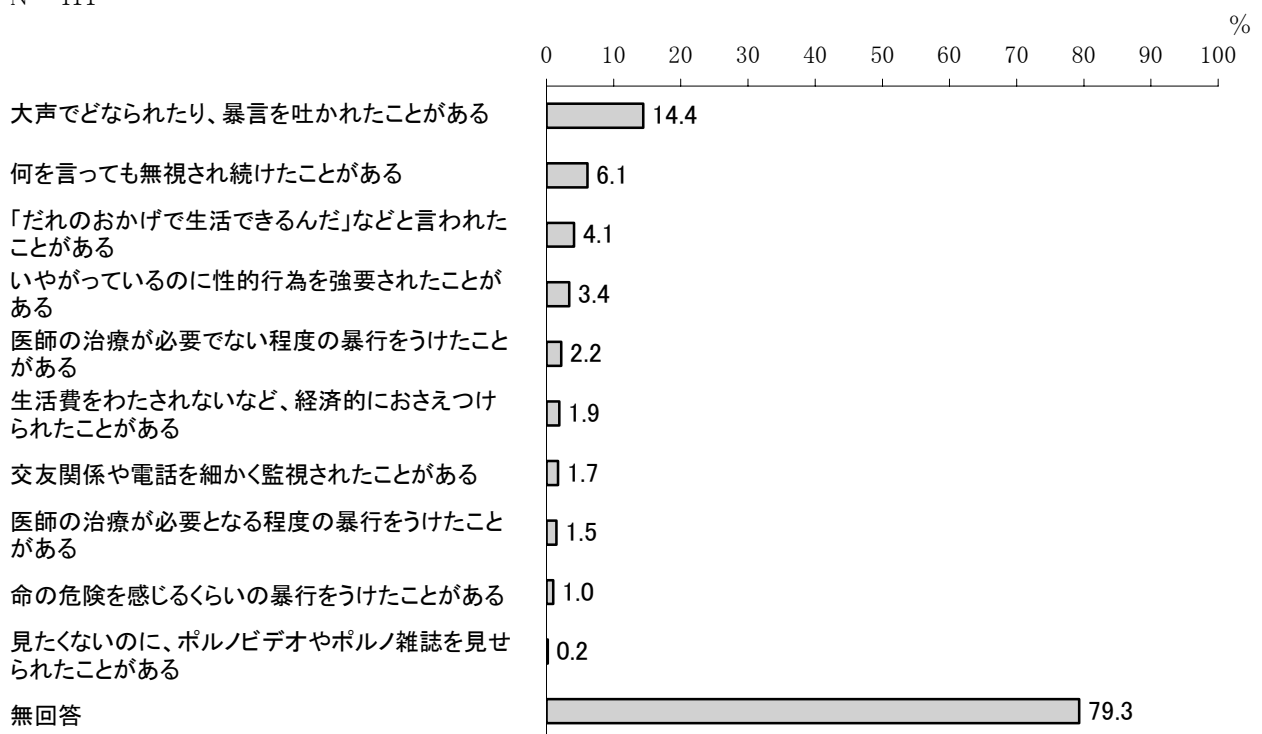
全員の方にお聞きします

問 42 あなたはこれまでに、あなたの夫または妻や恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。(当てはまるものいくつかでも○印)

～「大声でどなられたり、暴言を吐かれたことがある」がトップ～

「大声でどなられたり、暴言を吐かれたことがある」の割合が 14.4%と最も高く、次いで「何を言っても無視され続けたことがある」の割合が 6.1%、「だれのおかげで生活できるんだ」などと言われたことがある」の割合が 4.1%となっています。

N = 411



【性別】

～女性の3割が何らかの暴力を受けたことがあると回答～

性別で見ると、女性の約3割※が「何らかの暴力等をうけたことがある」と回答しています。また、女性で「命の危険を感じるくらいの暴行を受けたことがある」の割合が 1.8%となっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	命の危険を感じるくらいの暴行を受けたことがある	医師の治療が必要となる程度の暴行を受けたことがある	医師の治療が必要でない程度の暴行を受けたことがある	いやがっているのに性的行為を強要されたことがある	見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられたことがある	何を言っても無視され続けたことがある	交友関係や電話を細かく監視されたことがある	「だれのおかげで生活できるんだ」などと言われたことがある	大声でどなられたり、暴言を吐かれたことがある	生活費をわたされないなど、経済的におさえつけられたことがある	無回答
女性	223	1.8	2.2	3.1	5.8	0.4	6.3	2.7	7.2	17.9	3.1	73.5
男性	186	—	0.5	1.1	0.5	—	5.9	0.5	0.5	10.2	0.5	86.0

※全体 (100%) から無回答の割合を差し引いた率

【年代別】

年代別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	有効回答数(件)	命の危険を感じるくらいの暴行をうけたことがある	医師の治療が必要となる程度の暴行をうけたことがある	医師の治療が必要でない程度の暴行をうけたことがある	いやがっているのに性的行為を強要されたことがある	見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられたことがある	何を言っても無視され続けたことがある	交友関係や電話を細かく監視されたことがある	「だれのおかげで生活できるんだ」などと言われたことがある	大声でどなられたり、暴言を吐かれたことがある	生活費をわたされれないなど、経済的におさえつけられたことがある	無回答
20 歳代	48	—	—	4.2	4.2	—	2.1	2.1	4.2	6.3	—	87.5
30 歳代	45	2.2	2.2	6.7	2.2	—	6.7	2.2	4.4	13.3	—	82.2
40 歳代	55	3.6	3.6	1.8	3.6	—	9.1	3.6	5.5	12.7	5.5	76.4
50 歳代	82	—	1.2	1.2	2.4	1.2	9.8	1.2	2.4	18.3	3.7	74.4
60 歳以上	176	0.6	1.1	1.1	3.4	—	4.5	1.1	4.5	15.9	1.1	79.5

【経年比較】

～前回調査と同じ傾向～

市の平成 20 年度と比較すると、大きな数値の差は見られず、同じような傾向になっています。

単位：％

	命の危険を感じるくらいの暴行をうけたことがある	医師の治療が必要となる程度の暴行をうけたことがある	医師の治療が必要でない程度の暴行をうけたことがある	いやがっているのに性的行為を強要されたことがある	見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられたことがある	何を言っても無視され続けたことがある	交友関係や電話を細かく監視されたことがある	「だれのおかげで生活できるんだ」などと言われたことがある	大声でどなられたり、暴言を吐かれたことがある	生活費をわたされれないなど、経済的におさえつけられたことがある	無回答
田原市(H23.10)	1.0	1.5	2.2	3.4	0.2	6.1	1.7	4.1	14.4	1.9	79.3
女性	1.8	2.2	3.1	5.8	0.4	6.3	2.7	7.2	17.9	3.1	73.5
男性	—	0.5	1.1	0.5	—	5.9	0.5	0.5	10.2	0.5	86.0
田原市(H20.8)	0.7	1.0	4.0	4.0	0.7	5.4	3.7	6.9	16.3	4.2	76.0
女性	0.9	1.4	6.0	6.5	0.9	5.1	4.1	10.1	20.7	5.5	69.6
男性	0.5	0.5	1.6	1.1	0.5	6.0	3.3	3.3	11.5	2.7	83.0

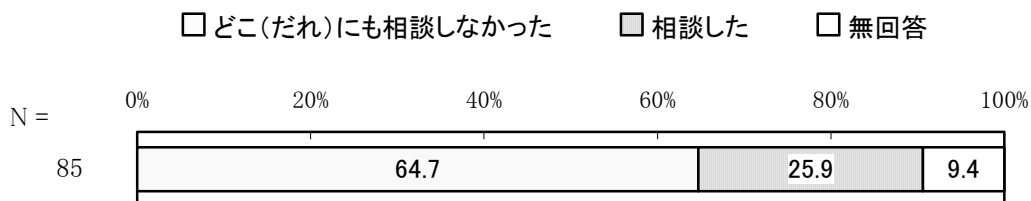
資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」(平成 20 年 8 月)

前の質問で、該当のある方にお聞きします

問 43 夫または妻や恋人からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

### ～約6割の人が相談していないと回答～

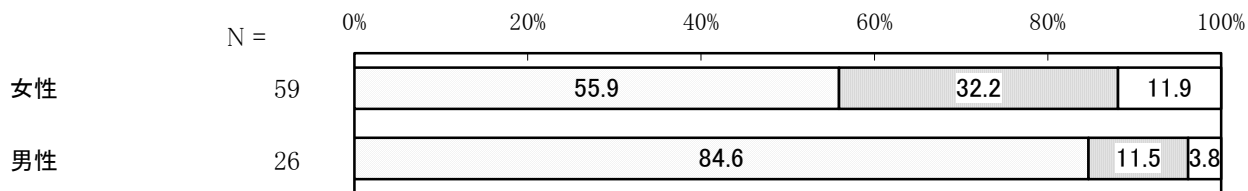
「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が64.7%、「相談した」の割合が25.9%となっています。



#### 【性別】

### ～男性のほうが相談していない～

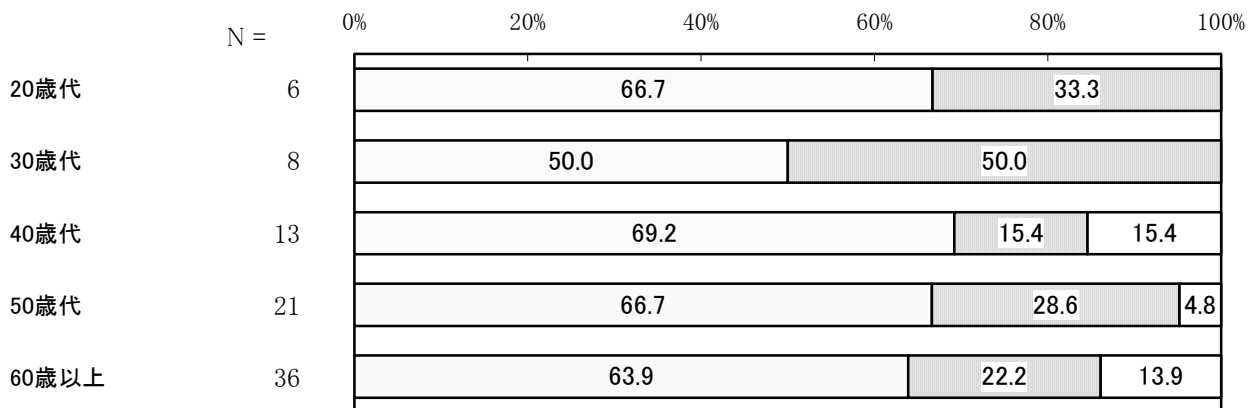
性別で見ると女性よりも男性の方が「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が高くなっています。



#### 【年代別】

### ～40歳代の約7割が相談していないと回答～

年代別で見ると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合は40歳代が最も高く、69.2%となっています。



【経年比較】

～相談しなかったと回答した人が増加～

市の平成 20 年度と比較すると、男女とも「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 10 ポイント以上増加しています。一方、「相談した」が 4 ポイント程度減少しています。

単位：%

	どこ（だれ）にも 相談しなかった	相談した	無回答
田原市(H23.10)	64.7	25.9	9.4
女性	55.9	32.2	11.9
男性	84.6	11.5	3.8
田原市(H20.8)	52.6	29.9	17.5
女性	45.5	36.4	18.2
男性	67.7	16.1	16.1

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）

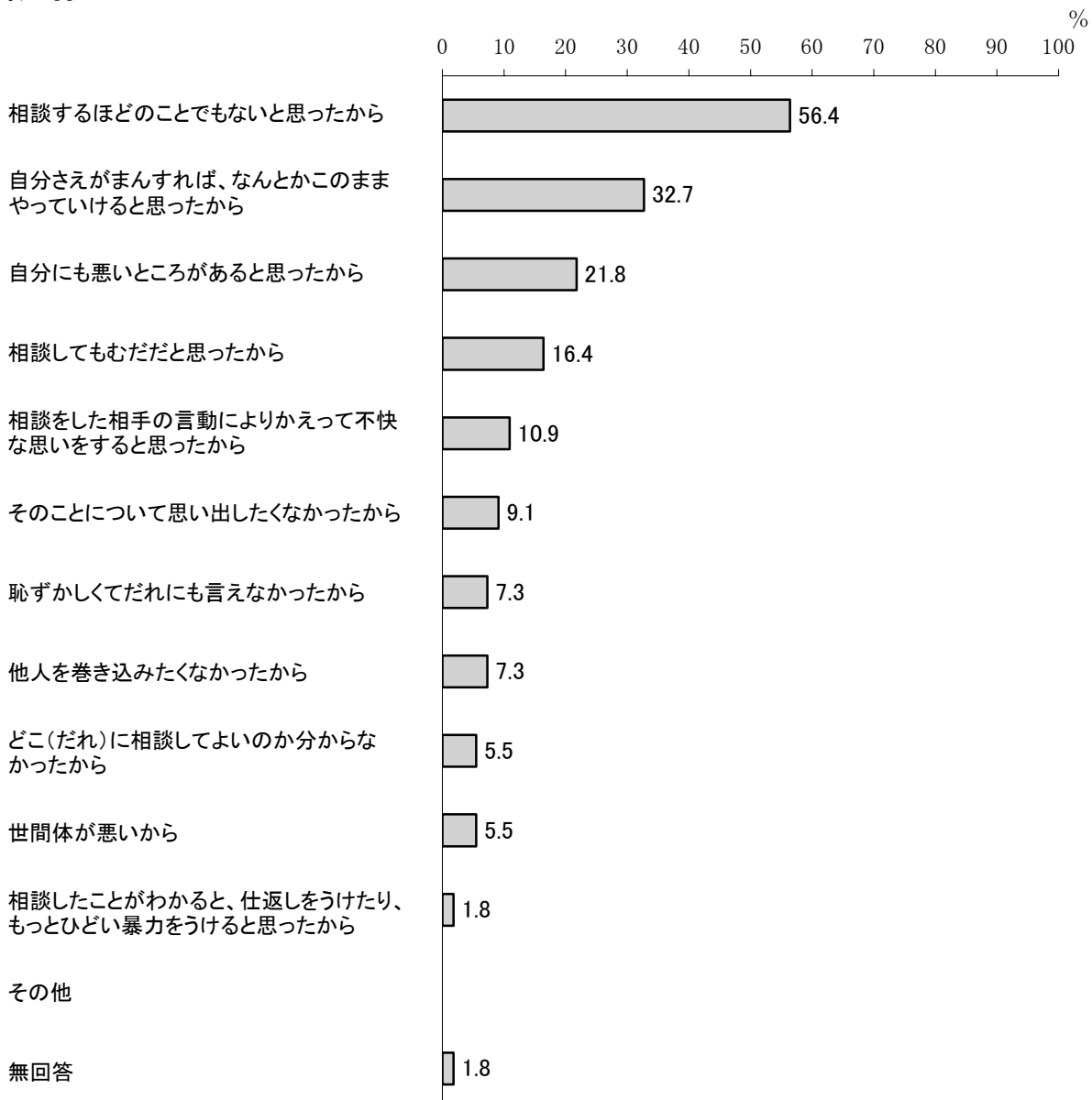
問 43 で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします

問 44 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。  
（当てはまるものいくつかでも○印）

### ～相談するほどのことでもないと思ったからが 5 割強～

「相談するほどのことでもないと思ったから」の割合が 56.4%と最も高く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていたらよかったから」の割合が 32.7%、「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が 21.8%となっています。

N = 55





【性別】

～女性は「他人を巻き込みたくない」、男性は「自分にも悪いところがあったから」～

性別でみると、男性よりも女性の方が「他人を巻き込みたくなかったから」の割合が 12.1 ポイント高くなっています。一方、女性よりも男性の方が「自分にも悪いところがあったから」の割合が 16.6 ポイント、「相談するほどのことでもないと思ったから」の割合が 12.1 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	どこ(だれ)に相談してよいか分からなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談してもむだだと思ったから	相談したことがわかると、仕返しをうけたり、もっとひどい暴力をうけると思ったから	相談をした相手の言動によりかえって不快な思いをと思ったから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出しただけ	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことでもないと思ったから	その他	無回答
女性	33	3.0	6.1	15.2	3.0	9.1	30.3	6.1	12.1	9.1	15.2	51.5	—	3.0
男性	22	9.1	9.1	18.2	—	13.6	36.4	4.5	—	9.1	31.8	63.6	—	—

【経年比較】

～「自分さえがまんすればやっていける」が増加～

市の平成 20 年度調査と比較すると、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が約 13 ポイント、「そのことについて思い出しただけ」が約 5 ポイント増加しています。一方、「相談してもむだだと思ったから」が約 5 ポイント減少しています。

単位：%

	どこ(だれ)に相談してよいか分からなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談してもむだだと思ったから	相談したことがわかると、仕返しをうけたり、もっとひどい暴力をうけると思ったから	相談をした相手の言動によりかえって不快な思いをと思ったから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出しただけ	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことでもないと思ったから	その他	無回答
田原市(H23.10)	5.5	7.3	16.4	1.8	10.9	32.7	5.5	7.3	9.1	21.8	56.4	—	1.8
女性	3.0	6.1	15.2	3.0	9.1	30.3	6.1	12.1	9.1	15.2	51.5	—	3.0
男性	9.1	9.1	18.2	—	13.6	36.4	4.5	—	9.1	31.8	63.6	—	—
田原市(H20.8)	5.9	9.8	21.6	2.0	7.8	19.6	7.8	3.9	3.9	25.5	54.9	7.8	2.0
女性	10.0	13.3	20.0	3.3	10.0	23.3	6.7	3.3	6.7	30.0	56.7	3.3	—
男性	—	4.8	23.8	—	4.8	14.3	9.5	4.8	—	19.0	52.4	14.3	4.8

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」(平成 20 年 8 月)

## 人権に関する回答結果のまとめ

- 女性の約1割はセクシュアル・ハラスメントを経験している
- 女性において約5%はドメスティック・バイオレンスを経験していると回答しているが、約3割の人が何らかの暴力行為等を受けていることから、自分が受けた暴力等をドメスティック・バイオレンスだと認識していないことがうかがえる
- 暴力を受けた人のうち約6割は未相談、理由は「相談するほどのことでもないと思ったから」と回答した人が最も多い
- 暴力を受けたことを未相談の理由で、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が前回調査よりも増加している

## 9 男女共同参画の施策について

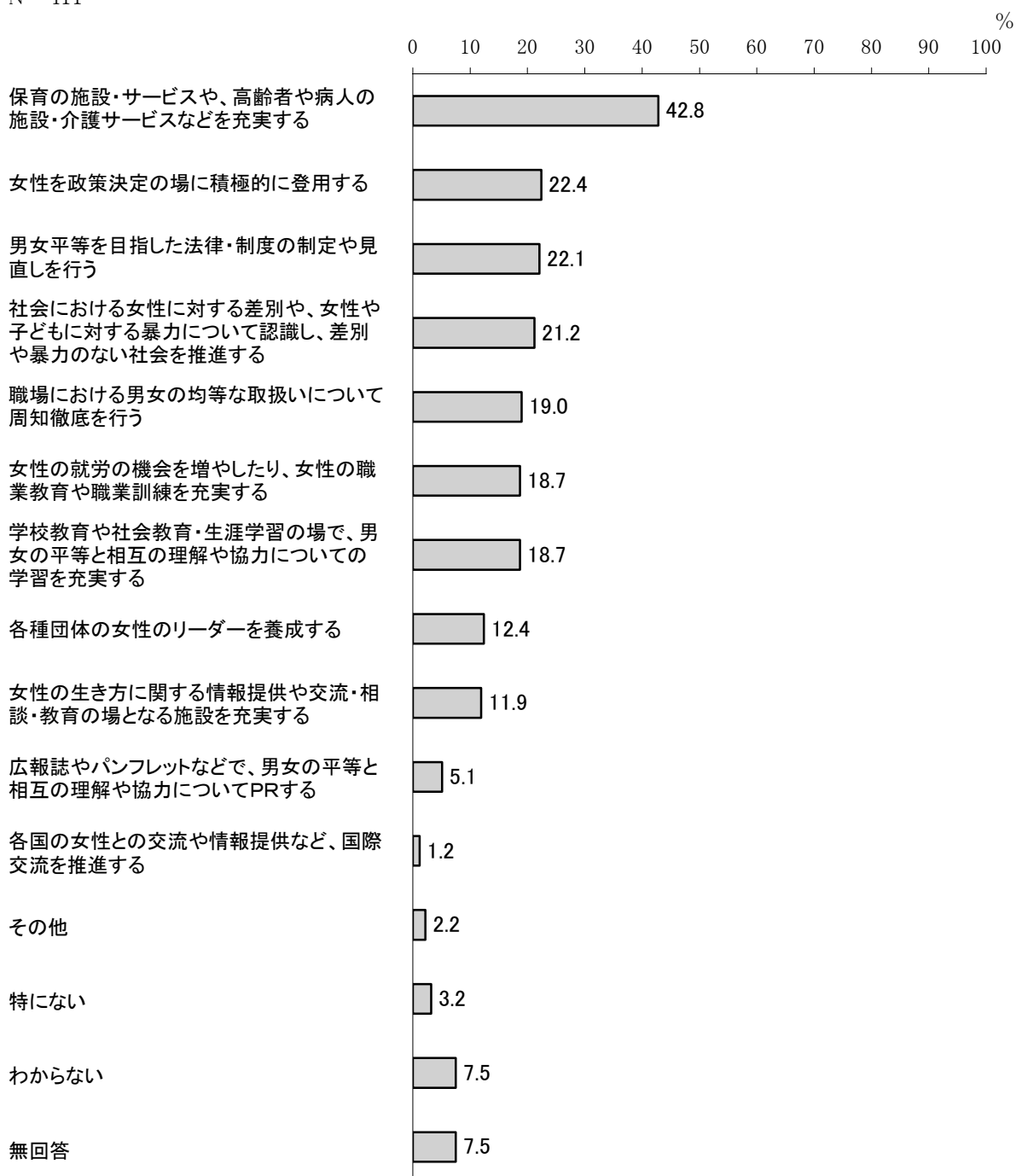
全員にお聞きします

問 45 男女共同参画社会の推進のためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（3つまで○印）

### ～保育サービス・医療や介護のサービス充実がトップ～

「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスなどを充実する」の割合が42.8%と最も高く、次いで「女性を政策決定の場に積極的に登用する」の割合が22.4%、「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が22.1%となっています。

N = 411



【性別】

～女性は「保育サービス・医療や介護のサービスの充実」、  
男性は「政策決定への積極的な登用」と「職場での周知徹底」～

性別で見ると、男性よりも女性の方が「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスなどを充実する」の割合が9.5ポイント高くなっています。一方、女性よりも男性の方が「女性を政策決定の場に積極的に登用する」の割合が11.5ポイント、「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う」の割合が10.4ポイント高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する	各種団体の女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う	女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスなどを充実する	学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
女性	223	20.2	17.0	10.8	14.3	18.4	47.1	17.0
男性	186	24.7	28.5	14.5	24.7	18.8	37.6	21.0

区分	女性の生き方に関する情報提供や交流・相談・教育の場となる施設を充実する	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する	広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	社会における女性に対する差別や、女性や子どもに対する暴力について認識し、差別や暴力のない社会を推進する	その他	特になし	わからない	無回答
女性	13.5	0.4	4.5	23.3	1.8	2.7	10.3	8.5
男性	10.2	2.2	5.9	18.8	2.7	3.8	4.3	6.5

【年代別】

～50 歳代の約半数が「保育サービス・医療や介護のサービスの充実」～

年代別にみると、50 歳代で「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスなどを充実する」の割合が約 5 割とどの年代よりも高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する	各種団体の女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う	女性の就業教育や職業訓練を充実する	女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスなどを充実する	学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
20 歳代	48	29.2	20.8	16.7	16.7	25.0	43.8	8.3	
30 歳代	45	28.9	33.3	13.3	24.4	40.0	42.2	13.3	
40 歳代	55	30.9	21.8	10.9	16.4	16.4	41.8	16.4	
50 歳代	82	20.7	25.6	12.2	22.0	12.2	48.8	22.0	
60 歳以上	176	16.5	19.3	11.9	17.6	15.9	40.9	22.2	

区分	女性の生き方に関する情報提供や交流・相談・教育の場となる施設を充実する	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する	広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力について PR する	社会における女性に対する差別や、女性や子どもに対する暴力について認識し、差別や暴力のない社会を推進する	その他	特になし	わからない	無回答
20 歳代	18.8	2.1	4.2	29.2	2.1	4.2	6.3	4.2
30 歳代	2.2	—	4.4	20.0	4.4	2.2	4.4	—
40 歳代	5.5	—	7.3	23.6	1.8	1.8	14.5	3.6
50 歳代	14.6	2.4	4.9	22.0	1.2	6.1	1.2	6.1
60 歳以上	13.6	1.1	4.5	18.8	2.3	2.3	9.7	11.4

【経年比較】

～前回調査と同じ傾向～

市の平成 20 年度、17 年度調査と比較すると、大きな数値の差は見られず、同じような傾向になっています。

単位：%

	男女平等を旨とした法律・制度の制定や見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する	各種団体の女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う	女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスなどを充実する	学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	女性の生き方に関する情報提供や交流・相談・教育の場となる施設を充実する
田原市(H23.10)	22.1	22.4	12.4	19.0	18.7	42.8	18.7	11.9
女性	20.2	17.0	10.8	14.3	18.4	47.1	17.0	13.5
男性	24.7	28.5	14.5	24.7	18.8	37.6	21.0	10.2
田原市(H20.8)	22.7	16.5	11.6	17.8	15.1	43.7	18.8	8.9
女性	20.7	12.0	7.8	17.5	13.4	49.8	19.4	8.3
男性	25.8	22.0	16.5	18.1	16.5	35.7	18.7	9.3
田原市(H18.3)	28.3	30.0	15.3	23.0	23.6	51.9	34.1	17.6
女性	23.5	25.5	12.1	19.4	25.8	59.8	31.8	19.7
男性	35.4	36.8	19.6	28.4	20.7	41.4	37.9	14.4

	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する	広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	暴力のない社会を推進する	社会における女性に対する差別や、女性や子どもに対する暴力について認識し、差別や暴力のない社会を推進する	その他	特にない	わからない	無回答
田原市(H23.10)	1.2	5.1	21.2	2.2	3.2	7.5	7.5	
女性	0.4	4.5	23.3	1.8	2.7	10.3	8.5	
男性	2.2	5.9	18.8	2.7	3.8	4.3	6.5	
田原市(H20.8)	2.2	5.9	25.4	2.5	4.4	6.7	8.1	
女性	2.3	6.9	25.8	1.8	4.6	7.8	7.8	
男性	2.2	4.4	25.3	3.3	4.4	4.9	8.2	
田原市(H18.3)	4.2	10.1	-	2.2	6.6	9.2	-	
女性	3.0	10.1	-	1.8	7.3	10.9	-	
男性	6.0	9.8	-	2.8	5.3	6.3	-	

資料：田原市「田原市男女共同参画推進プランに関する市民アンケート調査」（平成 20 年 8 月）

田原市「田原市男女共同参画推進計画推進計画策定にあたっての市民アンケート調査」（平成 18 年 3 月）

## 10 自由回答

男女共同参画に関して自由意見を記入してもらったところ、48人から意見（自由意見欄記入が得られました。主な意見は次のとおりです。

### ①男女共同参画に関して

- ・肉体的、生理的な男女の差を十分に踏まえた、共同企画社会づくりを目指すことが必要。
- ・女性の意見などを低く見ず、女性が立ち上げられる環境をつくる必要がある。
- ・田原市は他の市、都市と比べて男性優位の考え方が特に根強いと感じる。高齢者を中心とした住民の意識を変える必要がある。

…など計16件

### ②意識改革・意識啓発に関して

- ・退職後の国・地域社会・学校・家庭で男女の問題を解決してほしい。性差を理解し、男は女を、女は男を人として尊重、尊敬できるようにしたい。
- ・思いやる心とか助け合う気持ちが薄れてきている。自分より弱い者に優しくするなど、心を豊かに、大切にすべきことを考える必要がある。社会が求めるものに適応すべき。

…など計2件

### ③就労に関して

- ・職場での女性リーダーの格付けを“実力”による判断にて行うことこそ、これからの社会の向上だと思う。
- ・女性が特に差別されたり、仕事場などで不利になったりしているとは思わない。できない人は男性でも差別されている。

…など計4件

### ④子育てに関して

- ・子どもとの時間を得ることの大切さも、忘れてはならない。
- ・父からずっと暴力を受けてきた。母も受けていた。子どもの時は、それをどうしたらよいかわからず、生きることには希望がなくて辛いと思う。そのようにならないような地域社会をつくりたい。
- ・保育園へ入るのに半年も待たされ、とても不安に思う。みんなが安心して子どもをつくれる環境と、保育サービスの支援を願う。

…など計3件

### ⑤行政への要望など

- ・体力や能力に差がありますし、男女がすべて平等になることは難しいが、機会を平等に与えることが、必要。
- ・田原市男女共同企画推進プランを、田原市民が個々理解できるような説明・解説をすることが必要。

…など計7件

### ⑥その他

- ・男女の共同生活の場として、女性の育児生活を守る立場から、交流、社会教育、生涯学習の情報提供で国際交流を推進したい。
- ・アンケートによりいろいろ勉強させてもらった。

…など計16件

# Ⅳ アンケート調査票

## 男女共同参画推進に関する市民アンケート調査

### 調査ご協力をお願い

市民の皆様には、自頃から住みよまづくりにご協力を賜り、お礼申し上げます。田原市では、『田原市男女共同参画推進プラン（平成19年度策定）』に基づき、市民すべてが男女共同参画の十分な理解と意識を持ち、性別に関係なく、あらゆる社会的活動に参加し、男女がお互いに人権を尊重し、自分らしく輝ける魅力的なまちとなることを目指し、様々な事業に取り組んでいるところです。

つきましては、市民の皆様のお考えを調査し、効果的な事業推進のためにアンケートを実施することになりました。このアンケートは、無作為に抽出した市民1,000人に送付させていただきますので、お忙しいところ誠に申し訳ですが、調査にご協力いただけますようお願い申し上げます。

なお、この調査は無記名でご回答いただき、調査結果は統計的に処理いたしますので、個別の回答等を公表してご迷惑をおかけすることはありません。

平成23年9月 田原市長 鈴木克幸

### ◆ ご記入にあたってのお願い ◆

1. 当てはまる項目の番号を指定の圈だけ○印で囲んでください。
2. 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、案内にそってお答えください。
3. 記入後は、無記名のまま同封の返信用封筒に入れて、3月29日（木）までに郵便局へよへ投函して下さい（郵便料不要です）。なお、調査票の集計は業者が行いますが、調査結果は行動計画に随する資料として使用し、物には転用いたしません。
4. このアンケートについてのお問合せは下記までお願いいたします。

田原市役所 市民課連絡 市民協働課 TEL0531-23-5504

## 1 あなたご自身のことについてお聞きします。

問1 あなたの性別についてお答えください。(1つに○印)

1. 女性
2. 男性

問2 あなたの年齢についてお答えください。(1つに○印)

1. 30代
2. 30代
3. 40代
4. 50代
5. 60代以上

問3 職業についてお答えください。(1つに○印)

(2つ以上仕事をお持ちの方は、主なものを1つお答えください。ここで働いているとは、週に1時間以上働いていることとします。出産休暇、育児休業中の人は働いていないものとみなします。)

1. 自営業主 (農林漁業、商工サービス業、自由業など)
2. 専業主婦者 (農林漁業、商工サービス業、自由業など)
3. 会社員 (管理職、専門技術職、事務職、労働職など)  
 専任技術職 プログラマー、医師、教員、保育士など
4. 無職 (専業主婦・主夫、学生、その他の無職など)

問4 仕事は、問3で「3. 勤め人」と答えた方のみにお聞きします)

問4 その仕事は常勤（フルタイム）ですか、パートタイムですか。(1つに○印)

1. 常勤（フルタイム）
2. パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他）
3. その他（ ）

問5 あなたは現在結婚していますか。(1つに○印)

1. 結婚している。または結婚していないがパートナーと暮らしている
2. 結婚していない
3. 結婚していたが、離婚または死別した
4. その他（ ）



※題名、題字は、題字で「1」を省略している、または省略してはいけないがハードコピーで送られている」と書えただけにお聞きします。

問6 あなたの配偶者またはパートナーの勤務形態についてお答えください。(1つに○印)

1. 自営業主 (農林漁業、産工サービスマ、自由業)
2. 家族経営者 (農林漁業、産工サービスマ、自由業)
3. 勤め人 (管理職、専門技術職、事務職、労働職)
  - ※ 専門技術職、プログラマー、医師、教員、保育士など
4. 無職 (専業主婦・主夫、学生、その他の無職)

※題名、題字は、題名で「3」を省略している、または省略してはいけないがハードコピーで送られている」と書えただけにお聞きします。

問7 その仕事は常勤 (フルタイム) ですか、パートタイムですか。(1つに○印)

1. 常勤 (フルタイム)
2. パートタイム (パート、アルバイト、嘱託その他)
3. その他 ( )

問8 あなたの家族構成についてお答えください。(1つに○印)

1. 単身世帯 (1人)
2. 夫婦のみ (1世帯世帯)
3. 親と子 (2世帯世帯)
4. 親と子と孫 (3世帯世帯)
5. その他 ( )

問9 田原市に住んでから何年になりましたか。(1つに○印)

1. 3年未満
2. 3～5年未満
3. 5～10年未満
4. 10～20年未満
5. 20年以上

## 2 男女平等についてお聞きします。

【全国の方にご確認ください】

問10 政府は、男女共同参画推進本部を設置し、男女共同参画社会の実現を目指し、積極的に取り組んでいることを以前からご存知でしたか。(1つに○印)

1. 内容を含め詳しく知っていた
2. 大いた知っていた
3. 男女共同参画社会という言葉は聞いたことがあった
4. 知らなかった

※ 男女共同参画社会とは

女性も男性も性別にとらわれないことなく、社会のあらゆる分野における役割に参画する機会が確保され、個性と能力を最大限発揮できる社会

【全国の方にご確認ください】

問11 あなたは、田原市において男女共同参画社会が必要な理由は何だと感じますか。(2つまで○印)

1. 男女の平等に基づく人権を確立するため
2. 政策・方針決定過程に、男女の意見を反映させ、民主主義の成熟を図るため
3. 男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、多様な生き方を選択できるようにするため
4. 少子・高齢化の進捗に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に生かしていくことが必要になるため
5. 女性の地位と能力の向上のために、国連などが採択する世界的な取り組みに参画する必要があるため
6. その他 ( )
7. わからない
8. 必要でない

【全国の方にご確認ください】

問12 現在、田原市において、男女共同参画社会の実現が十分進められていない主な原因は何であるとお考えでしょうか。(1つに○印)

1. 家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること
2. 職場などにおいて、女性に不利な扱いがなされていること
3. 社会全般に男性優位の考え方や慣行が根強いこと
4. 家庭や地域社会より仕事を重視する意識が男性や女性にあること
5. 男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと
6. その他 ( )
7. わからない
8. 十分達成されている

【全国の方にお願いします】

問13 社会全体で見た場合は、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
(1つ選べ)

1. 男性の方が非常に優遇されている
2. どちらかといえば男性の方が優遇されている
3. 平等である
4. どちらかといえば女性の方が優遇されている
5. 女性の方が非常に優遇されている
6. わからない

【全国の方にお願いします】

問14 次のような分野において、男性、男女は平等になっていると思いますか。  
(1から5までそれぞれ1つずつ選べ)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性	平等	どちらかといえば女性	女性の方が非常に優遇されている	わからない
①家庭生活の場で	1	2	3	4	5	6
②職場で	1	2	3	4	5	6
③地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
④社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
⑤法律や制度上で	1	2	3	4	5	6
⑥政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑦学校教育の場で	1	2	3	4	5	6

【全国の方にお願いします】

問15 仕事と、家庭生活または地域活動について、人の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。  
(選んでそれぞれ1つずつを選び、○印)

①男性の生き方

1. 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
2. 家庭生活または地域活動にも関わりますが、あくまで仕事を優先させる
3. 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
4. 仕事にも関わりますが、家庭生活または、地域活動を優先させる
5. 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
6. わからない

②女性の生き方

1. 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
2. 家庭生活または地域活動にも関わりますが、あくまで仕事を優先させる
3. 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
4. 仕事にも関わりますが、家庭生活または、地域活動を優先させる
5. 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
6. わからない

【全国の方にお願いします】

問16 あなたは、次ぎにあげる男女共同参画社会に関する言葉を知っていますか。  
(該当する項目すべてに○印)

1. 男女共同参画社会基本法
2. 女子差別撤廃条約
3. ガジティブ・アクション (精神的虐待防止)
4. ジェンダー (社会的性別)
5. 男女雇用機会均等法
6. ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)
7. DV (配偶者からの暴力)
8. その他 (具体的に)
9. 知らない

### 3 結婚、家庭生活についてお聞きします。

【配偶者またはパートナーと暮らし始めている方にお聞きします】

問17 あなたの家庭での役割について、現状をお答えください。  
 (①から⑤でそれぞれ1つずつ○印)

	すべて女性が担当	男性に女性より担当程度	男女同じ程度	女性に男性より担当程度	すべて男性が担当	わからない 回答する人 がいない 回答がない
①掃除	1	2	3	4	5	6
②洗濯	1	2	3	4	5	6
③食事のしたく	1	2	3	4	5	6
④食事の残片付け、 食器洗い	1	2	3	4	5	6
⑤ゴミ出し	1	2	3	4	5	6
⑥近所づきあい	1	2	3	4	5	6
⑦乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
⑧子どもの教育	1	2	3	4	5	6
⑨介護	1	2	3	4	5	6
⑩家計の管理	1	2	3	4	5	6

【配偶者またはパートナーと暮らし始めている方にお聞きします】

問18 あなたの家庭での役割について、理想をお答えください。  
 (①から⑤でそれぞれ1つずつ○印)

	すべて女性が担当	男性に女性より担当程度	男女同じ程度	女性に男性より担当程度	すべて男性が担当	わからない 回答する人 がいない 回答がない
①掃除	1	2	3	4	5	6
②洗濯	1	2	3	4	5	6
③食事のしたく	1	2	3	4	5	6
④食事の残片付け、 食器洗い	1	2	3	4	5	6
⑤ゴミ出し	1	2	3	4	5	6
⑥近所づきあい	1	2	3	4	5	6
⑦乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
⑧子どもの教育	1	2	3	4	5	6
⑨介護	1	2	3	4	5	6
⑩家計の管理	1	2	3	4	5	6

【全員の氏名を隠します】

問 18 男性が家事・育児・介護にたずさわるためには、どのようにしたらよいと思いますか。(2つまで〇印)

1. 家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う
2. 仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める
3. 通勤時間の短縮、労働時間の短縮、育児・介護休暇の普及等を図る
4. 家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える
5. 学校で児童や生徒に、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える
6. 男性への家事講座、情報提供、相談窓口など行政の支援施策を実施する
7. その他(具体的に：)
8. たずさわらなければならない

【全員の氏名を隠します】

問 20 結婚、家庭、離婚について、あなたのご意見に最も近いものをお答え下さい。(1)から5)でそれぞれ1つずつ〇印)

	賛成	い ど い ち も ば ら い だ ら い	い ど い ち も ば ら い だ ら い	反 対	わ か ら な い
①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
②女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚するほうがよい	1	2	3	4	5
③女性も結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5
④夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
⑤結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
⑥結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5
⑦一層に、今の社会では結婚すると女性の方が不利である	1	2	3	4	5

B

【全員の氏名を隠します】

問 21 少子化が社会問題となっています。あなたが特に大きな要因と思うのはどれですか。(3つまで〇印)

1. 子育てや教育にかかる費用の経済的負担が大きいため
2. 経済危機のため安定した雇用生活が考えられないから
3. 子育てへの父親等の参加・協力が得られないから
4. 仕事を続けながらの子育ての両立が困難だから
5. 育児などに対する理解が得られないから
6. 育児に関する支援制度が不十分だから
7. 結婚しない男女が増えたから
8. 女性の結婚年齢が高くなったから
9. 出産や育児に対し精神的・肉体的負担が大きいため
10. 結婚や子どもをもつことに対する価値観が変わってきたから
11. 少ない子どもに十分に手をかけて育てたいから
12. 子育てが自分や家族の生き方の妨げとなるから
13. 産前産後や社会保険など、将来に不安があるから
14. その他(具体的に：)
15. わからない

4 子育て、子どもの教育についてお聞きします。

【全員の氏名を隠します】

問 22 「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」という考え方について、どのように思いますか。(1つに〇印)

1. 男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい
2. 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てた方がよい
3. どちらともいえない

【子どもを初産婦の方に相談します】

問 23 男女平等の意識を育てるために、学校教育ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(3つまで〇印)

1. 生活指導や道徳指導において、男女の別なく能力を伸ばすように配慮する
2. 教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす
3. 異性を思いやる気持ちや心を育てる心の教育を充実させる
4. 男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける
5. 性に対する正しい知識や性の意識、母性保護の重要性についての学習を推進する
6. 女性の人間性の商品化について考える機会を設ける
7. 職員や保護者に男女平等の研修を推進する
8. 管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく
9. 出席簿の欄や付らぬの欄など、男女を分ける欄をなくす
10. その他( )
11. わからない

9

## 5 働くことについてお聞きします。

【問24～28は女性の方にお聞きします】

問24 あなたの退職経緯についてお答えください。(1つに○印)

1. かつて働いていた退職の経緯があり、現在は専業主婦している ⇒ 題25△
2. かつて働いていた退職し、現在無職 ⇒ 題25、26△
3. 就業経験なし ⇒ 題26△
4. 就業中で退職経験なし ⇒ 次ページ△

【問24】で「1. かつて働いていた退職の経緯があり、現在は就業している」「2. かつて働いていた退職し、現在無職」と選んだ方のみにお聞きします

問25 かつて退職した理由をお答えください。(1つに○印)

1. 結婚
2. 出産
3. 育児
4. 介護
5. それ以外の理由

【問24】で「2. かつて働いていた退職し、現在無職」「3. 就業経験なし」と選んだ方のみにお聞きします

問26 現在無職、または就業経験のない理由をお聞かせください。(1つに○印)

- 働く意志はあるが、
1. 育児により働けない
  2. 家事により働けない
  3. 介護により働けない
  4. 配偶者もしくはパートナー、家族が女性に家について家事をすることが良いと思っいるから
  5. 働きたい職種での雇用がない
  6. 職種を問わず雇用がない
  7. それ以外の理由 ( )
- 働く意志がなく、その理由として
8. 女性は家について家事をすることが良いと思っている
  9. それ以外の理由 ( )

【空欄の方にお聞きします】

問27 一時的に女性が職業(農業・商業など)を営む)をもつことについて、あなたはどうか考えますか。(1つに○印)

1. 女性は職業をもたない方がよい
2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
4. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
5. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
6. その他 ( )
7. わからない

【仕事をしている方全員にお聞きします】

問28 あなたが現在働いているのは、どのような理由からでしょうか。(主なものを1つに○印)

1. 生計を立てるため
2. 家計の足しにするため
3. 自分で自由に使えるお金を得るため
4. 自分の能力・技術・資格を活かすため ( )
5. その他 ( )
6. 特に理由はない
7. わからない

【仕事をしている方全員にお聞きします】

問29 あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性は男性に比べ(不当に差別されている)と思いますか、別にそのようなことはないと思いますか。(1つに○印)

1. 不当に差別されていると思う ⇒ 題30△
2. そのようなことはないと思う ⇒ 次ページ△
3. わからない ⇒ 次ページ△

【問29で「1. 不当に差別されていると思う」と選んだ方にお聞きします】

問30 それは具体的にどのようなことですか。(1つに○印)

1. 賃金に差別がある
2. 昇進、昇格に差別がある
3. 能力が主に評価されない
4. 補助的な仕事しかやらせてもらえない
5. 女性を幹部職員に雇用しない
6. 結婚したら子どもが生まれたら、仕事を続けにくい雰囲気がある
7. 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある
8. 教育・訓練を受ける機会が少ない
9. その他 ( )
10. わからない

【全国の方にお願いします】

問31 女性が安心して働ける職場をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで○印)

1. 給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する
2. 職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する
3. 夫や家庭が理解し協力する
4. 育児・介護休業制度を拡充させる
5. 夫の育児・介護休業を促りやすくする
6. 産前・産後・生理休暇などを取りやすくする
7. 育児・保育に対する支店や施設、サービスを充実させる
8. 介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる
9. 女性労働者に対する相談窓口などを設置する
10. その他（ ）

【仕事をしている方にお願いします】

問32 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。(あなたの希望に該当するもの2つに○印)

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい
8. わからない

【仕事をしている方にお願いします】

問33 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。(あなたの現在の状態に該当するもの1つに○印)

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている
8. わからない

## 6 地域活動・社会活動についてお聞きします。

【全国の方にお願いします】

問34 あなたは、どのような地域活動に参加していますか。また、今後参加したいと思う地域活動は何ですか。

(それぞれ最優先する項目すべてに○印)

	現在 参加 している	将来 参加 したい	思い つよ い 参加 したい と な る
①自治会・町内会活動	1	2	3
②女性団体活動	1	2	3
③PTA活動	1	2	3
④子ども会・青少年活動	1	2	3
⑤ボランティア活動などの社会奉仕活動	1	2	3
⑥その他			

【問34で「特に参加していない、参加したいと思わない」並びどつでも選んだ方にお願いします】

問35 地域活動に参加していない主な理由は何ですか。(3つまで○印)

1. 子どもの世話や老人の介護
2. 仕事が忙しい
3. 家事が忙しい
4. 経済的に余裕がない
5. 配偶者や家族の理解がない
6. 必要な能力がない
7. 近所の人の目がある
8. 自分の性格に合わない
9. 活動する時間がいない
10. 活動する場がない
11. 役員や世話人にさせられそうだから
12. その他（ ）

【配偶者またはパートナーと暮らしている方にお聞きします】

問 36 地域活動の中で、あなたのご家庭での男女の役割分担について、現状をお答えください。  
(1から5までそれぞれ1つずつ○印)

	担当している女性	担当している男性	分担し合っている	担当している女性	担当している男性	分担し合っている	担当している女性	担当している男性
①自治会・町内会活動	1	2	3	4	5	6		
②女性団体活動	1	2	3	4	5	6		
③PTA活動	1	2	3	4	5	6		
④子ども会・青少年活動	1	2	3	4	5	6		
⑤ボランティア活動などの社会奉仕活動	1	2	3	4	5	6		
⑥その他	1	2	3	4	5	6		

【全員の方にお聞きします】

問 37 女性が地域社会を代表する立場として、地道づくりに参画する場合、その割合についてどう思いますか。(地域社会を代表する立場の例としては、町議会議員、行政の委員、地域団体の代表者・役員等です。)  
(1-2まで○印)

1. 半分は女性の代表者が占めるべきだと思う
2. 今よりも少し女性の代表者が増えるといい
3. 現状のままで良い
4. 女性の代表者は必要ない
5. わからない

【全員の方にお聞きします】

問 38 県政では、法令・条例制定者への女性の登用率が約 20%と低いです。それはどのような理由からだとお思いますか。(2つまで○印)

1. 女性自身が社会進出に消極的だから
2. 女性の社会進出をよく思わない社会風潮があるから
3. 女性の社会進出を支える条件整備が十分だから
4. 家庭があるため女性は社会進出できない
5. 知識力など女性の能力が男性ほど高くないから
6. その他 ( )

## 7 介護についてお聞きします。

【全員の方にお聞きします】

問 39 現在、介護は主にどのような形でを行っていますか。(1-2まで○印)

1. 配偶者が世話をしている
2. 親や嫁などの家族の女性が世話をしている
3. 息子が世話をしている
4. 家族全員で世話をしている
5. 介護保険制度などのサービスを利用している
6. 介護保険施設(特別養護老人ホームなど)を利用している
7. その他 ( )
8. 該当する人がいない

【全員の方にお聞きします】

問 40 あなたは、将来、要介護者などの身のまわりの世話は、どのような形をとるのが最も望ましいと考えますか。(1-2まで○印)

1. 配偶者が世話をする
2. 親や嫁などの家族の女性が世話をする
3. 息子が世話をする
4. 家族全員で世話をする
5. 介護保険制度などのサービスを利用する
6. 介護保険施設(特別養護老人ホームなど)を利用する
7. その他 ( )

## 8 人権についてお聞きします。

【全員の方にお願いします】

問41 セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスについて、自分が経験したり、そのような話を聞いたことがありますか。  
(それぞれ1つずつ○印)

	自分 が経験 した こと がある 経験 なし	自分 が周 りに いる 人に 経験 した こと がある 経験 なし	自 己 知 る 人 に 経験 した こと がある 経験 なし	言 え る 人 に 経験 した こと がある 経験 なし	聞 いた こと がある 経験 なし
セクシュアル・ハラスメント	1	2	3	4	5
ドメスティック・バイオレンス	1	2	3	4	5

セクシュアル・ハラスメントとは  
相手の意に反した性的な言動、身体への不必要な接触、性的嫌悪の表現、性的な行為を強要し、言葉や態度に表れる差別、性的な言動や行為による精神的苦痛、身体的苦痛、身体的健康被害の発生をいいます。  
ドメスティック・バイオレンスとは  
夫（パートナー）や恋人からの女性に対する暴行のことを指します。法律上の離婚が前提でなく、事実上の婚姻関係にある間でも、女性に対して行われる身体的・心理的暴力を含みます。

【全員の方にお願いします】

問42 あなたはこれまでに、あなたのまたは妻や恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。(当てはまるものいくつでも○印)

1. 命の危険を感じるくらい暴行をうけたことがある
2. 医師の診断が必要となる程度の暴行をうけたことがある
3. 医師の診断がなくてもかなりの程度の暴行をうけたことがある
4. いやがっているのに性的行為を強要されたことがある
5. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられたことがある
6. 何を言っても無視され続けたことがある
7. 交友関係や電話を断かく監視されたことがある
8. 「だれのおかげで生活できるんだ」などと言われたことがある
9. 大声でどなられたり、暴言を吐かれたことがある
10. 生活費をわたされなかったり、経済的におさえつけられたことがある

16

【全員の方にお願いします】

問43 夫または妻や恋人からの行為について、だれかに打ち明けたら、相談したりしませんでしたか。

1. どの（だれ）にも相談しなかった

2. 相談した

【問43で「1. どの（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします】

問44 どの（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。

(当てはまるものいくつでも○印)

1. どの（だれ）に相談してよいのが分からなかったから
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3. 相談してもむだだと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しをうけたり、もっとひどい暴力をうけると思ったから
5. 相談をした相手の行動によりかえりかえって不体な思いをすることになったから
6. 自分さえがまんすれば、なんとかがこのままとっていけると思ったから
7. 相談先が悪いから
8. 他人を巻き込みたくなかったから
9. そのことについて思い出したくなかったから
10. 自分にも悪いところがあると思ったから
11. 相談するほどのことでもないと思ったから
12. その他（具体的に： )

17



## 9 男女共同参画の施策についてお聞きします。

【全国にわたって調査します】

問 45 男女共同参画社会の推進のためには、どのようなことにおを入れていくべきだと思いますか。(3つまで○印)

1. 男女平等を目指す法律・制度の制定や見直しを行う
2. 女性を政策決定の場に積極的に登用する
3. 各種団体の女性のリーダーを養成する
4. 職場における男女の役割分担について関係機関を行う
5. 女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を実施する
6. 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスなどを充実する
7. 学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
8. 女性の働き方に關する情報提供や交流・相談・教育の場となる施設を充実する
9. 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する
10. 広報紙やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてまとめる
11. 社会における女性に対する差別や、女性や子どもに対する暴力について認識し、差別や暴力のない社会を推進する
12. その他( )
13. 判にない
14. おからない

最後に、男女共同参画社会づくりについてのご意見や、ご要望などございましたら、

ご自由に記入ください。

これでアンケート画面は終わりです。ご協力ありがとうございます。

**田原市 男女共同参画推進に関する市民アンケート調査  
調査結果報告書**

**平成 23 年 10 月**

発行 田原市役所 市民環境部 市民協働課  
〒441-3492  
田原市田原町南番場 30 番地 1  
T E L 0531-23-3504  
F A X 0531-23-0180